

生活と環境に関する仙台市民意識調査 報告書

平成6年(1994年)3月

調査主体 生活環境研究会
調査実施 平成5年(1993年)11月

まえがき

この報告書は、生活環境研究会が生活系廃棄物に関しておこなった第三次調査の基本報告書である。

生活環境研究会は、1988年に東北大学文学部行動科学研究室を中心に結成されて以来、スパイクタイヤ問題や生活廃棄物問題など、生活に直結した環境問題に関する調査研究を展開してきたが、生活廃棄物に取り組んだ発端は、1989年春に仙台市環境事業局（現・環境局）から調査を委託されたことであった。われわれが調査票の設計を担当したこの調査は、1989年7月に実施され、報告書『生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査』が同年11月に公表されたが、この結果は合併後の新仙台市が廃棄物に関する統一方策を策定するための基礎資料として重要な役割を果たした。

われわれはさらに、1991年度には(財)第一住宅建設協会および(財)地域社会研究所の助成金を得て、仙台市民を対象とした調査を自ら企画し、仙台市環境事業局（現・環境局）の協力のもとに、1991年9月に「暮らしとごみに関する仙台市民意識調査」と題する第二次調査を実施した。この調査報告書は1992年3月に公表されている。

以上の調査研究を踏まえて、生活環境研究会はさらに研究の展開を企図した。幸いにも1992年度と1993年度の2年度にわたって(財)旭硝子財団からの助成金を得ることができた。そこで、1992年度は調査の準備に充て、1993年度に入ってから調査に直結する本格的な準備を始めた。それ以来、調査の基本設計から調査票の設計、実査、入力、集計、回答者への速報の配布を経て、ここに基本報告書を刊行する運びとなった。これは、別に記す研究会メンバー、ことに3名の大学院生の努力の賜である。

しかし、それと同時に、一つの都市を基盤にしたささやかな調査であれ、この仕事が多くの人々の組織や個人の支えによって成り立ったものであることを、われわれは改めて感じている。財政的に支えてくださった旭硝子財団の方々、専門的知識の提供や助言、サンプリングを初め種々の段階でご援助いただいた仙台市環境局の局長をはじめとする関係職員の方々、そして、やっかいな回収に尽力してくれた調査員の学生諸君、さらに、1200を超える回答者の皆様。我々の仕事は、少なくともこれらの人々なしでは不可能であった。この機会に改めて感謝申し上げたい。

今日の社会において、環境問題の重要性を疑う人はいない。したがって、われわれの課題は、その重要性を声高に喧伝することではなく、それを具体的に制御する方策を考えることである。われわれ行動科学を学ぶ者にとっては、この問題をめぐる人間行動のメカニズムを明らかにし、それに対応する制度を設計することが課題となる。この調査では特に、(1)ごみ排出容器や処理困難物などに関する現行制度の評価、(2)ごみ減量やコンポスト容器などに関する意識と行動、(3)エコマークや過剰包装などの消費行動、(4)ごみ処理の費用負担と公平感、以上の側面について重点的に検討し、これまでの研究の展開を図った。この調査結果は、今後に予定しているさらに詳しい分析と相まって、効率的かつ公正で人々が対応可能な制度を設計するための、重要な礎石となるであろう。

1994年3月

生活環境研究会
(代表：海野 道郎)

過剰包装に関する意識，使い捨て商品に関する意識（有効性 問6 手間意識 問7 規範意識 問22 他者行動認知 問23 協力可能性 問31） 考察 消費場面におけるごみ減量意識の規定因	
2.3.2.商品購入の基準	32
商品購入の基準 問24 コスト負担の限界 問30 考察 商品購入の基準と環境にやさしい商品の購入の関係	
2.3.3.環境にやさしい商品の購入	35
エコマーク商品との接触度 問13 環境にやさしい商品に対する不満 問33 考察（1） エコマーク商品接触度の規定因 考察（2） エコマーク商品接触度と環境にやさしい商品に対する不満	
2.4.ごみ収集・処理の費用負担	
2.4.1.有料化への意識	37
望ましい費用負担方法 問28 有料化による意図せざる効果の認知 問29 考察 有料化への意識の規定因	
2.4.2.ごみ収集・処理費用の公平な負担	39
公平な費用負担原理 事業一般 問21 家庭ごみ 問27A 粗大ごみ 問27B 費用負担原理の認知 問26A 費用負担の公平感 問26B 考察（1） 公平な費用負担原理の規定因 考察（2） 費用負担の公平感の規定因	
2.5.回答者の特性	
2.5.1.回答者本人の基本属性	42
回答者の性別と年齢 問34 回答者の学歴 問35 回答者の従業上の地位 問36 回答者世帯構成 問37 回答者世帯収入 問38 回答者加入団体 問16	
2.5.2.家計支持者について	44
家計支持者続柄 問39A 家計支持者の従業上の地位 問39B 家計支持者従業先規模 問39C 家計支持者職業 問39D	
2.5.3.社会意識	46
階層帰属意識 問15 生活満足感 問1 全般的不公平感 問3 政党好感度 問20 政治的有効性感覚 問17 発言力・影響力 問18 つきあいの程度 問19 自然と人間との関係 問2	
3.まとめと今後の課題	49
4.付録	
4.1.調査依頼の葉書	55
4.2.調査依頼状（調査ご協力のお願ひ、仙台市のごみ収集区分について）	57
4.3.調査票	61
4.4.単純集計表	73
4.5.回収時の訪問票、お礼状	91
4.6.調査のお礼と結果のお知らせ（回答者への速報）	93
4.7.仙台市の生活ごみの収集形態	107
4.8.調査の日程	111
4.9.主要な項目と回答者の特性とのクロス集計表	115

凡 例

1. DK/NAは、わからない/こたえない (Don't Know / No Answer) を表す。
2. 『 』は、問の各選択肢を合併した場合に用いる。例えば、問1で「1 満足している」と「2 どちらかといえば満足している」を合併して、新しくカテゴリーを作った場合、『満足』などと用いる。
3. 「GOMI91調査」は、生活環境研究会が1991年9月に行った「暮らしとごみに関する仙台市民意識調査」のことを示す。
4. 本文中や図表中の%の基数(100%の人数)は、特にことわりのない限り、全サンプル数の1228人である。
5. 本文中や図表中の%は、四捨五入のため、合計が100%になるとは限らない。
6. 問の各選択肢を本文中や図表中で引用する場合は、適宜簡略化した言い方を用いるので、正確な言葉づかいは巻末の付録調査票を参照されたい。
7. 考察部分のクロス集計(男女別、年齢別の集計など、ある問のカテゴリーごとに他の問を集計すること)では、とても小さなカテゴリーができるのを避けるため、DK/NAを除いて集計している。(除かずに集計した場合には、例えば性別について無回答の人はとても少ないので、性別が無回答でかつ問1で1と答える人はほとんどおらず、クロス集計を行った場合、とても人数の小さなカテゴリーができてしまう。)

本報告書の要約

1. 調査の企画と実施

本調査は、生活環境研究会（代表：海野道郎 東北大学文学部教授）が、仙台市環境局の協力を得て実施したものである。生活環境研究会が調査の企画と実施をおこなうにあたり、環境局から、調査対象の抽出作業、専門的知識および情報の提供など、側面的な協力を得た。

調査の主な目的は、ごみ問題を中心とした環境問題を解決するための条件と解決の可能性を、個人の環境問題に対する行動と意識の関連に着目して探ることである。

調査対象は仙台市住民基本台帳から無作為に選ばれた1500世帯であり、該当世帯における主な家事担当者に記入をお願いした。

対象世帯へは1993年11月上旬に調査票を郵送し、調査員が11月12日（金）から15日（月）にかけて各世帯を訪問し、調査票を回収した。回収率は81.9%（1228票）である。

2. 調査結果の分析

2.1. 現行のごみ処理制度の利用と評価

2.1.1. ごみ排出容器について

- ・透明袋への賛否 『透明がよい』とするごみ袋の賛成派は7割以上であり、2年前の調査と比べて大幅に増加した。
- ・透明袋への意見 危険ごみ、資源ごみの混入が減るといった、肯定的意見が多い（それぞれ7割、5割）。自分のごみが他人に見えてしまうという否定的意見も約4割。
- ・現在使っている家庭ごみの排出容器 7割が「市販の指定袋」、5割が「指定マーク付きの買い物袋」を使っている（複数回答）。いつも市の指定している容器を使っている人が全体の94%。

2.1.2. 粗大ごみ、処理困難物について

- ・粗大ごみ排出時に困ること 「収集回数が少ないので、保管しておくのがたいへんだ」という答えが約4割ともっとも多く、集積所の遠さや収集時間についての不満がそれに次ぐ。
- ・処理困難物 「市の粗大ごみ収集」に出されることが多いのは、暖房機器、中型・小型家電製品である。「新しいものを買った店が引き取り」が多いのは、大型家電製品、自動車、タイヤ、原動機付き自転車、消火器、バッテリー、「資源ごみ収集」に出されることが多いのは、カセットコンロなどのガスボンベや薬品類であった。

2.1.3. 処理施設建設について

- ・処理施設建設の条件 処理施設建設に賛成する場合の条件としては、「公害・事故が無い」（8割）、「事前に十分な説明があること」（6割）をあげる人が多い。
- ・処理施設建設に対する行動 最も多いのは「何もしない」（4割）、次いで「行政の説明会に参加」（1割弱）、「行政と話し合う」、「町内会などで話し合う」の順だった。

2.2. ごみ減量：意識と行動

2.2.1. ごみ問題に関する意識

- ・ごみ問題の心配度 心配度は総じて高い。「使い捨て商品による天然資源の浪費」「大量のごみの処理の困難さ」は9割の人が、「ごみ処理費用が自治体の財政を圧迫」は8割の人が『心配だ』と回答した。

2.2.2. ごみ減量行動と意識

- ・ごみ減量行動の実行 8割弱の人が何らかのごみ減量行動を実行していた。実行の理由は、「当然」「ごみ問題解決に役立つ」が多く、不実行の理由は、「手間がかかる」「習慣」が多かった。
- ・資源回収に関する意識 資源回収やちり紙交換に古新聞などを出すことについて、9割の人が『今後協力できる』『実行すべきだ』『ごみ問題解決に有効』『他の市民が実行している』と回答したが、『手間がかかる』という回答が5割ほどあった。

2.2.3. コンポスト容器（生ごみ堆肥化容器）

- ・コンポスト容器の使用 コンポスト容器を現在使用しているという人は7%ほどだったが、「まだ持っていないが、使いたいと思う」という人が3割ほどいた。また、「使うつもりはない」という人は6割弱だった。容器使用の理由は、「ごみ問題解決に役立つ」「堆肥が使える」が多く、不使用の理由は、「置き場所が無い」「習慣が無い」が多かった。
- ・コンポスト容器に関する意識 コンポスト容器を使用することについて、『ごみ問題解決に有効』『使用すべきだ』という人が8割弱いたのに対し、『今後使用できる』『他の市民が使用している』『手間がかからない』という人は少なかった。

2.3. 消費行動

2.3.1. 商品購入時のごみ減量意識

- ・過剰包装に関する意識 過剰包装を断ることについて、『今後協力できる』『実行すべきだ』『ごみ問題解決に有効』という人は9割ほどいたが、『手間がかからない』は6割、『他の市民が実行している』は1割強しかいなかった。
- ・使い捨て商品に関する意識 使い捨て商品を買わないことについて、『今後協力できる』『実行すべきだ』『ごみ問題解決に有効』という人は8割以上いたが、『手間がかからない』は6割強、『他の市民が実行している』という人は1割強しかいなかった。

2.3.2. 商品購入の基準

- ・商品購入の基準 トイレットペーパーやティッシュペーパーを買う際に重視することとして、「値段」をあげた人が8割弱、「品質・機能」をあげた人がほぼ半分いた。
- ・コスト負担の限界 普通のトイレットペーパーが500円で売っているときに、品質はそれと同じだが再生紙を使ったトイレットペーパーをいくらで買うか、という質問をしたところ、『同じ金額なら』という人が6割いた。また、『500円以上でも再生紙の方を買ってもよい』という人が1割強いた。

2.3.3. 環境にやさしい商品の購入

- ・エコマーク商品との接触度 「エコマークを目安にしたことはないが、エコマーク商品を買ったことはある」という人が全体の5割強だった。また、「エコマークを目安にして商品を買ったことがある」「エコマークについて見たり聞いたりしたことはある」という人を加えると8割弱の人が何らかのかたちでエコマークと接触していたことになる。
- ・環境にやさしい商品に対する不満 環境にやさしい商品についての不満としては、5割強の

人が「どのくらい環境保全に役立つかわからない」、4割強の人が「広報活動が足りない」、4割弱の人が「どんな分野で環境保全に役立つかわからない」をあげた。

2.4. ごみ収集・処理の費用負担

2.4.1. 有料化への意識

- ・望ましい費用負担方法 家庭ごみに関しては「すべて税金で」という回答者が6割を占める。一方、粗大ごみを「すべて税金で」という意見は2割ほどで、家庭ごみに比べて有料化に肯定的な意見が多い。
- ・有料化による意図せざる効果の認知 ごみの収集・処理を有料化した場合に生じる問題として、回答者の4割が「不法投棄が増える」ことを挙げている。

2.4.2. ごみ収集・処理費用の公平な負担

- ・公平な費用負担原理（事業一般） 行政がおこなう事業一般に関しては、「収入に応じて」という負担基準を公平と考える人が多かった。「誰もが同じ額」については否定的な回答の方が多い。
- ・公平な費用負担原理（ごみの収集・処理） 家庭ごみについては意見が分かれているが、粗大ごみについては「ごみの量に応じて」という意見が6割近くを占めている。
- ・費用負担原理の認知 回答者の5割強が、現在は「各世帯が同じ額ずつ負担している」と認識している。「収入に応じて」という現実にもっとも近い選択肢を選んだのは3割である。
- ・費用負担の公平感 現在の費用の負担について「公平だ」「どちらかといえば公平だ」をあわせて約7割の回答者が肯定的に評価している。

2.5. 回答者の特性

2.5.1. 回答者本人の基本属性

- ・回答者の性別と年齢 「家事を主に担当している方」に回答を依頼したため、7割が女性であった。年齢構成は、20代から50代までで全体の8割を占めた。ただし、男性では10代から20代の若年層と60代の高齢層が比較的多かった。
- ・回答者の学歴 全体で「新制高校」が4割、「大学」が2割を占めた。男性では「大学」、女性では「新制高校」が比較的多かった。
- ・回答者の従業上の地位 全体で「常時雇用されている一般従業員」が3割、「専業主婦」が3割弱だった。
- ・回答者世帯構成 全体で「1人暮らし」が3割、「2人暮らし」が2割を占めた。特に男性ではほぼ半数が「1人暮らし」であった。
- ・回答者世帯収入 100万円以上500万円未満で全体の5割強を占めた。
- ・回答者加入団体 回答者が加入している団体は、「町内会・自治会」が7割、「消費者団体」が4割、「スポーツ・娯楽・趣味の団体やサークル、学習・研究サークル」が3割であった。

2.5.2. 家計支持者について

- ・家計支持者続柄 回答者と回答者の家庭の家計支持者との続柄は、「夫または妻」が5割、「本人」が4割だった。特に女性では「夫または妻」が7割弱、男性では「本人」が8割強と多かった。
- ・家計支持者の従業上の地位 家計支持者の従業の地位は、「常時雇用されている一般従業員」が6割、「自営業」が1割を占めた。また「無職（年金生活者など）」が1割、「学生」が5%ほどいた。
- ・家計支持者従業先規模 家計支持者が勤務している組織の従業員の数は、「100～999人」が

2割強、「1000人以上」が2割、「官公庁」が1割を占めた。

- ・家計支持者職業 家計支持者の勤務先での仕事は、「専門的職業」「熟練・労務的職業」「管理的職業」「販売的職業」がそれぞれ2割を占めた。

2.5.3. 社会意識

- ・階層帰属意識 過半数は自分の階層を「中の下」と答えている。次いで「中の上」「下の下」となっている。
- ・生活満足感 現在の自分の生活に関して7割以上が『満足している』と答えた。男女別では、女性の方が『満足』の比率が高い。
- ・全般的公平感 現在の日本社会については回答者の半数は「あまり公平でない」と答えており、「公平でない」を合わせると7割以上が『公平でない』と評価していることになる。
- ・政党好感度 好きな政党としてもっとも多く回答者が挙げたのは26%の日本新党であった。しかし、4割弱の回答者が「どの政党も好きではない」と答えている。
- ・政治的有効性感覚 「政治より自分の仕事に精出したほうがよい」という意見に対しては『そう思う』との回答が6割以上を占めた。しかし「政治はやりたい人にまかせておけばよい」という意見に対しては否定的な回答が多い。
- ・発言力・影響力 自分の発言力や影響力が『ある』という回答は、「消費者団体や生協」では2割強、「町内会くらいの地域の人々」では2割、「仙台市の政策」では1割強であった。
- ・つきあいの程度 「町内会や自治会の役員」「市や県の職員」に関してはつきあいが『ある』との回答が3割以上を占めるが、「地方議会議員」「大企業の経営者」とつきあいが『ある』のは1割前後である。
- ・自然と人間との関係 人間が幸福になるためには「自然を利用しなければならない」という回答が5割強を占めて最も多いが、「自然に従わなければならない」も4割強である。「自然を征服しなければならない」という回答者は3%に過ぎない。男女別では、女性の方が「自然に従う」の比率が高い。

1 . 調査の企画と実施

1.1. 調査企画の経緯

生活環境研究会は、東北大学文学部行動科学研究室を中心に結成されて以来、「スパイクタイヤ問題」や「環境と資源問題」を通して環境問題に関わってきた。この間、1989年には仙台市環境事業局（当時、現在は環境局）の委託で『生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査』を実施したが、本研究会はその結果をふまえてさらに分析をおこない、地域の共有物としてのごみ集積所をめぐる住民の意識と行動との関連（海野・松野、1990）や、ごみの分別に影響を与えている要因を明らかにした（海野ら、1991）。また、1991年には、それまでの研究をふまえ、社会科学的な視点（一人一人の行為とそれらの行為が集積することによって生じる社会的な帰結との関連）からごみ問題へアプローチすべく、仙台市民を対象とした調査を企画し、仙台市環境事業局（現環境局）の協力のもとに、1991年に実施した。調査結果の分析は、地域的コミュニケーションがごみ排出行動におよぼす影響（小松ら、1993）や、ごみ処理費用の負担原理と公平感（阿部ら、1993）などに着目しておこなわれた。

1993年に、生活環境研究会では、これまでの研究のさらなる発展を目的として、再び仙台市民を対象とした今回の調査を独自に企画することとなった。他方、仙台市では、政令指定都市に移行して2年後の1991年4月から、廃棄物処理に関する統一方策を実施していたが、そのような現行のごみ処理システムに対して評価をおこない、その結果をごみ処理行政に生かしたいという意向を持っていた。そこで、調査に当たっては、生活環境研究会が調査主体として仙台市環境局と意見を交換しつつ調査の企画と実施をおこない、仙台市環境局が側面的協力をすることとなった。

1.2. 調査の目的

今回の調査の主な目的は、ごみ問題を中心とする環境問題に対して社会科学的に取り組み、環境問題を解決するのに必要な条件と解決の可能性を、個人の環境問題に対する行動と意識の関連に着目して探ることである。調査で取り上げる具体的な課題としては、1) 現行のごみ処理システムの利用状況と評価、2) 環境問題への協力行動の現状と課題、3) 環境に優しい消費行動の促進の条件、4) ごみ処理費用の負担の問題があげられる。

1.3. 調査票の設計

1.3.1. 基本方針

基本的には、標準的な社会調査法にしたがっておこなった（注）。

調査票の設計にあたっては、前述の目的を考慮するとともに、環境問題に関して実施された先行調査との比較可能性や、生活環境研究会で今後も実施する調査との継続性にも配慮した。具体的には、基本項目として、回答者の属性のほかに満足感などの意識項目を配した。また、質問は、SSM調査などの先行調査で用いられたものをできる限り採用した。

1.3.2. 質問項目の構造

以上の基本方針にもとづき、質問項目を作成した。その際、われわれ生活環境研究会が過去におこなったものも含めて、いくつかの先行調査を参考にしている。次頁からの表は、調査の内容に沿って質問項目を分類し、そうした先行調査における問との関連を示したものである。なお、問の順序は本報告書の構成に従っており、実際の調査票の順序とは異なる。

【表1の見方】

- ・本調査のすべての問について、質問の略称、問番号のほかに、本報告書での掲載頁を記した。問番号のあとに「*」の記号がついているのは、本調査で独自に作成した質問である。
- ・生活環境研究会あるいは東北大学文学部行動科学研究室が実施・協力した先行調査については、調査の略称とその調査での問番号を示した。
- ・他の機関による調査との関係については、「他の調査」の欄に調査の略称を示した。略称のあとの2桁の数字は、その調査が実施された年を表している。
- ・質問文に一部修正を加えた場合には、問番号または調査の略称のあとに「+」の記号をつけた。

【先行調査の名称と概要】

- ・HIGH1：(第1次)教育と社会に対する高校生の意識調査。1987年に仙台都市圏の高校生とその両親を対象におこなわれた。調査主体は東北大学文学部教育文化研究会(事務局:行動科学研究室内)。〔報告書:東北大学文学部教育文化研究会(編).1988.『教育と社会に対する高校生の意識-第1次調査報告書-』東北大学文学部教育文化研究会(発行).〕
- ・SPIKE：生活環境に関する仙台市民の意識調査。1988年に合併前の旧仙台市で市民を対象におこなわれた、スパイクタイヤ問題を中心にした調査。生活環境研究会が実施。報告書は未刊(準備中)。
- ・HIGH2：(第2次)教育と社会に対する高校生の意識調査。1988年に宮城県下の高校生とその両親を対象に実施された。調査主体は教育文化研究会。〔報告書:海野道郎・片瀬一男(編).『教育と社会に対する高校生の意識-第2次調査報告書-』東北大学文学部教育文化研究会(発行).〕
- ・GOMI89:生活環境(ごみ等)に関する市民意識調査。1989年に仙台市環境事業局(現在は環境局)が仙台市民を対象におこなった。生活環境研究会は調査票の作成、実査、分析、報告書作成を担当した。〔報告書:仙台市環境事業局(編).1989.『生活環境(ごみ等)に関する市民意識調査報告書』仙台市環境事業局(発行).〕
- ・COOP90:環境と資源問題に関する組合員の意識調査。1990年にみやぎ生活協同組合が家庭班員を対象におこなった。生活環境研究会は調査票の作成と結果の分析、報告書の作成を担当した。〔報告書:みやぎ生活協同組合生活文化部(編).1990.『環境と資源問題に関する組合員の意識調査報告書』みやぎ生活協同組合生活文化部(発行).〕
- ・GOMI91:暮らしとごみに関する仙台市民意識調査。1991年に、仙台市環境事業局(現在は環境局)の協力のもと、生活環境研究会が企画・実施した。対象は仙台市民。〔報告書:生活環境研究会.1992.『暮らしとごみに関する仙台市民意識調査報告書』仙台市環境事業局(発行).〕
- ・COOP93:福祉等に関する組合員意識調査。1993年に宮城県消費生活協同組合連合会が、連合会を組織する生協・農協の家庭班員を対象におこなった。東北大学文学部行動科学研究室内の社会計画研究会が調査票の基本設計と報告書の作成を担当した。〔報告書:宮城県消費生活協同組合連合会

(編).1993.『福祉等に関する組合員意識調査報告書』宮城県消費生活協同組合連合会(発行).]

- ・SSM：社会階層と社会移動全国調査（略称：SSM調査）。国民性調査とならび、日本における代表的な社会調査の一つである。1955年以来、数多くの社会学者が協力して10年ごとに実施しており、最新の調査は1985年。〔報告書：直井ら(編)1990.『現代日本の階層構造』(全4巻)東京大学出版会(発行).〕
- ・国民性：日本人の国民性調査。統計数理研究所が、1953年から1993年まで5年ごとに実施している。分析結果は、これまで5冊わたる報告書にまとめられている。〔報告書：統計数理研究所国民性調査委員会(編).1992.『第5日本人の国民性 戦後昭和期総集』出光書店(発行).など〕
- ・ごみ処理：ごみ処理に関する世論調査。内閣総理大臣官房広報室が、1988年に実施した。
- ・地球環境：地球環境問題に関する世論調査。内閣総理大臣官房広報室が、1990年に実施した。

表1. 質問項目一覧

	GOMI93 (本調査)	C00P93 GOMI91 C00P90 GOMI89 HIGH12 SPIKE HIGH1	他の調査	
	問番号	参照ページ	問番号	略称
現行のごみ処理制度の利用と評価				
透明袋への賛否	Q5	14, 15, 16	Q28B+	
透明袋への意見	Q9*	14, 16		
現在使っている家庭ごみの排出容器	Q8	15, 17	Q14A+	
粗大ごみ排出時に困ること	Q25	18, 19	Q28E+	
処理困難物の処分法	Q32*	18		
処理施設建設の条件	Q10	20, 21, 22		ごみ処理88+
処理施設建設に対する行動	Q11*	20		
ごみ問題に対する意識と行動				
ごみ問題心配度	Q4	23, 24, 38, 41	Q8+	
ごみ問題対処行動有効性	Q6	25, 26, 28, 30, 31	Q25+	
ごみ問題対処行動手間意識	Q7	25, 26, 28, 30, 31, 32	Q26+	
ごみ問題対処行動規範意識	Q22*	25, 26, 28, 30, 31		
他者のごみ問題対処行動の認知	Q23*	25, 26, 28, 30, 31		
ごみ問題対処行動協力可能性	Q31	25, 26, 28, 30, 31	Q30+	
コンポストの使用	Q12A*	27, 29		
コンポストの使用/未使用の理由	Q12B*	27		
ごみ減量行動の実行	Q14A*	24, 26		
ごみ減量行動の実行/不実行の理由	Q14B*	25		

消費行動			
商品購入の基準	Q24 33,34		地球環境90+
コスト負担の限界	Q30 33,34		地球環境90+
エコマークとの接触度	Q13 35,36		地球環境90+
環境にやさしい商品に対する不満	Q33* 35,36		
ごみ収集・処理の費用負担			
望ましい費用負担方法	Q28* 37,38		
有料化による意図せざる効果の認知	Q29* 37		
公平な費用負担原理（事業一般）	Q21 39,40	Q35+	
公平な費用負担原理（ごみの収集・処理）	Q27 39,40,41	Q32+	
費用負担原理の認知	Q26A* 39		
費用負担の公平感	Q26B 40,41	Q31+	
回答者の属性			
回答者の性別	Q34A 21,23,35,42,43,44, 46,47,48	Q37+ Q40A Q29 Q58+ Q1+ Q37+ Q1A	
回答者の年齢	Q34B 15,32,35,42	Q37+ Q40B Q29+ Q57+ Q37+ Q1B	
回答者の学歴	Q35 42	Q41 Q30 Q42+	
回答者の従業上の地位	Q36 17,19,43	Q37+ Q42+ Q31+ Q61+	
回答者の同居家族数	Q37 29,43	Q37+ Q37+ Q26+ Q59+	
回答者の世帯収入	Q38 24,38,41,43	Q38+ Q39+ Q41+	
回答者の組織加入	Q16* 44		
家計支持者との続柄	Q39A 44	Q37+ Q38A Q32A+ Q60A	
家計支持者の従業上の地位	Q39B 45	Q37+ Q38B Q60B	
家計支持者の従業先の規模	Q39C 45	Q38C+ Q60C+	
家計支持者の職業	Q39D 45	Q39D Q32B Q60D	
社会意識			
階層帰属意識	Q15 46	Q23 Q37 Q36	SSM85, 国民性88+
生活満足感	Q 1 46	Q23 Q22 Q13 Q36 Q24 Q36a+ Q17	SSM85+, 国民性88+
全般的な不公平感	Q 3 47	Q 3 Q 4 Q15 Q 4 Q17a Q35 Q12a	SSM85
政党好感度	Q20 47		SSM85+
政治的有効性感覚	Q17 16,22,47	Q25 Q20 Q17 Q33	SSM85
発言力・影響力	Q18 48		SSM75+
つきあいの程度	Q19 48		SSM75+
自然と人間との関係	Q 2 48		国民性88

1.4. 調査対象者と標本抽出法

母集団は、1993年9月30日現在に仙台市住民基本台帳に記載されている全世帯（約36万世帯）である。

標本の選出は2段無作為抽出法（確率比例抽出法）によっておこなった。第1次抽出単位として仙台市内122の小学校区から50校区を選出した。抽出された校区は表2の通りである。なお、世帯数が300に満たない小学校区は隣接校区と合併して一つの校区とみなしたが、今回の調査では、合併をおこなった校区は抽出されなかった。

第2次抽出単位（世帯）は、第1次抽出単位である小学校区ごとにランダムに決めたスタート番号から10世帯おきに30世帯を抽出した。したがって、30世帯×50校区で標本数は1500世帯となる。

調査票は世帯主名で郵送し、その世帯の「主な家事担当者」に記入をお願いした。

表2. 第1次抽出単位（小学校区）一覧

No.	小学校区名	抽出世帯数	総世帯数	No.	小学校区名	抽出世帯数	総世帯数
1	木町通	30	4503	26	北仙台	30	5454
2	立町	30	6004	27	八木山	30	6614
3	東六番丁	30	5975	28	鶴谷	30	4397
4	荒町	30	4831	29	大和	30	5374
5	上杉山通	30	7270	30	燕沢	30	2365
6	通町	30	5573	31	桜丘	30	4224
7	連坊小路	30	6540	32	中野栄	30	3239
8	榴岡	30	5691	33	八木山南	30	2630
9	八幡	30	7181	34	川平	30	3643
10	原町	30	7191	35	蒲町	30	2909
11	長町	30	5510	36	西中田	30	3953
12	向山	30	7071	37	東宮城野	30	2182
13	北六番丁	30	4212	38	田子	30	1913
14	中田	30	2547	39	上愛子	30	979
15	岩切	30	3880	40	七北田	30	5032
16	高砂	30	3331	41	黒松	30	3962
17	東長町	30	3353	42	南光台	30	5622
18	小松島	30	5712	43	向陽台	30	3391
19	国見	30	7255	44	松森	30	1575
20	宮城野	30	5553	45	長命ヶ丘	30	3001
21	荒巻	30	5528	46	寺岡	30	1890
22	台原	60	7927	47	松陵	30	857
23	旭丘	30	3669	48	西山	30	2605
24	中山	30	4563	49	栗生	30	2099
25	上野山	30	3106				

注) 各小学校区から30世帯を抽出するが、No.22の台原小学校区のみは、第一次抽出の際、2回抽出されたので、この中から60世帯を抽出している。そのため、抽出した小学校区は49だが、抽出世帯数の合計は1500となる。

1.5.実施の方法

対象世帯にあらかじめ調査票を郵送し、調査員が訪問して回収する、郵送併用の留め置き法を用いた。なお、調査票を郵送する前に、調査依頼の葉書（付録4.1.を参照）を対象世帯に郵送しておいた。それぞれの日程は以下の通りである。

調査依頼の葉書郵送：1993年10月21日（木）

調査票郵送：1993年11月4日（木）

調査票回収：1993年11月12日（金）～11月15日（月）

上記の手順にしたがい、11月12日から調査員が各対象者の世帯を訪問して調査票を回収した。12日（金）から14日（日）までは全校区を調査員が訪問し、15日（月）は、未回収の世帯のある地区を重点的に訪問した。15日までに回収できなかった世帯については、可能な限り切手と封筒をお渡しし郵送による返送をお願いした。配布した1500票のうち有効回収票は1228票であった。したがって、回収率は81.9%である。

調査不能は合計272票であり、その内訳は、表3のとおりである。

表3．第1次抽出単位別の不能票の内訳

No.	小学校区名	総世帯数	回収数	不能数						その他
				拒否	不在	転居	病気	高齢	郵送依頼	
1	木町通	4503	19	1	6	1	1	0	3	0
2	立町	6004	18	3	4	3	1	1	0	0
3	東六番丁	5975	24	1	3	2	0	0	0	0
4	荒町	4831	23	2	1	1	0	1	2	0
5	上杉山通	7270	20	0	9	1	0	0	0	0
6	通町	5573	20	3	3	2	0	1	1	0
7	連坊小路	6540	25	3	0	1	0	1	0	0
8	榴岡	5691	25	1	1	1	1	0	1	0
9	八幡	7181	27	2	1	0	0	0	0	0
10	原町	7191	25	0	2	0	1	0	0	2
11	長町	5510	26	0	2	0	2	0	0	0
12	向山	7071	23	4	1	0	1	0	1	0
13	北六番丁	4212	25	4	1	0	0	0	0	0
14	中田	2547	26	4	0	0	0	0	0	0
15	岩切	3880	26	1	1	1	0	0	0	1

不能数

No.	小学校区名	総世帯数	回収数	拒否	不在	転居	病気	高齢	郵送依頼	その他
16	高砂	3331	23	4	1	0	0	0	0	2
17	東長町	3353	25	2	2	0	0	0	0	1
18	小松島	5712	23	1	2	1	2	1	0	0
19	国見	7255	19	2	6	0	2	0	0	1
20	宮城野	5553	21	2	4	2	0	0	0	1
21	荒巻	5528	21	1	8	0	0	0	0	0
22	台原	7927	24	1	2	0	0	0	2	1
23	旭丘	3669	22	2	2	2	0	0	0	1
24	中山	4563	25	1	4	0	0	0	0	0
25	上野山	3106	25	1	3	1	0	0	0	0
26	北仙台	5454	28	0	2	0	0	0	0	0
27	八木山	6614	28	1	0	1	0	0	0	0
28	鶴谷	4397	25	1	0	3	0	0	0	1
29	大和	5374	27	2	0	1	0	0	0	0
30	燕沢	2365	27	0	0	3	0	0	0	0
31	桜丘	4224	23	1	0	1	1	0	1	3
32	中野栄	3239	27	2	1	0	0	0	0	0
33	八木山南	2630	29	0	0	0	0	0	0	0
34	川平	3643	28	1	0	0	1	0	0	0
35	蒲町	2909	24	1	2	2	0	0	1	0
36	西中田	3953	27	2	0	1	0	0	0	0
37	東宮城野	2182	24	2	1	1	0	0	0	2
38	田子	1913	27	0	1	1	0	0	0	0
39	上愛子	979	19	1	0	0	0	5	0	5
40	七北田	5032	18	2	5	1	0	0	0	4
41	黒松	3962	28	1	1	0	0	0	0	0
42	南光台	5622	22	3	3	1	0	0	1	0
43	向陽台	3391	29	1	0	0	0	0	0	0
44	松森	1575	23	2	3	0	1	0	1	0
45	長命ヶ丘	3001	27	1	2	0	0	0	0	0
46	寺岡	1890	29	0	0	1	0	0	0	0
47	松陵	857	30	0	0	0	0	0	0	0
48	西山	2605	24	2	1	1	1	0	0	0
49	栗生	2099	22	2	5	1	0	0	0	0
50	台原	7927	25	1	3	0	0	0	0	1
51	地区不明		8							
計		1228	75	99	38	15	10	16	24	

注

- 1) 不能のうち「郵送依頼」とは、対象者には会えたが、多忙のため調査票の回収期間内には記入できないと言われた場合などに、郵送をお願いしたもののうち、12月15日現在で調査票が返送されていないものである。
- 2) 51の「地区不明」は、対象者が郵送で調査票を届けてくれたなどの理由で、どこの地区の調査票か不明なものである。したがって、表中のいずれかの地区の不能票と重複して数えられている。
- 3) 台原小学校区は、抽出世帯数が60世帯と多いため、回収の際には22地区と50地区の二つに便宜的に分け、2人の調査員が回収をおこなった。

なお、本調査に先立ち、小規模な予備調査を9月（調査票内容の検討を目的としたもの。対象者数約70）と10月（調査票の最終確認を目的としたもの。対象者数約50）に実施した。

調査にご協力をいただいた方には、粗品として仙台市指定の透明ごみ袋を差し上げた。また、予備調査と本調査の対象者には、「調査のお礼と結果のお知らせ」（回答者への速報、付録4.6.を参照）を1994年1月20日以降にお渡しした。

回答者の特性を述べると、各世帯の「主な家事担当者」に記入をお願いしているため、7割が女性であり、女性の4割弱は専業主婦である。臨時雇用の女性が2割弱、常時雇用が2割強いる。男性は半数が常時雇用である。女性は40歳代、男性は20歳代がともに3割弱でもっとも多い。なお、回答者の詳細については「2.5. 回答者の特性」を参照されたい。

（注）例えば、福武（1984）、安田・原（1982）、原・海野（1984）を参照。

引用文献

阿部晃士・小松洋・村瀬洋一・中原洪二郎・海野道郎、1993、「公平な費用負担原理と公平感 - ごみ収集・処理の費用負担をめぐる」。『社会学年報』第22号:103-119 東北社会学会。

福武直、1984、『社会調査 補訂版』 岩波書店。

原純輔・海野道郎、1984、『社会調査演習』 東京大学出版会。

小松洋・阿部晃士・村瀬洋一・中原洪二郎・海野道郎、1993、「地域的コミュニケーションが環境保全行動におよぼす影響 - 家庭ごみ排出行動と近所づきあいとの関連について」。『社会学研究』第60号:115-135 東北社会学研究会。

海野道郎・松野隆則、1990、「地域社会における共有物の管理 - ごみ集積所をめぐる仙台市民の意識と行動」。『日本文化研究所研究報告』別巻第27集:41-57 東北大学日本文化研究施設。

海野道郎・松野隆則・小松洋・土場学、1991、「地域社会における共有物の管理(2) - ごみの分別をめぐる仙台市民の意識と行動」。『日本文化研究所研究報告』別巻第28集:35-53

東北大学日本文化研究施設。

安田三郎・原純輔、1982、『社会調査ハンドブック（第3版）』 有斐閣。



2 . 調査結果の分析

2 . 1 . 現行のごみ処理制度の利用と評価

本調査の目的の一つは、現行のごみ処理制度について、市民の利用状況や評価を明らかにすることである。この節では、現行のごみ処理制度として、ごみ排出容器、粗大ごみや処理困難物、処理施設建設の3つについて取り上げ、調査結果を述べる。

2.1.1.ごみ排出容器について

透明袋への賛否（問5）

仙台市は1988年までに3つの市町と合併し、1989年4月より政令指定都市となった。合併時には、旧市町ごとに廃棄物処理制度は異なっていたのだが、これを1991年4月より統一し、ごみ排出容器の一つとして市指定の透明ごみ袋を導入した。（なお、仙台市のごみ排出容器には、指定の透明袋（市販のもの、スーパーなどで渡される買物袋の2種類）、ポリバケツ、コンテナボックスがある。仙台市の生活ごみの収集形態については付録4.6.を、ごみ収集区分については、付録4.2.を参照。）

GOMI91調査では透明ごみ袋の賛成派は4分の1程度で、「透明でないほうがよい」という回答の約4割を下回っていたが、今回の調査では『透明がよい』という回答が7割以上と大幅に増加した。今回の調査には「どちらでもよい」の選択肢がないので単純な比較はできないが、91年4月の指定透明袋の導入から2年半以上たち、当初大きかった透明袋への違和感も薄れ、透明袋は市民に受け入れられているようである。

透明袋への意見（問9）

危険ごみ、資源ごみの混入が減るといった、肯定的意見が多い（それぞれ7割、5割）。しかし、自分のごみが他人に見えてしまうという否定的意見も約4割と、それについて多くなっている。透明袋はおおむね高く評価されているものの、

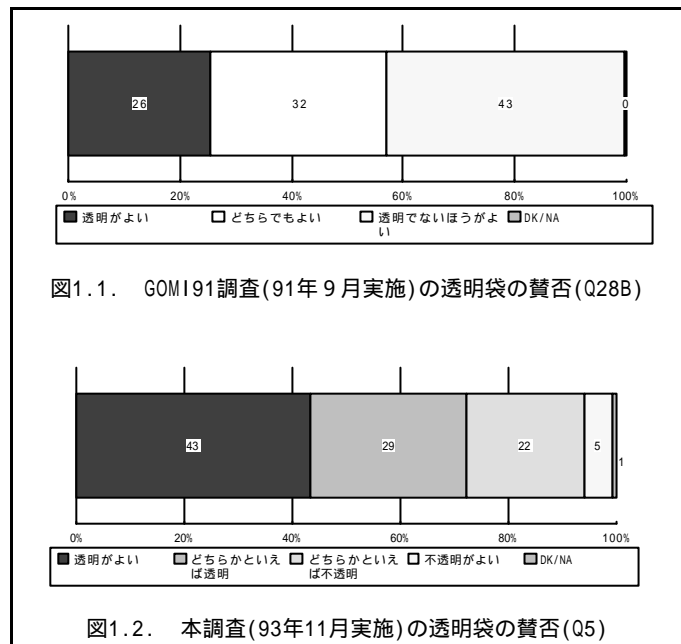


図1.1. GOMI91調査(91年9月実施)の透明袋の賛否(Q28B)

図1.2. 本調査(93年11月実施)の透明袋の賛否(Q5)

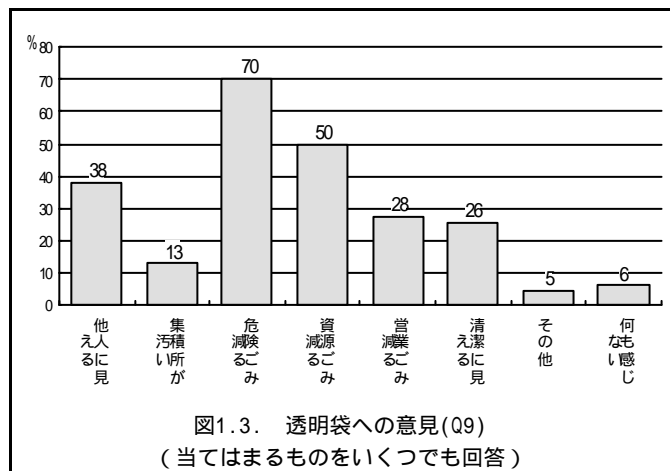


図1.3. 透明袋への意見(Q9)
(当てはまるものをいくつでも回答)

プライバシーについて問題を感じている人が多いようだ。「黒い袋よりも清潔に見える」という回答は「集積所周辺が汚く見える」という回答の倍あり、透明袋の方が従来の黒いごみ袋よりも清潔感があるようである。

現在使っている家庭ごみの排出容器（問8）

家庭ごみ収集にごみを出している方法を聞いたところ、多くの人々が「市販の指定袋」やスーパーなどで買物をしたときにもらえる「指定マーク付きの買い物袋」を使っていると答えている。ポリバケツの中に指定袋を使用している人も1割強存在する。ポリバケツを使用する場合は、必ずしも指定袋を用いる必要はないのだが、バケツに指定以外の袋を使用してい

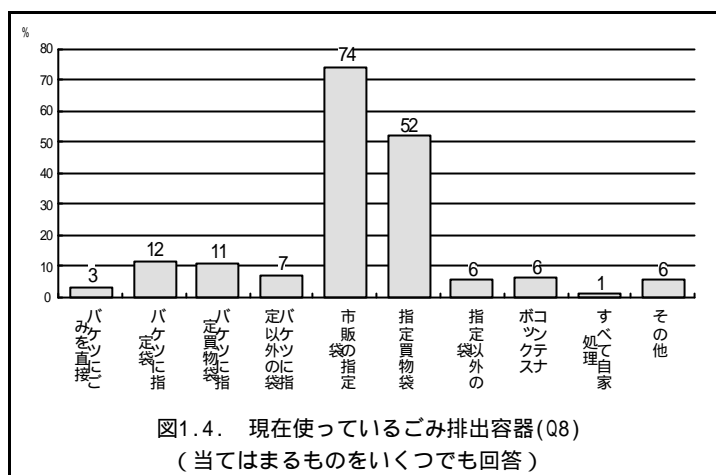


図1.4. 現在使っているごみ排出容器(Q8)
(当てはまるものをいくつでも回答)

る人は7%しかいない。仙台市では、袋、バケツとも家庭ごみ排出容器として認められているのだが、袋の導入後2年半ほどたった調査時点では、袋の使用の方がはるかに多い。

この問は複数回答が可能な問だったので、ルール違反となるのは「指定以外の袋」に を付けたもの(6%)と、「その他」に を付け記述欄に「ダンボール箱」「買い物袋」「営業ごみ袋」に入れて出すなどのように指定容器以外の方法でごみを出している旨の記述があったもの(0.5%程度)である。したがって、いつも排出容器についてのルールを守っている人は約94%ということになる。袋、ポリバケツ、コンテナボックスが排出容器として認められ、市民が選択できる容器が多様なので、ルールを守りやすいのだろうか。

「その他」に を付け、記述欄に文章を記入している回答には、「生ごみを堆肥化したり埋めている」、「燃やせるものは燃やしている」、などが多かった。燃やすこと自体はルール違反ではないのだが、地球温暖化につながる二酸化炭素や、有毒ガスの発生、臭気、煙で近隣に迷惑をかけるなどの問題も懸念される。「資源回収に出している」などの回答の他、「アパート、マンション、寮、下宿の独自の方法で出す」、という回答もあったが、これは入居者がごみを集積所に出すことに直接にはタッチせず、アパートなどの所有者や管理者がおこなっているということだと考えられる。

「その他」と回答して、指定容器以外の方法でごみを出している旨の記述があったものはごく少ない。これは、ルール違反になるようなことは答えにくいめかもしないし、わざわざ「その他」の記述欄に記入してくれる人には、そもそもまめで、まじめな人が多いといったことが影響しているのかもしれない。

考察(1) 透明袋を評価しているのはどのような人か

先に見たように、仙台市指定の透明袋を肯定的に評価する人は、袋の導入当初に比べて大幅に増えている。それでは、袋を評価しているのはどのような人々なのだろうか。袋への賛否について、回答者の属性や意識などとクロス集計を行い、袋を評価している人の特徴について分析した。

まず、透明袋の賛否と回答者の年齢の関係について分析を行った。図1.5.を見ると、年齢が高いほど、袋を肯定的に評価しているという傾向があることが分かる。図1.2.で見たように、「透明がよい」、「どちらかといえば透明がよい」を合わせて、全体では7割強の人が『透明が良い』と答えているが、60歳以上では8割を超えている。29歳以下で『透明がよい』と答える人は6割である。ちなみにこのような傾向は、投票率と年齢の関係とよく似ている。投票率は一般に年を取るほど高いが70歳以上では少し下がる傾向がある。

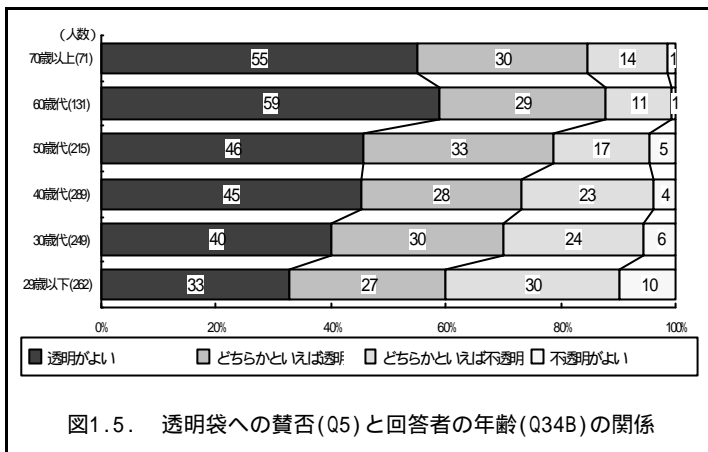


図1.5. 透明袋への賛否(Q5)と回答者の年齢(Q34B)の関係

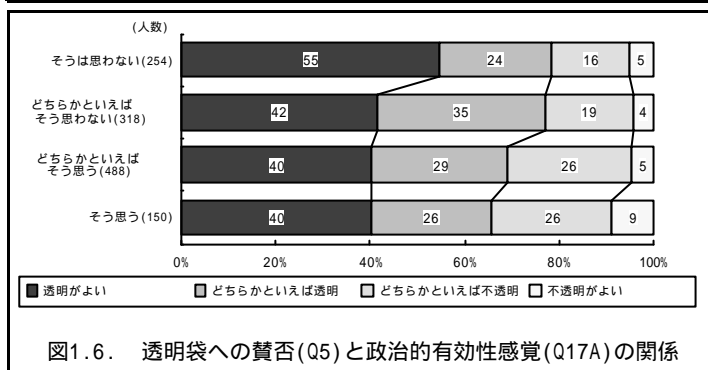


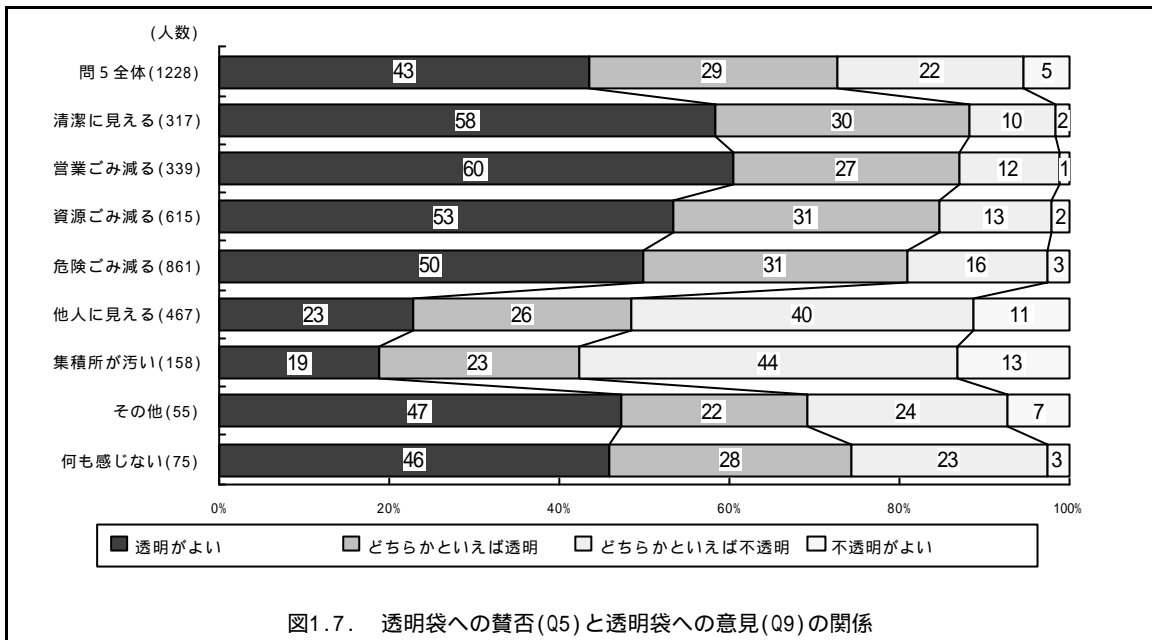
図1.6. 透明袋への賛否(Q5)と政治的有効性感覚(Q17A)の関係

年齢と透明袋への賛否のこのような関係は、年齢が低いほどプライバシーに敏感だということの表れなのだろうか。あるいは、若い人ほど自己中心的で社会全体の事など考えないとか、若い人ほど保守的であるといったことの影響だろうか。あるいは、年齢が高いほど行政の施策に従う傾向があるといったことのために、このような結果が表れたのだろうか。

次に、政治的有効性感覚と透明袋への賛否の関係を見た(図1.6.)。問17Aから問17Dの4つの政治的有効性感覚の中から、比較的、袋への賛否との関連の強いAを選んだ。「政治のことは難しくすぎて自分にはとても理解できない」という意見に対し、「そうは思わない」と答える人ほど、「透明がよい」という答えが多い。つまり、政治的有効性感覚が高い人ほど「透明がよい」と答える傾向があると言える。この結果から推測する限り、行政に対して従属的な人ほど透明袋を評価しているというわけではないようだ。

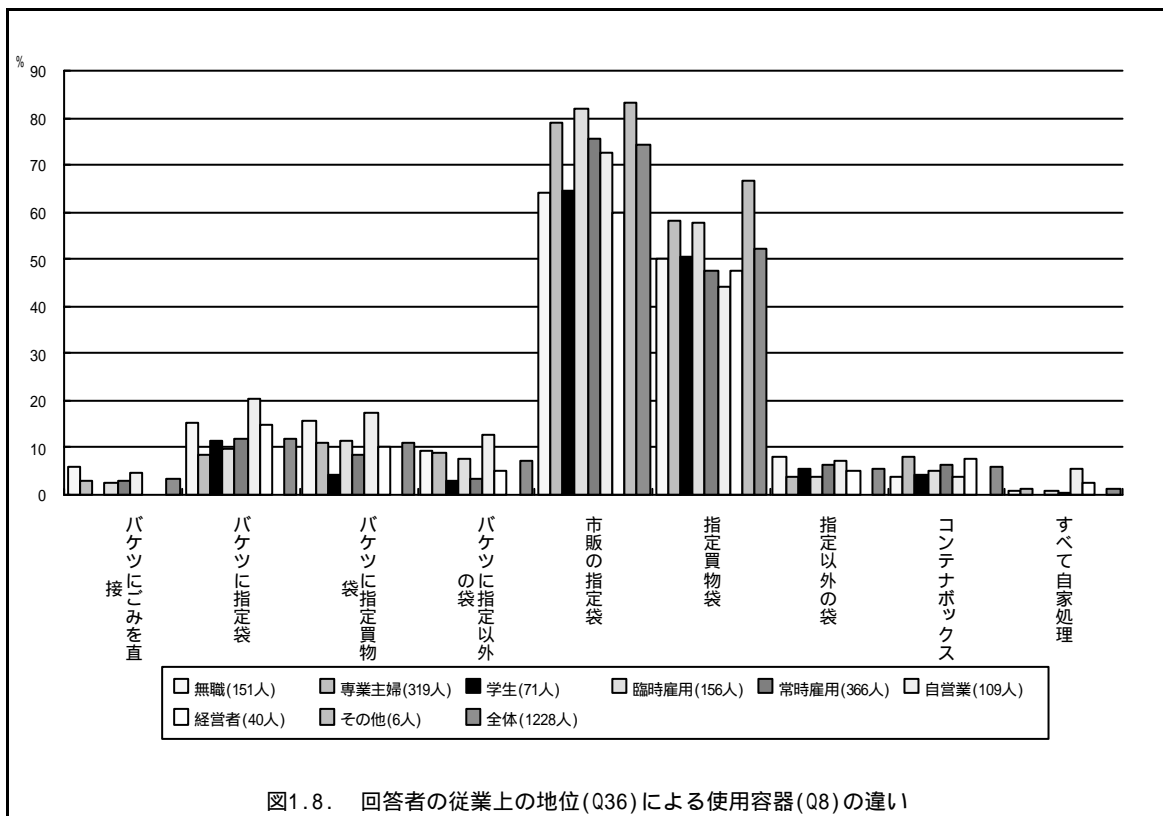
次に、政治的有効性感覚と透明袋への賛否の関係を見た(図1.6.)。問17Aから問17Dの4つの政治的有効性感覚の中から、比較的、袋への賛否との関連の強いAを選んだ。「政治のことは難しくすぎて自分にはとても理解できない」という意見に対し、「そうは思わない」と答える人ほど、「透明がよい」という答えが多い。つまり、政治的有効性感覚が高い人ほど「透明がよい」と答える傾向があると言える。この結果から推測する限り、行政に対して従属的な人ほど透明袋を評価しているというわけではないようだ。

問9の透明袋への意見と透明袋の賛否との関連について分析すると、「営業ごみの混入が減る」、「清潔に見える」といった袋への肯定的意見について、感じると答えている人ほど、『透明がよい』と答えている。「集積所周辺が汚く見える」と感じるという人では、『透明がよい』と答える人は4割程度である。



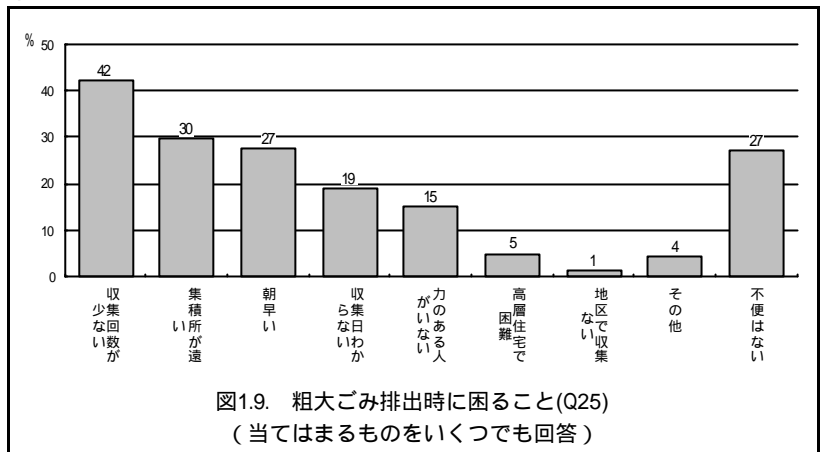
考察(2) どのような人がどのような容器を使っているか

市販の指定袋を使っている人は、臨時雇用、専業主婦の人が比較的多い。臨時雇用には、パートなどの仕事と家事の両方を担当する女性が多く、朝早い時間帯は忙しいために袋が好まれるのであろうか。専業主婦にも指定袋がよく使われているのは、バケツと違って取り込む必要がなく、時間と労力がかからないことが評価されているのだろうか。ポリバケツを比較的使用しているのは、自営業、無職、経営者といった人である。



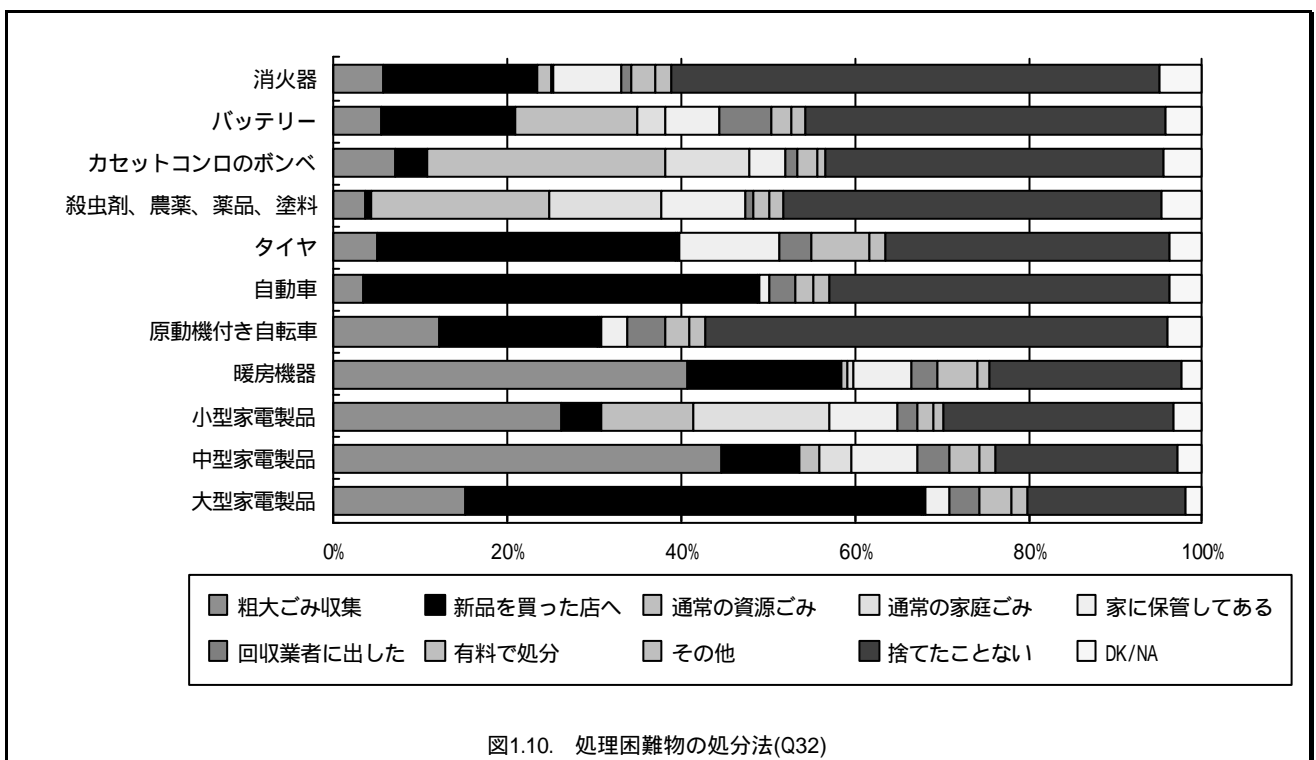
2.1.2.粗大ごみ、処理困難物について
粗大ごみ排出時に困ること（問25）

粗大ごみを出すときに不便なことや困ったことを聞いたところ、「収集回数が少ないので、保管しておくのがたいへんだ」という答えがもっとも多かった。集積所の遠さや時間についての不満が、それに次いで多い。



処理困難物の処分法（問32）

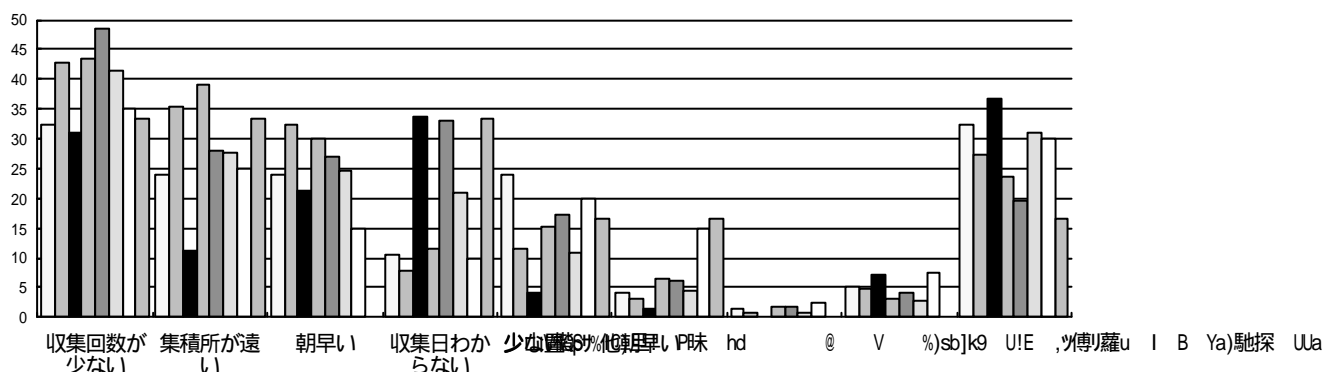
処理が困難と考えられる廃棄物を11種類挙げ、それぞれどのように処理しているかをたずねた。詳しい数字は付録の単純集計表を参照することとして、「市の粗大ごみ収集」に注目すると、これに出されることが多いのは、暖房機器、中型・小型家電製品である。「新しいものを買った店が引き取り」が多いのは、大型家電製品、自動車、タイヤ、原動機付き自転車、消火器、バッテリーである。バッテリーは本来、市では収集しないのだが、「市が行っている空き缶、空きびんなどの資源ごみ収集」に出されていることも多い。「資源ごみ収集」では、乾電池や水銀体温計、蛍光管も回収するので、誤解されているのだろうか。カセットコンロなどのガスボンベや薬品類も「資源ごみ収集」に出されることが多い。小型家電製品、薬品類、カセットコンロのガスボンベは、「通常のご家庭ごみ収集」にも比較的出されている。カセットコンロのガスボンベやスプレー缶は、穴を開けて「資源ごみ収集」に出すことになっているのだが、徹底されていないようだ。「回収業者に



出した」という答えが多いのは、バッテリーや原動機付き自転車であり、「有料で処分」という答えが多いのは、タイヤや暖房機器である。バッテリーやカセットコンロのガスボンベ、薬品類は、あまり大きくなく目立たないためか、通常のごみ収集に出されていることが多く、問題があるといえる。

考察 粗大ごみ排出時に困ることは人によってどのように違うか

問36の従業上の地位との関連を見たところ、「収集回数の少なさ」をもっとも多く答えているのは常時雇用者だった。常時雇用者は時間に余裕がなく、収集日に出せないことが多いということだろうか。「収集日がわからない」を学生や常時雇用者が多く挙げているのは、地域における人的つながりの薄さなどから、地域の情報を得にくいということを反映しているということが考えられる。「集積所の遠さ」を挙げているのは臨時雇用者だった。臨時雇用者には女性が多く、粗大ごみを運ぶのが大変なためだろうか。「朝早い」を不便なこととしてもっとも挙げているのは専業主婦である。専業主婦は、朝にすべき家事などが多く、朝の時間には余裕がないといった事情を反映しているのかもしれない。「不便はない」と答えているのは学生や無職の人である。無職の人は高齢者が多く、粗大ごみを出すことがあまりないこと、また、学生は、粗大ごみを出す時が卒業時などに集中しており出す回数が少ないため、普段はあまり不便を感じていないことなどの影響が考えられる。あるいは、学生はリサイクルショップなどの利用が多く、市の粗大ごみ収集を余り利用しないといたことが影響しているのかもしれない。



2.1.3.処理施設建設について
処理施設建設の条件（問10）

回答者の住んでいる地域に清掃工場やごみの埋立地などのごみ処理施設が建設されることになったという状況を仮定して、賛成する場合の条件をたずねた。「公害・事故が無い」、「事前に十分な説明があること」といった条件をあげる人が多い。なお、「どんな条件があっても賛成しない」や「無条件賛成」と、他の条件を同時に挙げている人もいるが、なんらかの意志があって答えているものと考え、そのまま集計した。

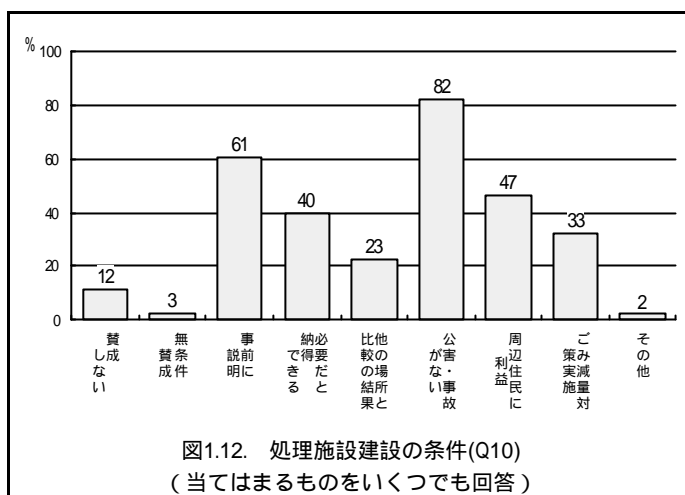


図1.12. 処理施設建設の条件(Q10)
(当てはまるものをいくつでも回答)

処理施設建設に対する行動（問11）

処理施設が建設されることになった場合、人々はどのような行動を取るのだろうか。人々が社会的な決定や政策に対してどのような対応をするのか、政策決定過程に対してどのように参加していくのかを探るために、住んでいる地域にごみ処理施設が建設されることになったという状況を仮定して、自分の意見を政策に反映させるためにどのような行動を取るかを、自由回答で答えてもらった。

自由回答の内容を分類し、ひとりがいくつかの行動を答えている場合は複数回答形式で集計したところ、最も多いのは「何もしない」という回答で、4割だった。無回答と区別するために、質問文中で、何もしない方は何もしないと書いて下さい、と指示しているため、「何もしない」という回答を書きやすかったということがあるかもしれない。次に多いのは「行政の説明会に参加」で1割弱、以下、「説明会以外の場で行政と話し合う」、「町内会などで話し合う」、「（場所や相手は指定せず漠然と）話し合う」の順だった。説明会の参加や、町内会という場の利用など、行政が

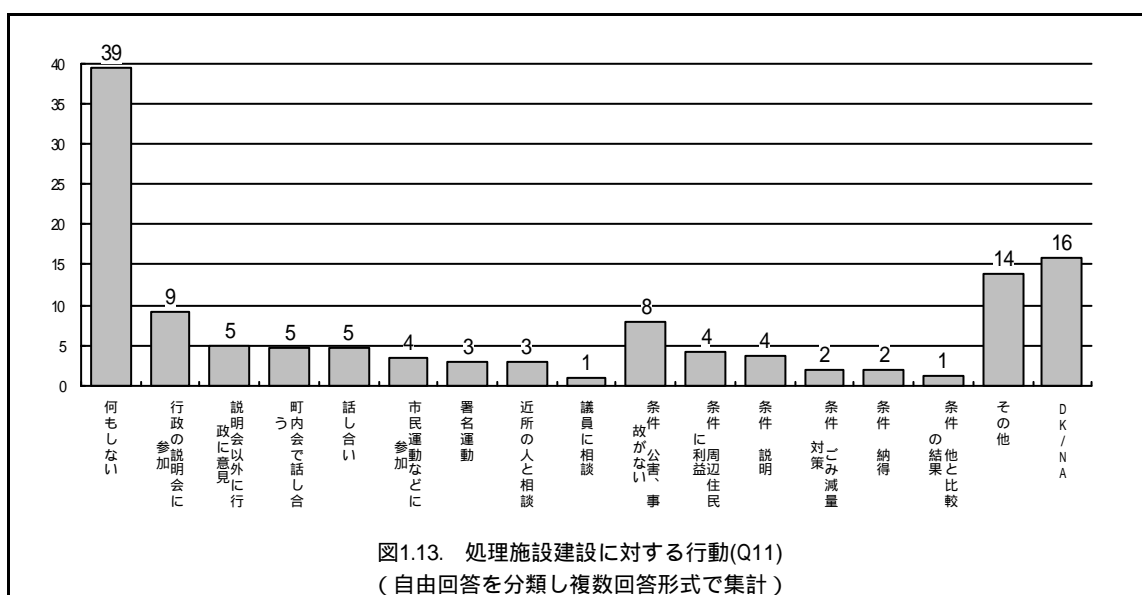


図1.13. 処理施設建設に対する行動(Q11)
(自由回答を分類し複数回答形式で集計)

用意してくれる制度や、既に存在している組織の利用は容易なため、これらの答えが比較的多いのだろうか。この問はどのような行動を取るかについてたずねているのだが、行動についてはなく、問10と同様の条件について答えている人も多かった。これらの条件を求めるための行動を取る、というつもりで書いた人もいようだ。

考察 処理施設建設の際、どのような人がどのような条件を挙げるのか

処理施設建設のさまざまな条件を挙げる人には、どのような特徴があるのかを分析するため、まず、性別と処理施設建設の条件との関連を見てみた。「清掃工場の熱の利用や、埋め立て地の跡地の利用など、周辺住民に利益があること」という条件だけは、男性の方が多く選んでいるが、それ以外の条件については、女性の方がより多く選んでいる。特に、「ごみ減量対策実施」は、男女による違いが大きい。ごみ減量については、男女によって意識が特に大きく違う、といったことの影響があるのだろうか。「絶対反対」という人も女性に多く、女性の方が処理施設に対する拒否感が強いようだ。

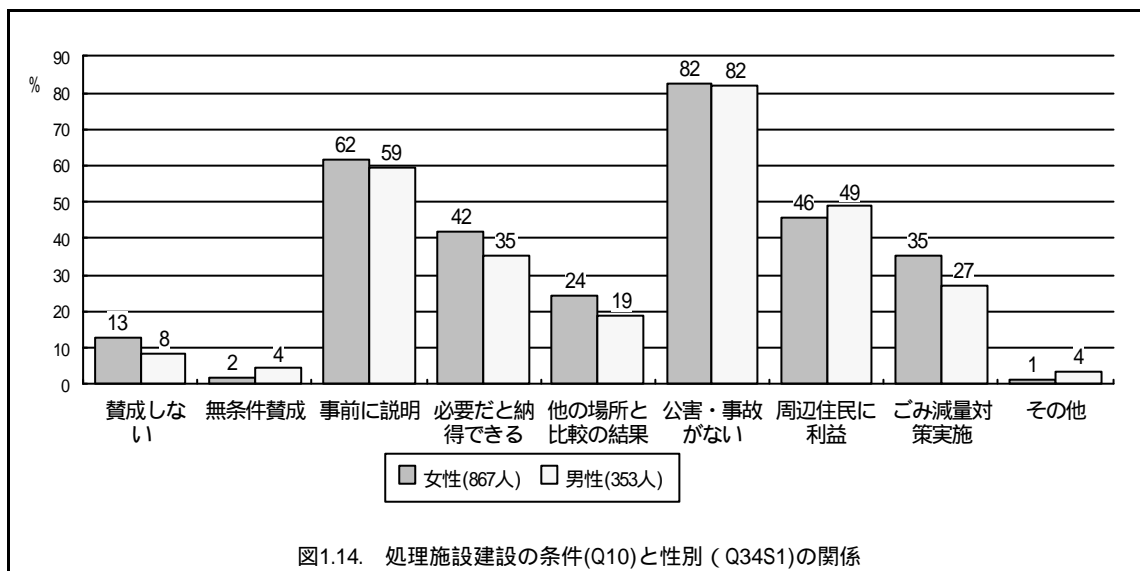
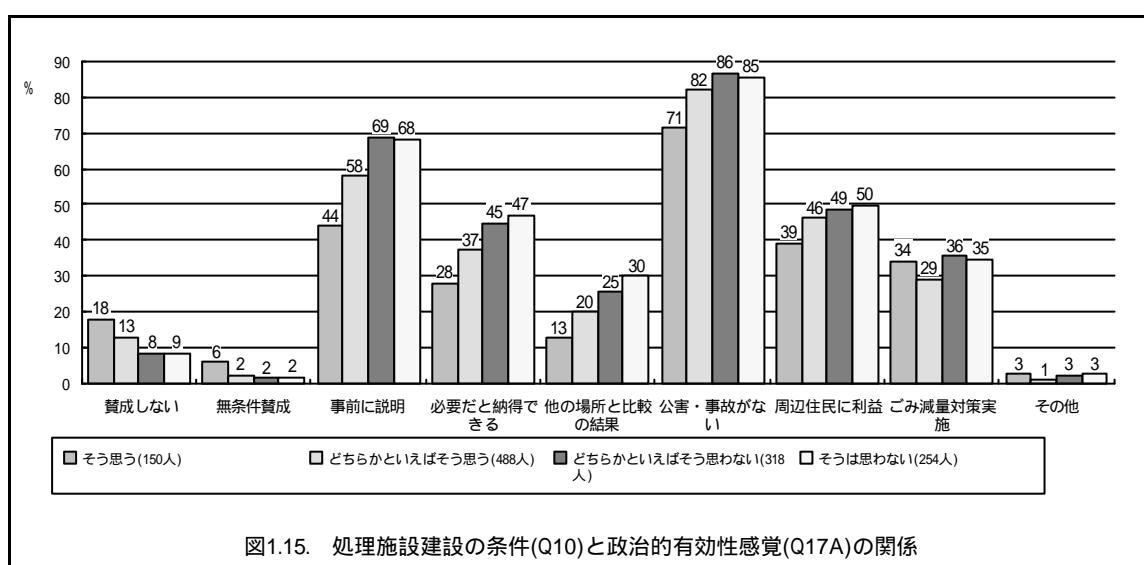


図1.14. 処理施設建設の条件(Q10)と性別(Q34S1)の関係

次に、政治的有効性感覚と処理施設建設の条件の関連について見た。問17Aから問17Dまでの4つの政治的有効性感覚の中から、比較的問10と関連の強かった問17Aの「政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない」を選び、処理施設建設の条件との関連を調べることにした。「ごみ減量対策実施」以外の条件については、「そうは思わない」と答える人ほど、各条件が必要だと答えている。政治的有効性感覚が高い人ほど、各条件が必要だと答える傾向があると言える。「ごみ減量対策実施」という条件は、自分自身の直接的な利害とは関係がなく、社会全体の利害に関係した政策提言的な条件であるため、他の条件とは性質が違うのだろうか。処理施設との関係が間接的なことも一因かもしれない。「絶対反対」、「無条件賛成」という人は、「そう思う」と答える人ほど多い。政治的有効性感覚の低い人ほど、各条件とは無関係に反対、賛成の意志を決める傾向があるようだ。



2.2. ごみ減量：意識と行動

家庭から排出されるごみの量は、日本社会の経済発展に伴って増加してきた。近年は、大量に排出されるごみの処理にかかる費用やその最終処分場（埋立地など）の確保などが多くの自治体で問題となっており、「ごみ減量」は緊急課題になっている。ここでは、ごみ問題に関する意識やごみ減量行動に関する意識と実際のごみ減量行動との関係を探る。

2.2.1. ごみ問題に関する意識

ごみ問題の心配度

ごみ問題には様々な側面がある。今回の調査では、ごみが大量に排出されるために処理の能力が追いつかないこと（大量ごみ）、ごみ処理にかかる費用のために自治体の財政が圧迫されること（財政圧迫）、使い捨てのものが大量に消費されて天然資源が浪費されること（使い捨て）の3つの側面について、その心配度を聞いた。

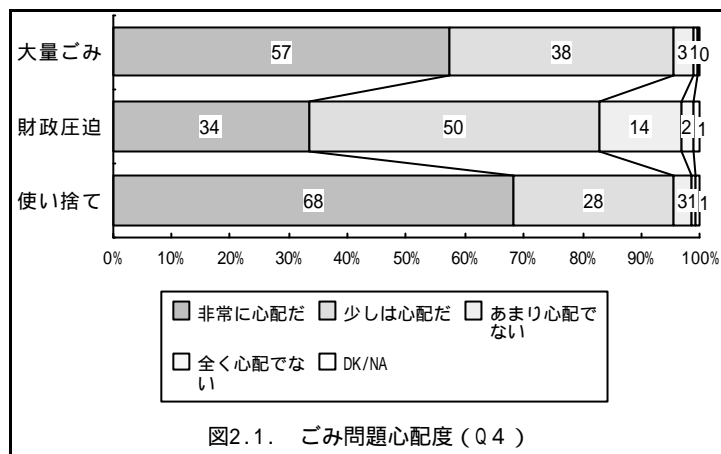


図2.1. ごみ問題心配度 (Q4)

3つの側面とも、総じて心配度は高い。特に使い捨てに関しては、68%の人が「非常に心配だ」と回答している。しかし、財政圧迫を「非常に心配だ」と回答したのは34%しかおらず、他の2つに比べて心配度は少し低くなっている。それでも「少しは心配だ」の50%も加えると、回答者の約8割は財政圧迫に関して心配していることになる。

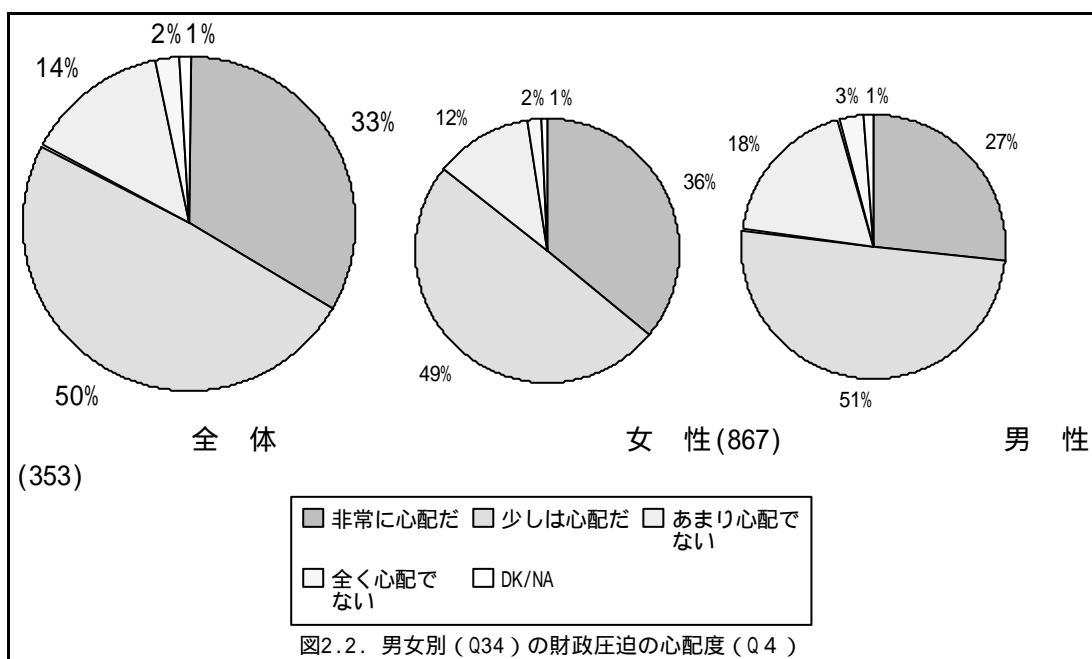
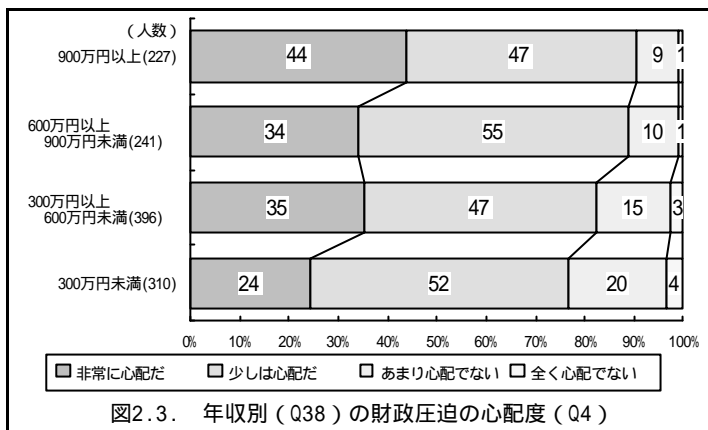


図2.2. 男女別 (Q34) の財政圧迫の心配度 (Q4)

考察 ごみ問題心配度の規定因

男女別に、財政圧迫の心配度を比較してみると、女性は36%が「非常に心配だ」と回答したのに対し、男性で「非常に心配だ」と回答したのは27%だった（図2.2.）。男性に比べると、女性の方がよりごみ問題について心配していることになる。これは、「大量ごみ」と「使い捨て」の残りの2側面についても同様なことが言えた。

また、収入別に財政圧迫の心配度を比較すると図2.3.のようになつた。年収900万円以上の回答者は44%が「非常に心配だ」と回答したのに対し、年収300万円未満の回答者で「非常に心配だ」と回答したのは24%であった。年収が多いほど、ごみ問題についての心配度が高くなる傾向があることがわかる。これは財政圧迫以外



の2側面についても言えた。今回の調査では、男性回答者は若い単身の方が比較的多く、女性回答者は中年層の家族同居の人が多かった。そのため、女性回答者の方が世帯収入が多い傾向があった。心配度に対する年収の影響は、前頁で述べた性別の影響によるものかもしれない。

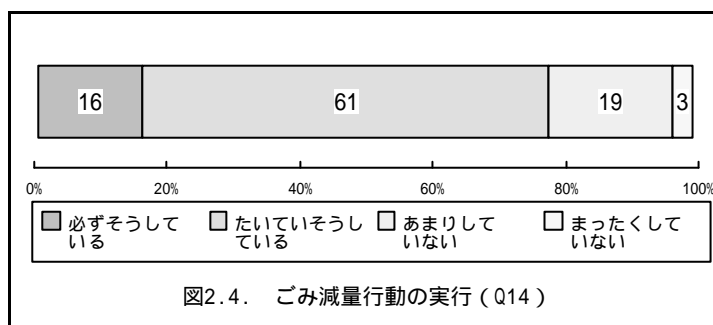
2.2.2.2. ごみ減量行動と意識

ごみ減量行動の実行（問14）

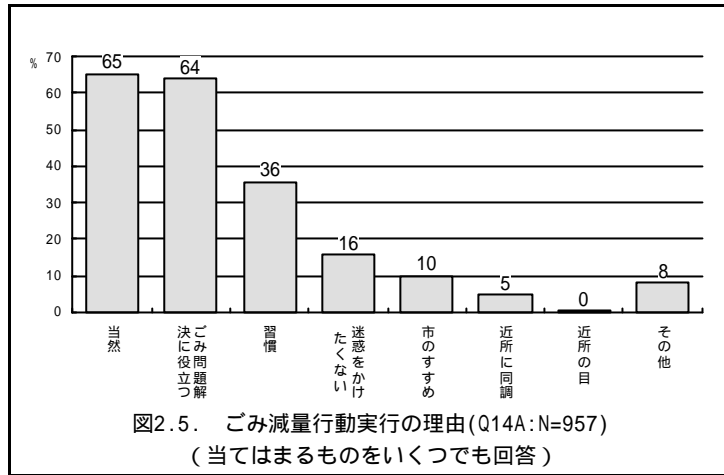
過剰包装を断ったり、古新聞などを資源回収に出すといったなんらかのごみ減量行動の実施の割合を聞いた（問14A：図2.4.）。

「必ずそうしている」が16%、「たいていそうしている」が61%、

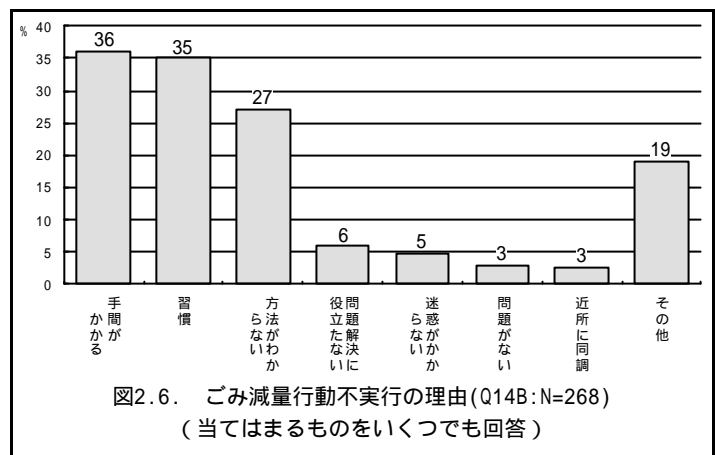
「あまりしていない」が19%、「まったくしていない」が3%という回答を得た。約4分の3の人がごみ減量行動を積極的にこなしていることになる。



さらにごみ減量行動を実行している人（「必ずそうしている」「たいていそうしている」）に、その実行の理由を聞いた（問14B：図2.5.）。最も多かったのは「当然のことだから」の65%と「ごみ問題の解決に役立つと思うから」の64%であった。次に「長い間の習慣だから」が36%、「他の人に迷惑をかけたくないから」が16%、「仙台市がすすめているから」が10%で続いた。

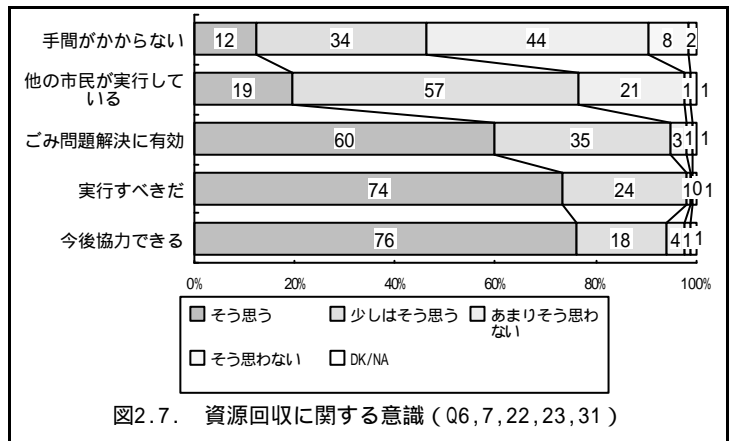


同様に、ごみ減量行動をしていない人（「あまりしていない」「まったくしていない」）に、不実行の理由を聞いた（問14B：図2.6.）。「手間がかかるから」が36%、「長い間の習慣だから」が35%であり、ついで「どうすれば良いか方法がわからないから」が27%であった。

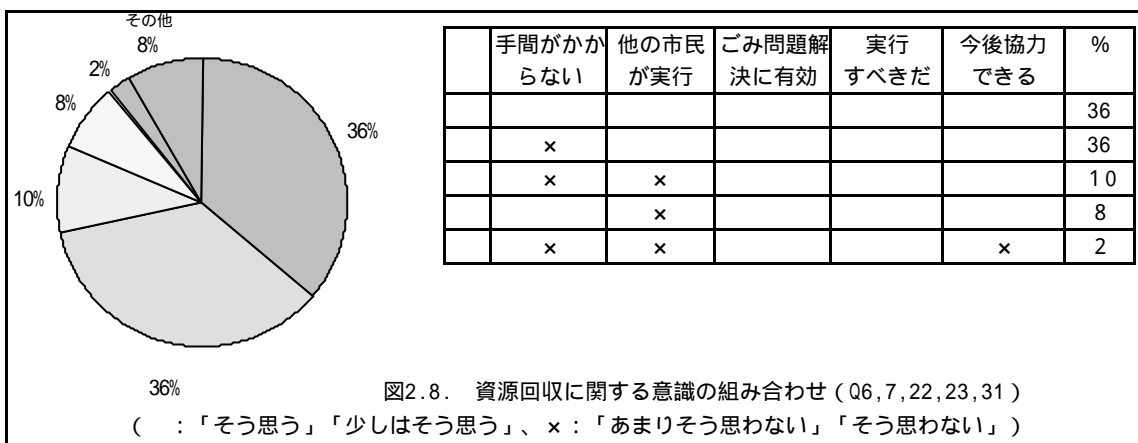


資源回収に関する意識（問6,7,22,23,31）

古新聞・古雑誌などを、資源回収やちり紙交換に出すこと（以下「資源回収」）に関して、ごみ問題解決に有効かどうか（有効性）、実行するのに手間がかからないと思うか（手間意識）、実行すべきと思うか（規範意識）、他の仙台市民が実行していると思うか（他者行動認知）、今後協力できると思うか（協力可能性）をそれぞれ聞いた（図2.7.）。



「協力可能性」は76%、「規範意識」は74%、そして「有効性」は60%が「そう思う」と回答しており、「少しはそう思う」も加えるとこの3つの側面に関しては9割以上の市民が肯定的な意識を持っていることがわかった。また、「他者行動認知」は19%、「手間意識」は12%しか「そう思う」という回答がなかった。「他者行動認知」は「少しはそう思う」が57%あり、「そう思う」とあわせると8割弱の人が肯定的な意識を持っているが、「手間意識」に関しては「少しはそう思う」をあわせても肯定的な意識を持つ人は46%しかおらず、半数以上の方が資源回収にごみを出すのは手間がかかると感じていることがわかった。



考察 ごみ減量に対する意識と行動

回答者が、この「資源回収」に関する5つの側面の意識をどのような組み合わせで回答しているのかが、図2.8.である。最も多いのは、「手間がかからないし、他の市民は実行しており、実行することはごみ問題の解決に有効で、実行すべきであるし、今後自分は協力できる」の36%で、次にほぼ同数の「手間がかかるが、他の市民は実行しており、実行することはごみ問題の解決に有効で、実行すべきであるし、今後自分は協力できる」が続く。さらに、「手間がかかるし、他の市民は実行していないが、実行することはごみ問題の解決に有効で、実行すべきであるし、今後自分は協力できる」の10%、「手間がかからないが、他の市民は実行しておらず、実行することはごみ問題の解決に有効で、実行すべきであるし、今後自分は協力できる」の8%がある。

最も多い組み合わせであるとの違いは、「手間がかかると思うかどうか」である。そこで、「手間意識」によって「ごみ減量行動」の実行に差があるかどうかを見てみた(図2.9.)。すると、『手間がかからない』と思う人の方が、明らかにごみ減量を実行している割合が高かった。

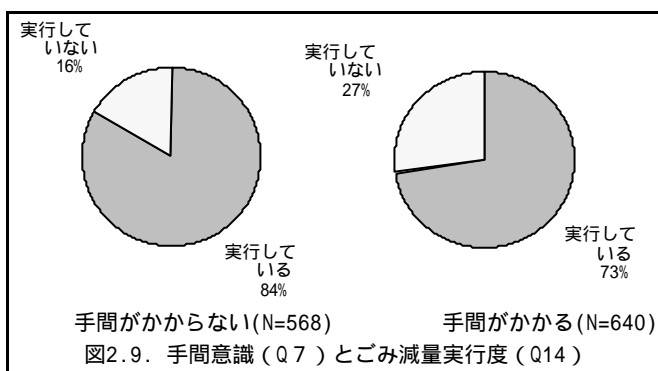


図2.6.にあるように、ごみ減量行動を実行していない理由で最も多いのは「手間がかかるから」であった。ごみ減量を推進して行くうえで、「家庭で手軽にできるごみ減量」を周知していく必要があるだろう。

2.2.3. コンポスト容器（生ごみ堆肥化容器）

コンポスト容器の使用（問12）

コンポスト容器（生ごみ堆肥化容器）の使用について質問した結果が、図2.10.である。「使っている」と回答した人はわずか7%だった。また、「持っているが、使っていない」が2%、「使うつもりはない」が56%もいた。しかし、「まだ持っていないが、使いたいと思う」が32%いた。

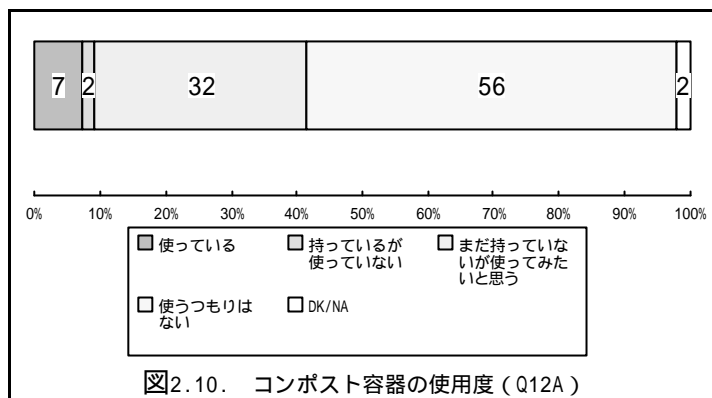


図2.10. コンポスト容器の使用度 (Q12A)

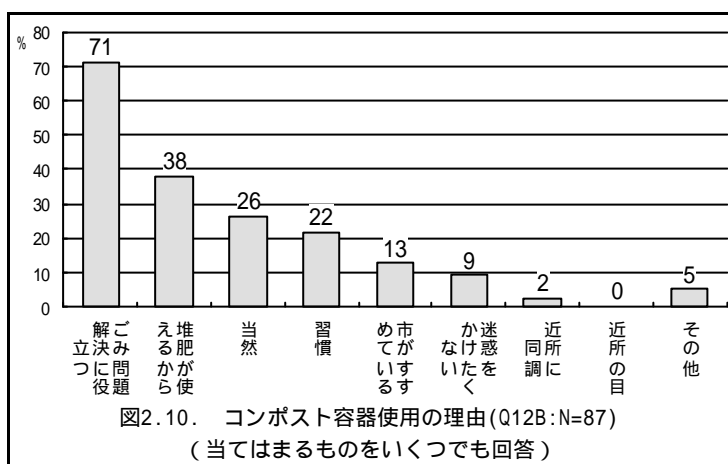


図2.10. コンポスト容器使用の理由 (Q12B: N=87)
(当てはまるものをいくつでも回答)

コンポスト容器を使っている回答者87人に使用している理由を聞いたところ、71%が「ごみ問題の解決に役立つと思うから」をあげた。ついで、「庭や畑で堆肥が使えるから」が38%、「当然のことだと思うから」が26%、「長い間の習慣だから」が22%、そして「市がすすめている（補助制度がある）から」が13%いた（図2.10.）。

また、コンポスト容器を使用していない回答者（「持っているが、使っていない」「まだ持っていないが、使ってみたいと思う」「使うつもりはない」）1115人に理由を聞いたところ、48%の人が「コンポスト容器をおく場所がないから」をあげた（図2.11.）。ついで、「コンポスト容器を使う習慣がないから」を選んだ人が30%、「お金がかかるから」を選んだ人が19%いた。

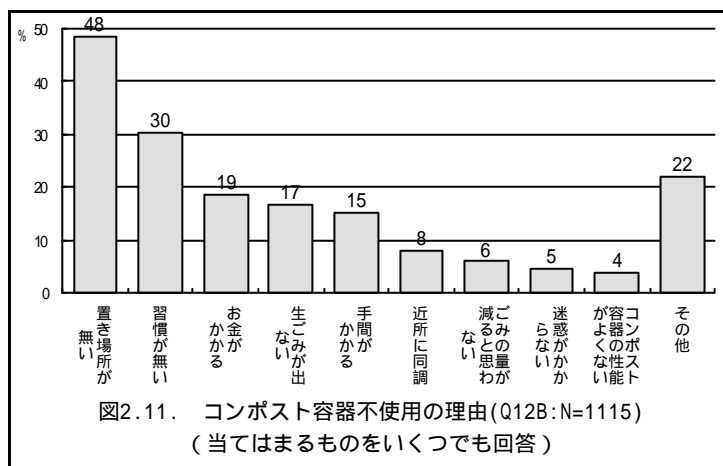
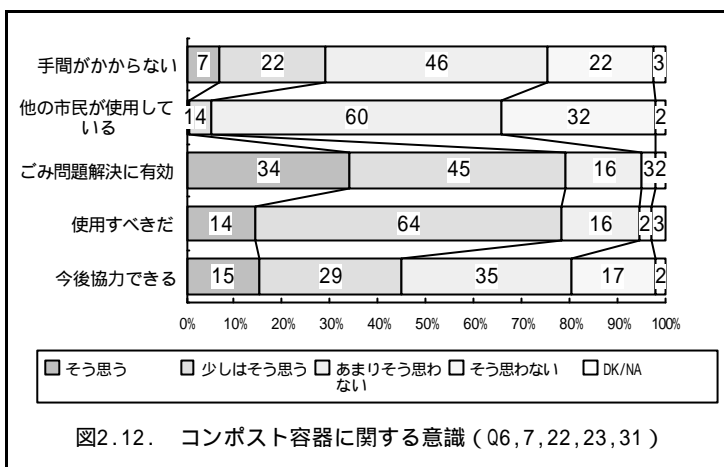


図2.11. コンポスト容器不利用の理由 (Q12B: N=1115)
(当てはまるものをいくつでも回答)

コンポスト容器に関する意識（問6,7,22,23,31）

コンポスト容器を使用することに関して、資源回収と同じく、「有効性」「手間意識」「規範意識」「他者行動認知」、「協力可能性」について聞いた（図2.12.）。

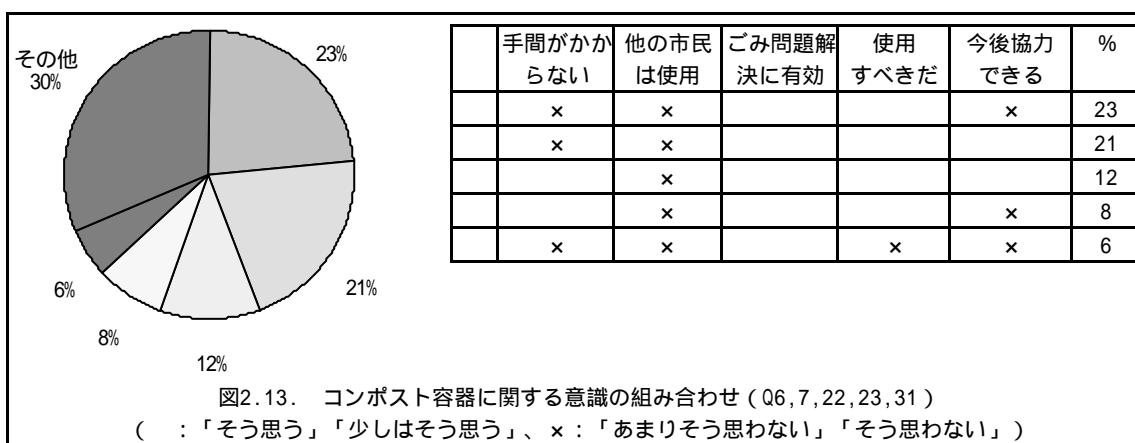
「有効性」は「そう思う」と「少しはそう思う」を合わせて79%の回答があった。また、「規範意識」も「そう思う」と「少しはそう思う」で78%の回答があり、この2つの側面に関しては肯定的な意識がもたれていた。しかし、「協力可能性」は「そう思う」と「少しはそう思う」をあわせても44%、「手間意識」は29%しか



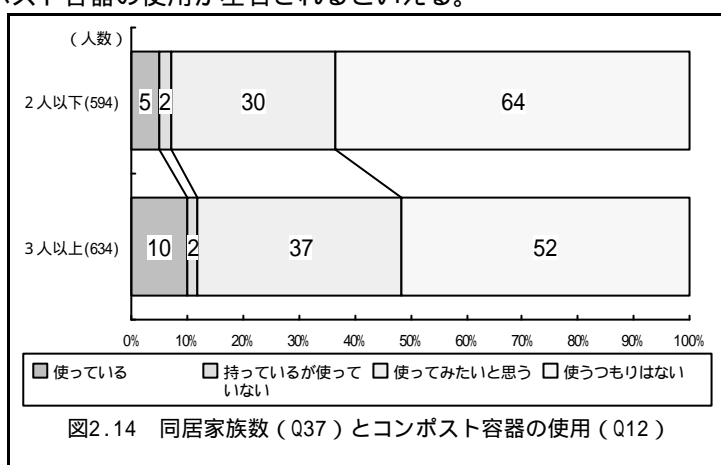
かった。さらに、「他者行動認知」は「そう思う」と「少しはそう思う」をあわせても5%しかおらず、ほとんどの人が「他の人はコンポスト容器を使用していない」と思っていることがわかった。

考察：コンポスト容器に対する意識と行動

回答者が、この「コンポスト容器の使用」に関する5つの側面の意識をどのような組み合わせで回答しているのかが、図2.13.である。最も多いのは、「手間がかかるし、他の市民は使用していないが、使用することはごみ問題の解決に有効で、使用すべきである。しかし、今後自分は協力できない。」の23%で、次にほぼ同数の「手間がかかるし、他の市民は使用していないが、使用することはごみ問題の解決に有効で、使用すべきであるし、今後自分は協力できる。」の21%が続く。



最も多い と の違いは、「今後協力できると思うかどうか」ということである。コンポスト容器を使用していない理由として最も多かったのは「置く場所がないから」であった。また、コンポスト容器の使用の理由として「堆肥が使えるから」という回答が多かったが、堆肥を使うか否かは自宅に畑や家庭菜園などが有るか無いかによって違って来る。すると、住居形態または住宅事情によってコンポストの使用可能性が大きく左右されるということが考えられる。今回の調査では住居形態についての質問項目がなかったため、同居家族数別にコンポスト容器の使用度を見てみた（図2.14.）。同居家族数が2人以下と3人以上の回答者を比べてみると、同居家族数が3人以上の回答者の方が、コンポスト容器を使っている割合が明らかに多かった。また、同居家族数が2人以下の回答者の方が、「コンポスト容器を使うつもりはない」という回答の割合が多かった。同居家族数が少ない人ほどアパートやマンションなどに住居している可能性が高いと予想されるので、やはり住居形態・住宅環境によってコンポスト容器の使用が左右されるといえる。



2.3. 消費行動

ごみは最初からごみとして存在するわけではない。各個人が購入した商品が、使用されなくなったとき、又は使用され尽くしたとき、初めてごみになるのである。ごみ問題には、ごみを排出する行動もさることながら、ごみのもととなる商品を購入する時点の行動も大きくかかわっている。今回の調査では、「商品を購入する時点のごみ減量」という観点から、市民の消費における意識と行動を聞いた。

2.3.1. 商品購入時のごみ減量意識

過剰包装に関する意識（問6,7,22,23,31）

過剰包装を断ることにに関して、ごみ問題解決に有効かどうか（有効性）、実行するのに手間がかからないと思うか（手間意識）、実行すべきだと思うか（規範意識）、実行すべきと思うか（規範意識）、他の仙台市民が実行していると思うか（他者行動認知）、今後協力できると思うか（協力可能性）をそれぞれ聞いた（図3.1.）。

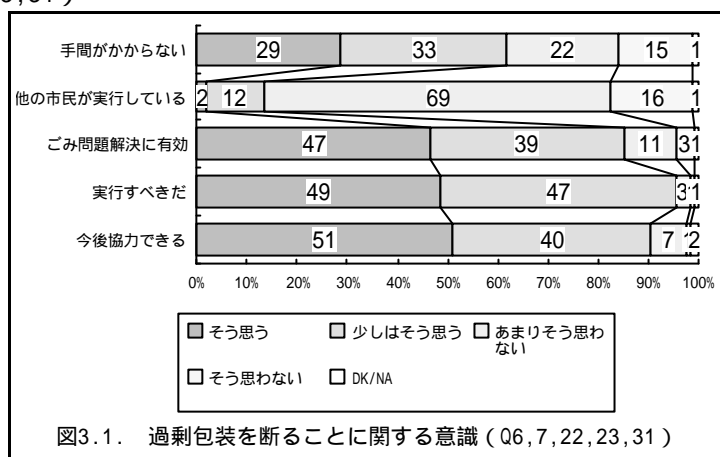


図3.1. 過剰包装を断ることにする意識 (Q6, 7, 22, 23, 31)

「協力可能性」が51%、「規範意識」が49%、「有効性」が47%と、これらの3つの側面は肯定的な意見が多いものの、「手間意識」が29%、「他者行動認知」が2%と、残りの2つの側面では否定的な意識が強かった。（数字は「そう思う」の%である。）

使い捨て商品に関する意識（問6,7,22,23,31）

使い捨て商品を買わないことに関する意識が、図3.2.である。全体的に、「そう思う」と「少しはそう思う」をあわせれば、「過剰包装を断る」と同じ様な数字になるが、「そう思う」だけの数字は比較的少なかった。つまり、使い捨て商品を買わないことに関しては、過剰包装を断ることに比べて肯定的な意識が弱いことになる。

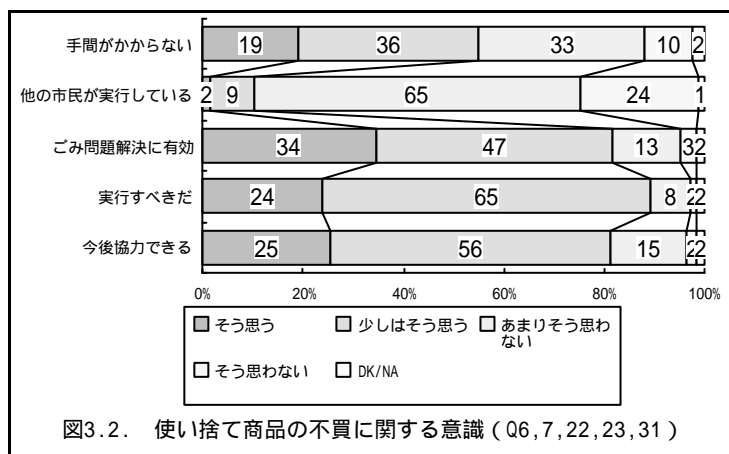
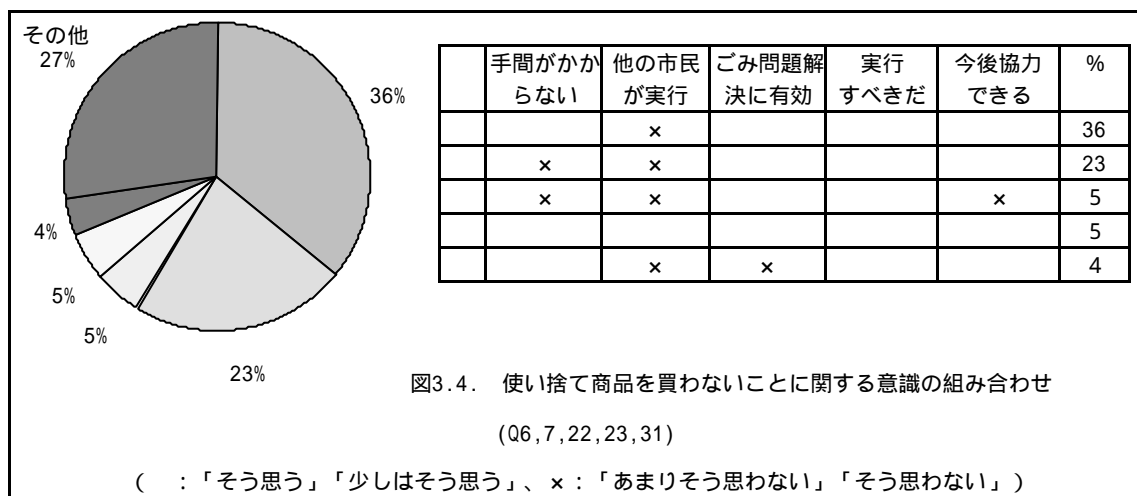
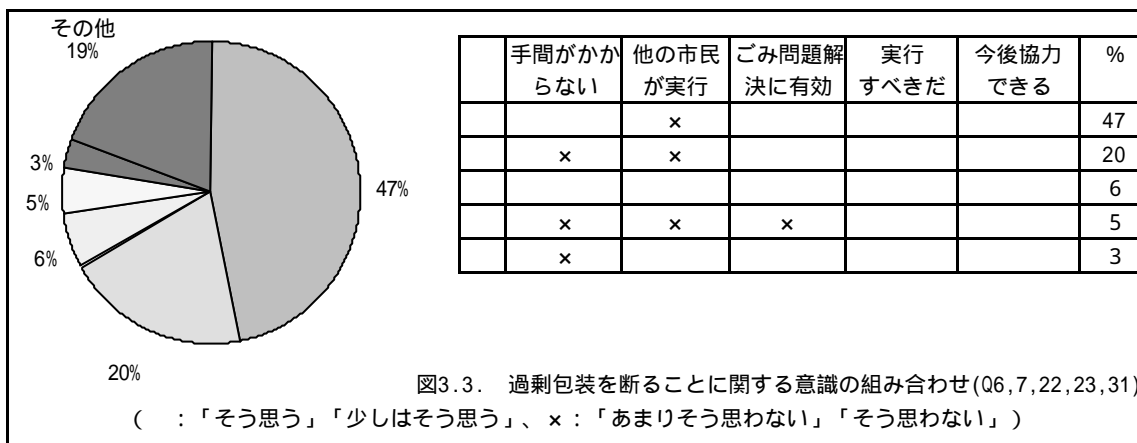


図3.2. 使い捨て商品の不買に関する意識 (Q6, 7, 22, 23, 31)

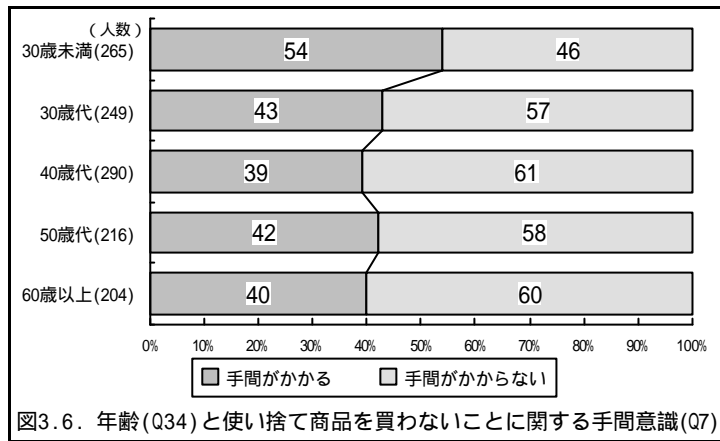
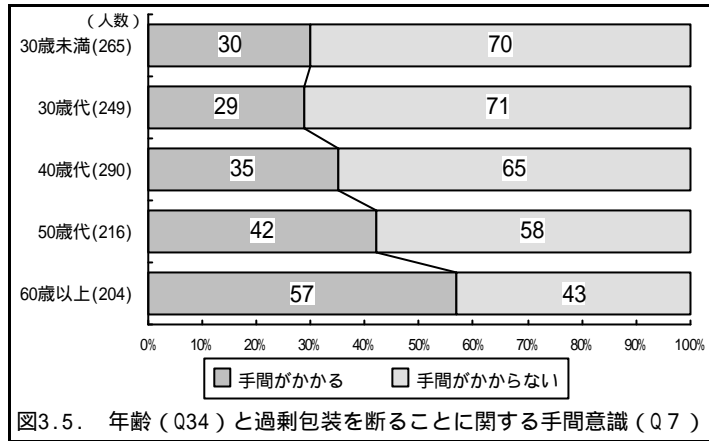
考察 消費場面におけるごみ減量意識の規定因

過剰包装を断ることと使い捨て商品を買わないことに関する5つの側面の意識の主な組み合わせが、それぞれ図3.3.と図3.4.である。両者とも最も多いのは、「手間がかからないが、他の市民は実行していない。しかしごみ問題の解決に有効であり、しかも実行すべきことで、今後自分は協力できる」という意識の組み合わせで、次に「手間がかかるし、他の市民は実行していない。しかしごみ問題の解決に有効であり、しかも実行すべきことで、今後自分は協力できる」という意識の組み合わせであった。



との違いは「手間がかかると思うかどうか」である。そこで、どのような属性の回答者が手間意識を持つかを、過剰包装と使い捨て商品のそれぞれについて分析してみた。図3.5.は、過剰包装を断ることに関する手間意識と年齢との関係を見たものであるが、年齢が高いほど「手間がかかる」と思う傾向が高いことがわかった。つまり、若い人ほど過剰包装を断ることに手間を感じていないということである。

一方、使い捨て商品を買わないことに関する年齢別の手間意識が図3.6.である。少しばらつきはあるものの、年齢が高いほど「手間がかからない」と思う傾向が強いことがわかった。つまり、若い人ほど使い捨て商品を買わないことに手間を感じているということであり、これは過剰包装を断ることにに関する手間意識の場合と正反対である。

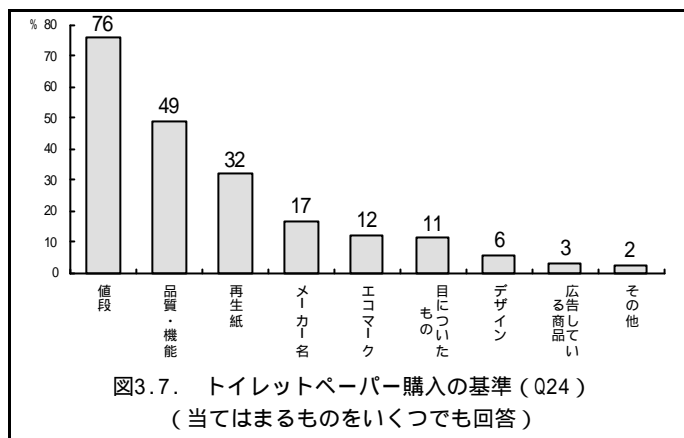


過剰包装を断ることも、使い捨て商品を買わないこともどちらも商品を購入する際のごみ減量行動であるが、それぞれ違う意識が働いているようである。まず、使い捨て商品を買わないということは、大量生産・大量消費社会を育ててきた若い世代にとって「新しい行動」として手間意識を感じさせるだろう。また、使い捨て商品は比較的廉価で販売されており、それを買わないということは、経済的に余裕が無い若い世代にとって苦しいことである。逆に、過剰包装を断ることは金銭的負担にならないので、経済的に余裕が無い人でも手軽に実行できる。さらに、買い物をする店舗がデパートなのかコンビニエンスストアなのかそれともスーパーなのかによって包装の程度が違ってくる。若年層と高齢層の日常的な利用店舗・買物形態の違いも、過剰包装を断ることにする手間意識に影響している可能性が有る。

2.3.2. 商品購入の基準

商品購入の基準（問24）

トイレットペーパーやティッシュペーパーを買う際にどのようなことを重視するかを複数回答で聞いた結果が、図3.7.である。最も多かったのは、「値段が安いこと」の76%で、次いで、「品質・機能がよいこと」の49%、「再生紙を使った商品であること」の32%が続いた。



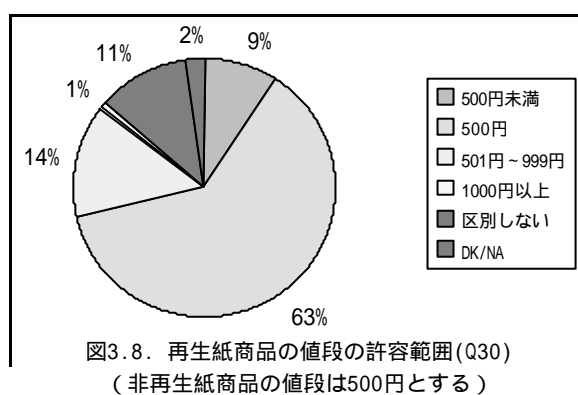
コスト負担の限界（問30）

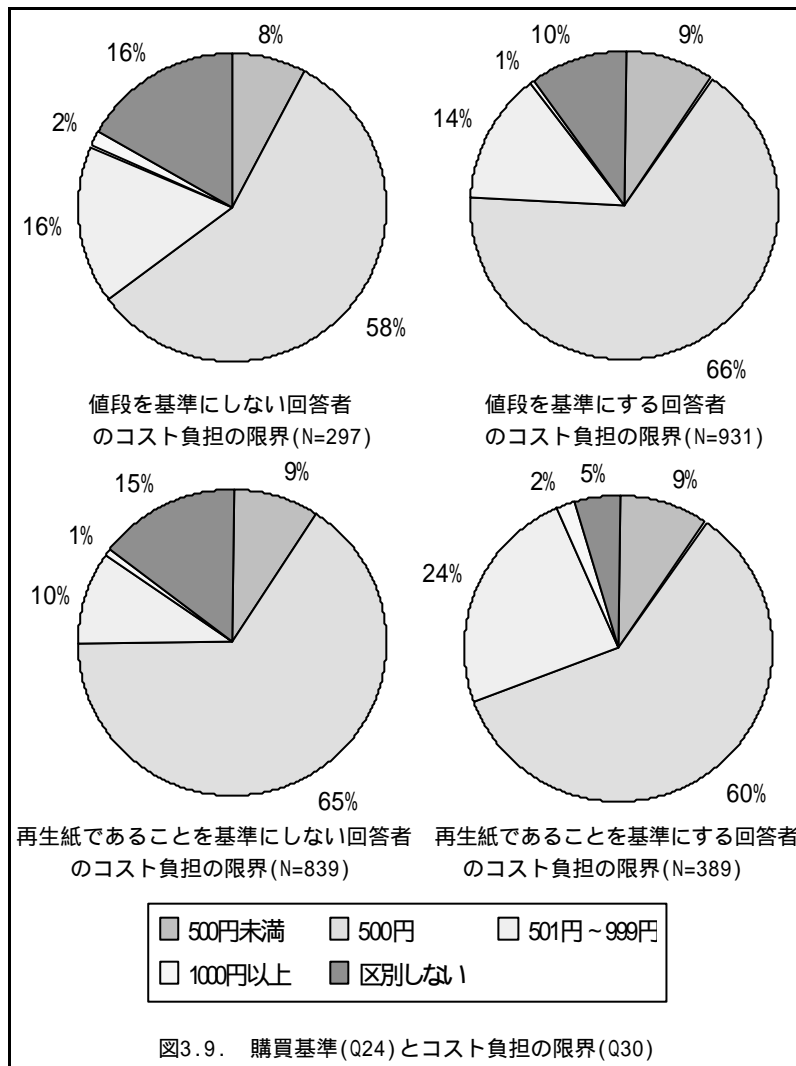
次のような2つの商品がスーパーの日用品売り場に有ると仮定して、「いくらまでなら『商品B』を買ってもよいか」を聞いた（図3.8.）。ただし、2つの商品は値段と材料以外は同じものとして質問した。

商品A 再生紙を使用していないトイレットペーパー：値段は500円
 商品B 再生紙を使用したトイレットペーパー(エコマーク商品)：値段は商品Aよりも高めである

最も多かったのは、「同じ金額なら『商品B』を買ってもよい」（または「500円までなら『商品B』を買ってもよい」）の63%であった。次に「500円以上1000円未満」の14%、「再生紙を使用しているかどうかはまったく関係ない（気にしない）」の11%であった。

『商品B』は『商品A』よりも値段が高いということを明示していたが、「500円未満なら『商品B』を買ってもよい」（つまり、『商品B』の方が安いのであれば買ってもよい）という回答が9%もあった。



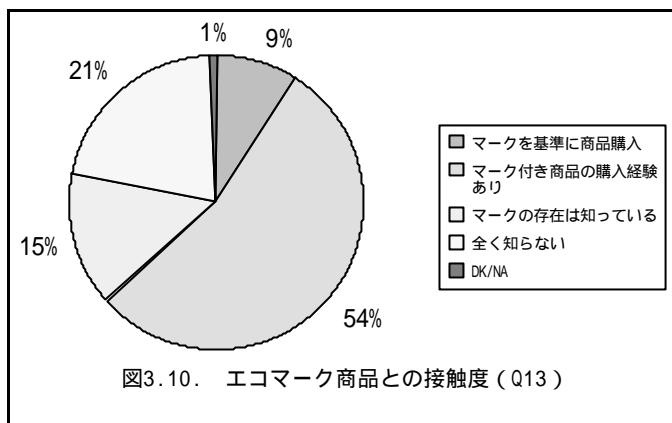


考察 商品購入の基準と環境にやさしい商品の購入の関係

商品購入の基準によってコスト負担の限界がどのように変わるのかを見てみた(図3.9.)。まず、「値段」を基準にする回答者とししない回答者でコスト負担の限界を比較してみると、値段を基準にする回答者の方が「500円」(同じ値段ならば『商品B』を買ってもよい)という比率が多くなっていった。また、「再生紙であるかどうか」を基準にする回答者とししない回答者でコスト負担の限界を比較してみると、再生紙を基準にする回答者の方が「501円~999円」(『商品B』が右記の値段でも買う)の比率が多くなっていった。なお図にはないが、「品質・機能」を基準にする回答者とししない回答者では顕著な差はなかった。

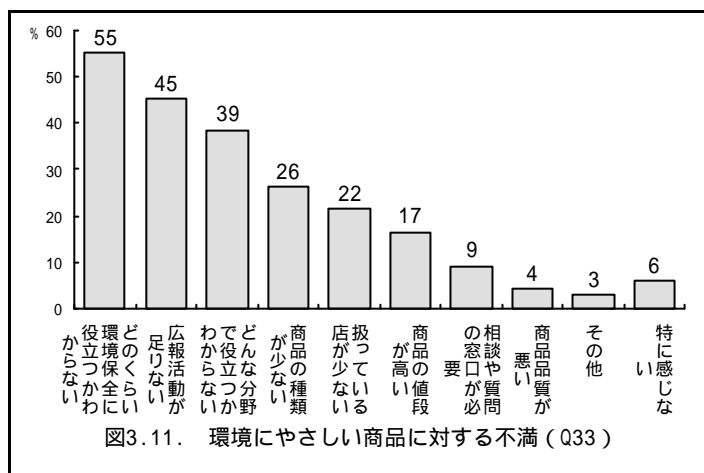
2.3.3. 環境に優しい商品の購入 エコマーク商品との接触度（問13）

エコマークが付いた商品を買ったことがあるかどうかを聞いた（図3.10.）。「エコマークを目安にしたことはないが、エコマーク商品を買ったことはある」という回答が54%と最も多かった。これに、「エコマークを目安にして商品を買ったことがある」の9%と「エコマーク商品を買ったことはないが、エコマークについて見たり聞いたりしたことはある」の15%を足すと78%になり、8割弱の人が何らかのかたちでエコマーク商品の存在を知っているということがわかった。



環境にやさしい商品に対する不満（問33）

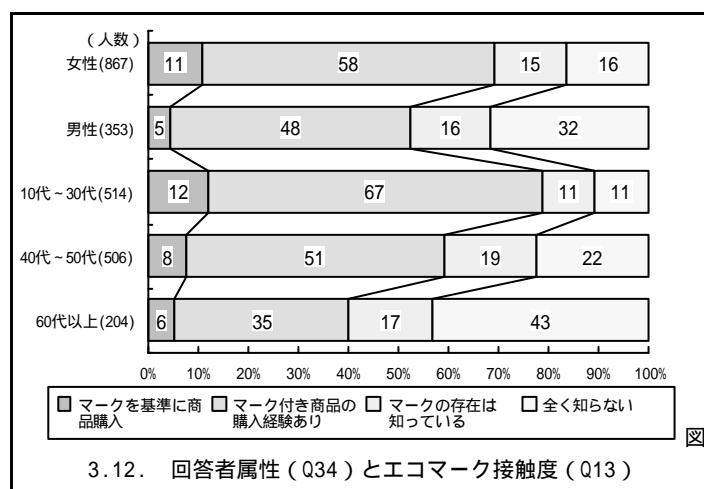
環境にやさしい商品（エコマーク商品など）についてどのような不満を感じるかを聞いた結果が、図3.11.である。最も多かったのは「どのくらい環境保全に役立つかわからない」の55%で、ついで、「テレビや雑誌などでの広報活動が足りない」の45%、「どんな分野（例：森林資源の減少、オゾン層の破壊）で環境保全に役立つかわからない」の39%、「商品の種類が少ない」の26%などが続いた。



考察（1）エコマーク商品接触度の規定因

回答者の属性ごとにエコマーク商品との接触度を見てみると、図3.12.のようになった。

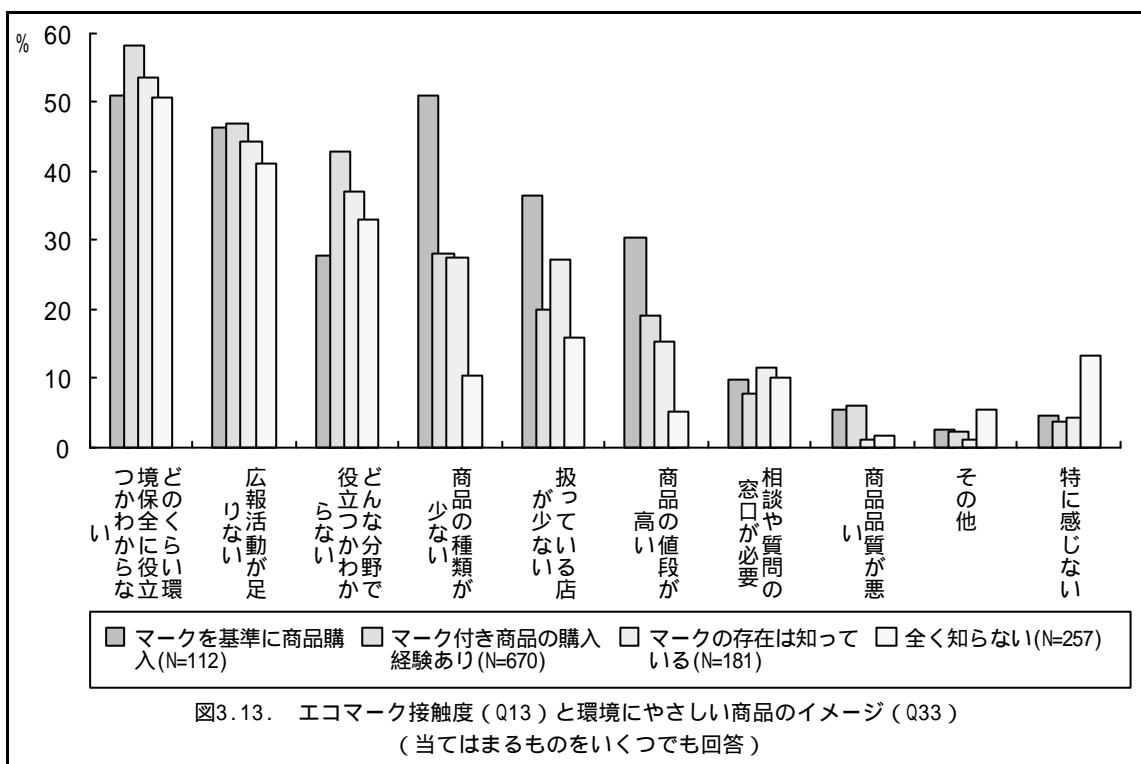
男女別では女性の方が、エコマークを基準にして商品を買ったり、マーク付き商品を購入した経験があるという比率が高かった。また、年齢別に見てみると、年齢が若い方がエコマークを基準にして商品を買ったり、マーク付き商品を購入した経験が有るという比



率が高かった。

考察（２） エコマーク商品接触度と環境にやさしい商品に対する不満

エコマーク商品との接触度ごとのエコマーク商品への不満をあらわしたものが、図3.13.である。エコマーク商品との接触度のいかにかわらず、「どのくらい環境保全に役立つかわからない」「広報活動が足りない」は多く、「相談や質問の窓口が必要」「商品の品質が悪い」は少なかった。しかし、エコマークを基準にした商品購入の経験がある回答者は接触度の低い回答者に比べて、「商品の種類が少ない」「扱っている店が少ない」「商品の値段が高い」といった不満を多くあげていた。



2.4. 2. 4 . ごみ収集・処理の費用負担

近年、ごみ収集・処理の有料化についての話題（特にごみ減量効果に関して）がマスメディアでとりあげられることが多い。ここでは、この問題を、「今まで通り税金でまかなうのか、有料化して市民が直接負担するのか」という負担方法の観点と「誰がどれだけ負担すべきか」という負担基準の公平さの観点から検討する。

2.4.1. 有料化への意識

望ましい費用負担方法（問28）

ごみ収集・処理の費用をどのように負担するのが望ましいか（税金か、有料化して住民が直接負担するか）を尋ねた。家庭ごみの場合には「すべて税金でまかなう」のが望ましいとする回答者が6割を占めている。一方、粗大ごみの場合には「すべて税金で」という回答者は約2割(22%)で、「一部は有料」「すべて有料」など、有料化にやや肯定的な意見が多い。

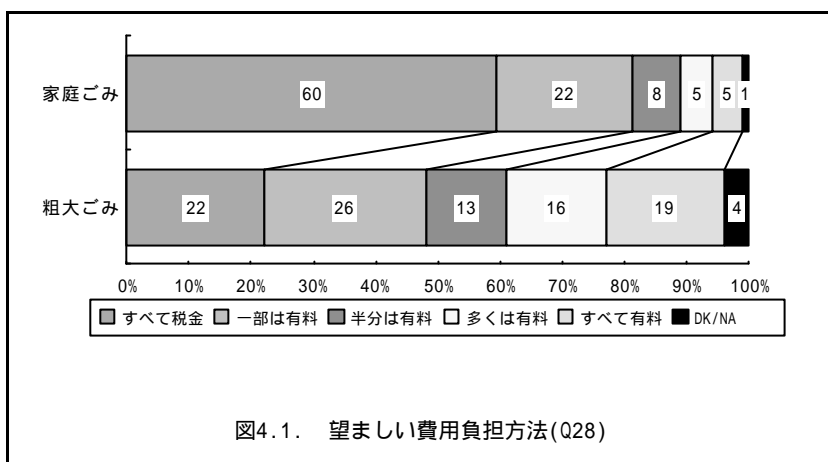


図4.1. 望ましい費用負担方法(Q28)

有料化による意図せざる効果の認知（問29）

ごみ収集・処理の有料化には、ごみ問題への関心を高めごみを減らす効果があると考えられている。しかしこうした望ましい効果が見込まれる一方、実際に有料化した自治体の例をみると、集積所ではない場所への不法投棄が増えるなどの問題が起きる可能性もあるようだ。そこで、有料化をした場合に起こると思う問題をいくつかも挙げてもらった。図4.2.は自由回答の内容を分類した結果だが、これを見ると回答者の4割が不法投棄の増加を挙げており、有料化による不法投棄の増加の問題は、広く市民に知られているということがわかる。また、1割弱の回答者が、公平な基準を決めることの難しさを指摘している。次いで、「ごみの量を計るのに手間がかかる」など有料化実施の手間を挙げた回答者が6%である。

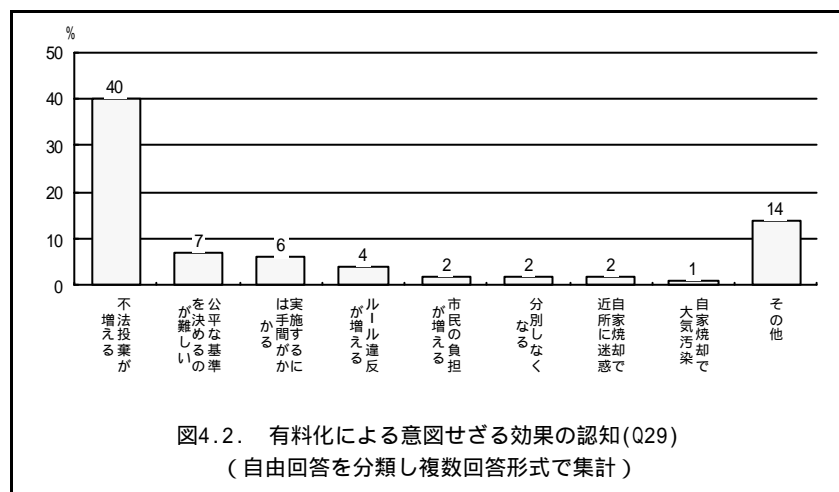
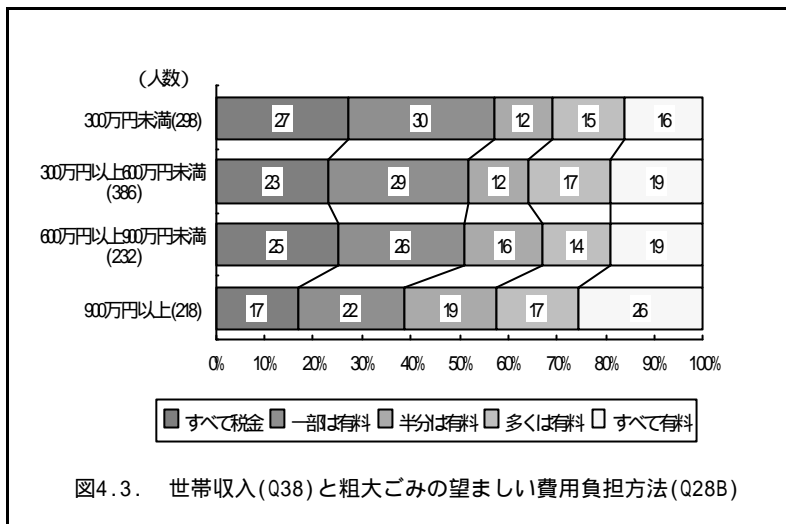


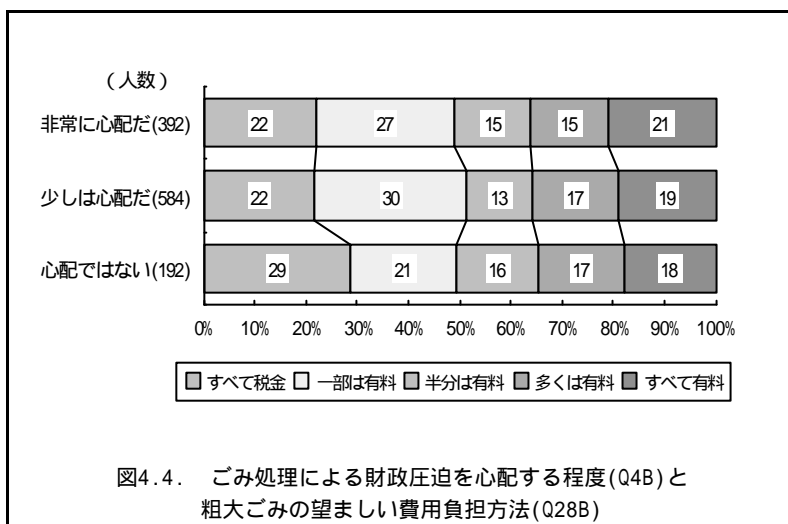
図4.2. 有料化による意図せざる効果の認知(Q29)
(自由回答を分類し複数回答形式で集計)

考察 有料化への意識の規定因

ごみ収集・処理の有料化に関する意識はどのような要因に規定されているのだろうか。望ましい費用負担の方法への回答を世帯収入別にみてみよう。粗大ごみの場合について図4.3.に示した。これを見ると、世帯収入が多い回答者では「すべて税金で」との回答が少なくなっており、有料化にやや肯定的な意見をもっているようだ。また、図は省略するが、この傾向は家庭ごみの場合にもみられる。



次に回答者の意識との関連をみる。ごみ問題諸側面の心配度のうち「ごみ処理費用によって自治体の財政が圧迫されること」の心配度(問4B)との関係を図4.4.に示した。これによると、心配度の低い回答者の方が「すべて税金で」の比率が高くなっている(「あまり心配でない」「全く心配でない」という回答者は少なかったため、ここでは『心配ではない』としてまとめた)。



2.4.2.ごみ収集・処理費用の公平な負担

公平な費用負担原理（事業一般，問21）

人々は、どのような負担基準（以下「公平な費用負担原理」）を公平と考えているのだろうか。まず、ごみ問題に限定せず「行政が住民のためにおこなう事業一般」についてどのような負担基準が公平と思うかを尋ねた。図4.5.をみると、公平と考える人が多いのは「収入に応じて」や「サービスに応じて」であり「誰もが同じ額を負担」には否定的な回答がやや多い。

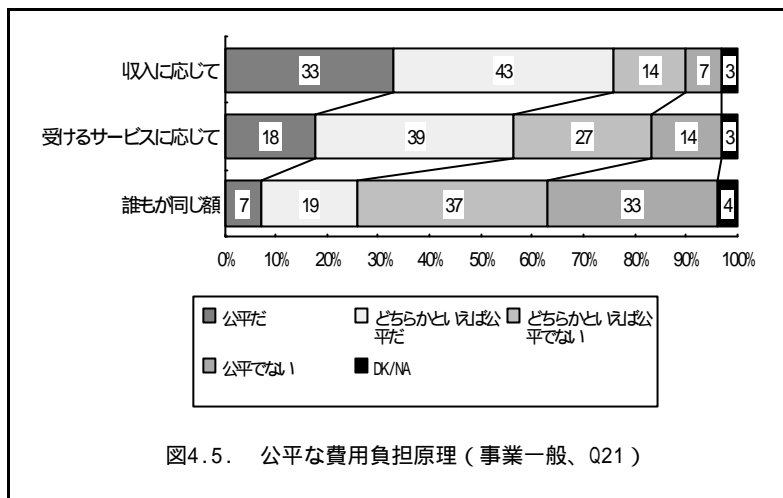


図4.5. 公平な費用負担原理（事業一般、Q21）

公平な費用負担原理（ごみの収集・処理，問27）

次に、ごみの収集・処理の費用に関して、家庭ごみと粗大ごみを分けて尋ねた。家庭ごみの場合には「各世帯が同じ金額」や「ごみの量に応じて」という回答が多く、意見が分かれている。一方、粗大ごみに関しては「ごみの量に応じて」という意見が半数以上（57%）を占めている。ごみの種類によって、人々が公平と考える負担の基準は異なるといえるだろう。

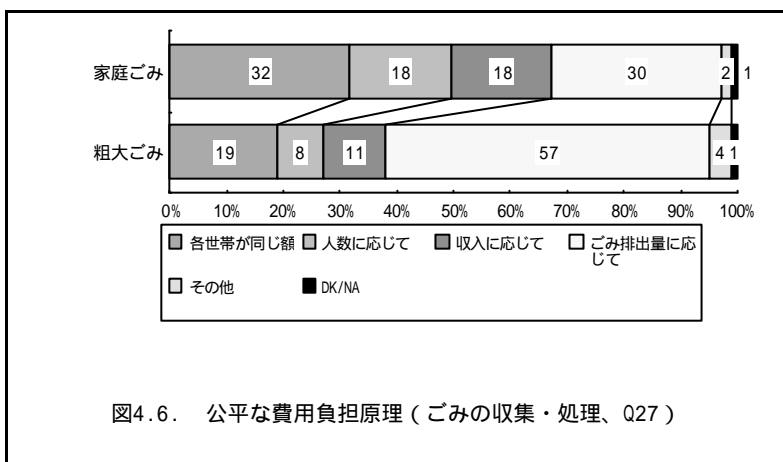


図4.6. 公平な費用負担原理（ごみの収集・処理、Q27）

費用負担原理の認知（問26A）

では現実の費用負担を、人々はどのように認識しているのだろうか。現在のところ、引っ越しなどで大量にごみが出た場合を除けば仙台市民が出すごみは無料で収集・処理されており、その費用は税金でまかなわれている。したがって本調査での費用負担原理に即して考えれば、市民がおおむね「収入に応じて」という基準で負担しているのが現状といえることができる。しかし図4.7.をみると、回

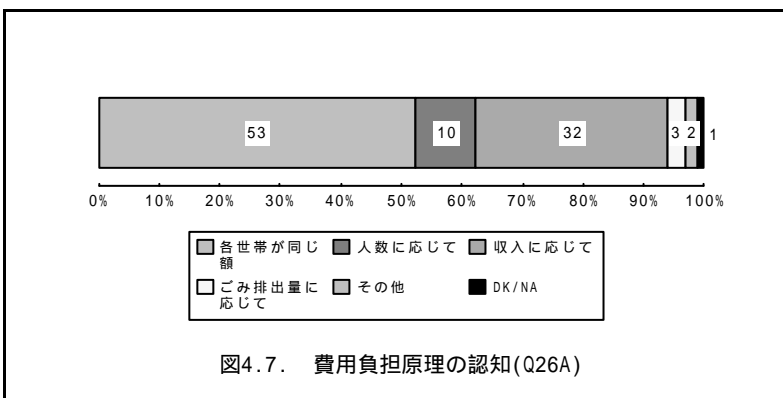


図4.7. 費用負担原理の認知(Q26A)

答者の半数（53%）は「各世帯が同じ額」を負担していると思っており、「収入に応じて」負担しているという回答は約3割である。

費用負担の公平感（問26B）

そのように各々が認識している費用負担の基準について公平と思うかどうかを尋ねてみた。図4.8.をみると「公平だ」「どちらかといえば公平だ」を合わせると7割近くの回答者が肯定的に評価していることがわかる。質問文を一部変更しているが、GOMI91調査での回答と比べると『公平でない』という回答が増えているようだ。

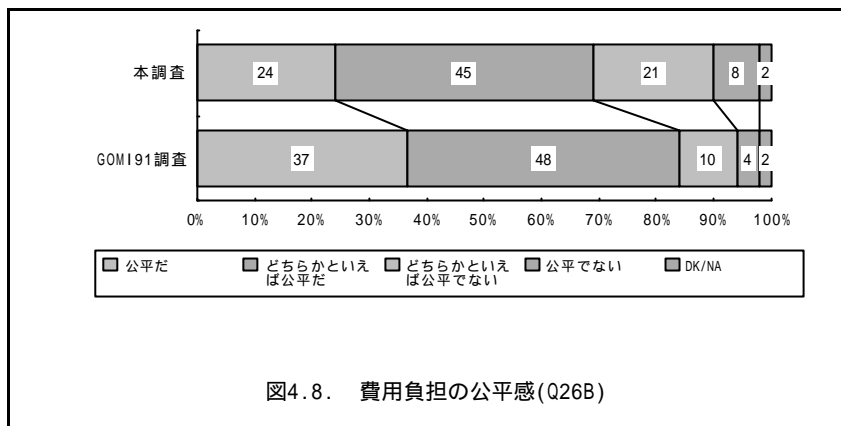


図4.8. 費用負担の公平感(Q26B)

考察（1） 公平な費用負担原理の規定因

ごみ収集・処理費用の負担基準における公平さの評価は前述のとおり多様である。この背後にはどのような要因があるのだろう。

はじめに、一般的な状況に限定せずに尋ねた場合の回答（図4.5.）との関係を見てみよう。図4.9.によれば、一般的な状況で「受けるサービスに応じて」負担することを公平ととらえる回答者ほど、粗大ごみの収集・処理の場合に「ごみの量に応じて」を公平な原理として挙げており、一般的な状況での評価とごみ収集・処理の費用負担についての評価には関連がありそうだ。こうした傾向は、一般的な状況での他の負担原理（「誰もが同じ額」「収入に応じて」）の場合にもみられる。家庭ごみの費用負担についてもほぼ同様の傾向が確認できた。

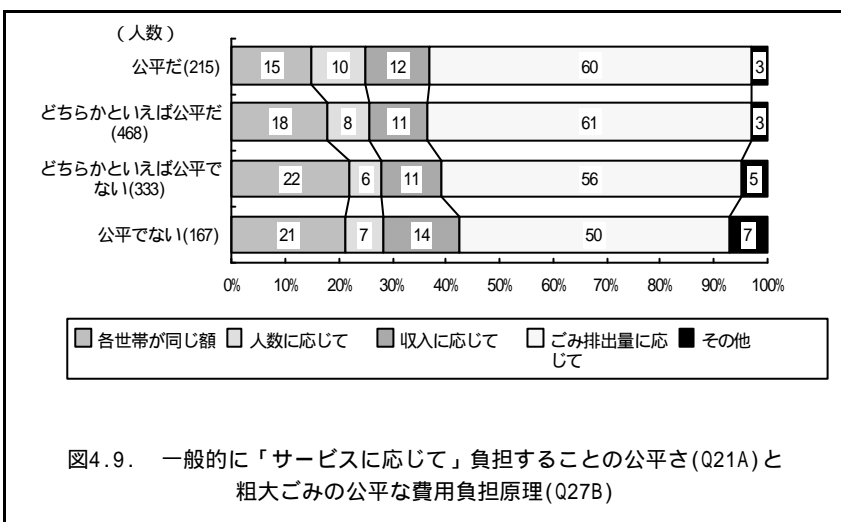


図4.9. 一般的に「サービスに応じて」負担することの公平さ(Q21A)と粗大ごみの公平な費用負担原理(Q27B)

また、公平な費用負担原理への回答を回答者の世帯収入（問38）別にみると、世帯収入が少ない回答者ほど「収入に応じて」を選ぶ傾向にあった。これも家庭ごみの場合にも同様であり、GOM191調査の分析では収入以外の側面に関しても、このように自己の負担が少なくなるような基準を公平と考えるという傾向がみられていた。本調査の結果もあわせて、今後はより詳しい分析をおこなう必要がある。

最後に、「ごみ処理費用で自治体の財政が圧迫されること」（問4B）を心配している回答者では「ごみの量に応じて」を選ぶ割合が高くなっている。これも家庭ごみの場合も同様であった。

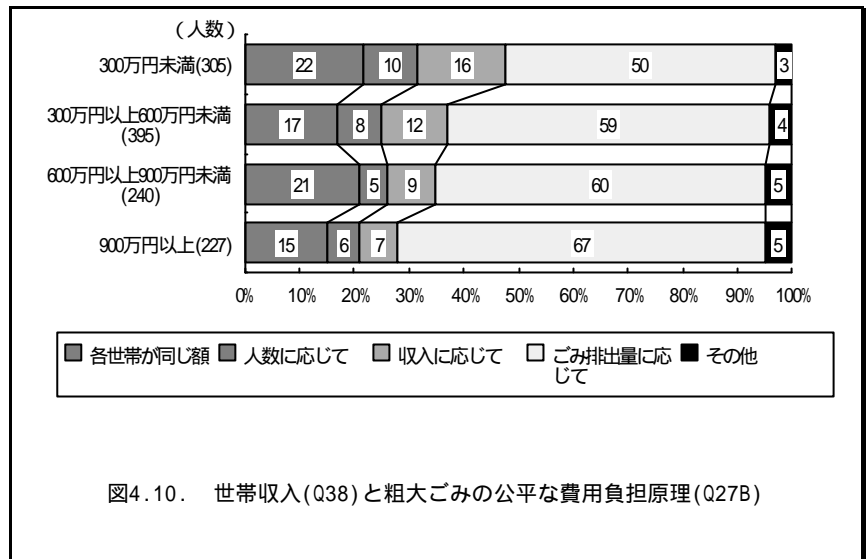


図4.10. 世帯収入(Q38)と粗大ごみの公平な費用負担原理(Q27B)

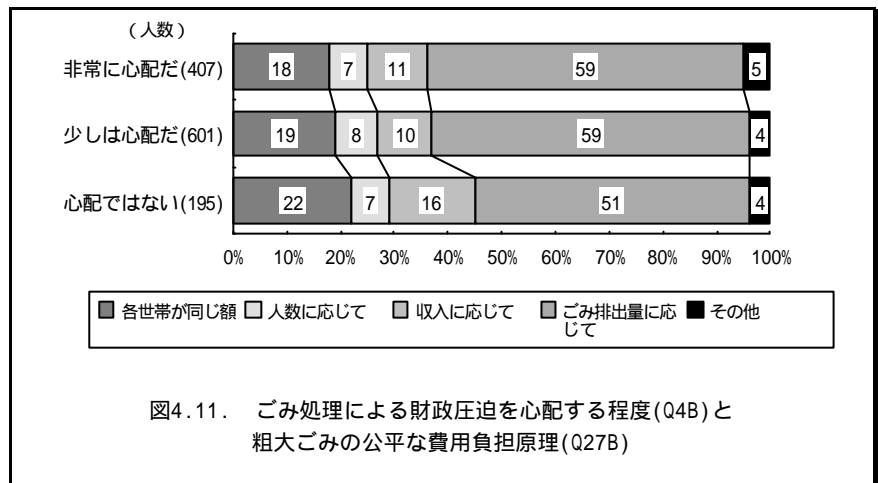


図4.11. ごみ処理による財政圧迫を心配する程度(Q4B)と粗大ごみの公平な費用負担原理(Q27B)

考察(2) 費用負担の公平感の規定因

不公平感とは、自分が公平と考えている基準や状態と現実のそれ(の認知)とが一致しないときに生じると考えられる。ここでは「粗大ごみの公平な費用負担原理(問27B)」と「負担原理の認知(問26A)」の回答が一致しているか否かで費用負担の公平感が異なるかどうかをみてみよう。図をみると、この両者が一致していない回答者の場合には一致している回答者に比べて、現実をより不公平と評価していることがわかる。

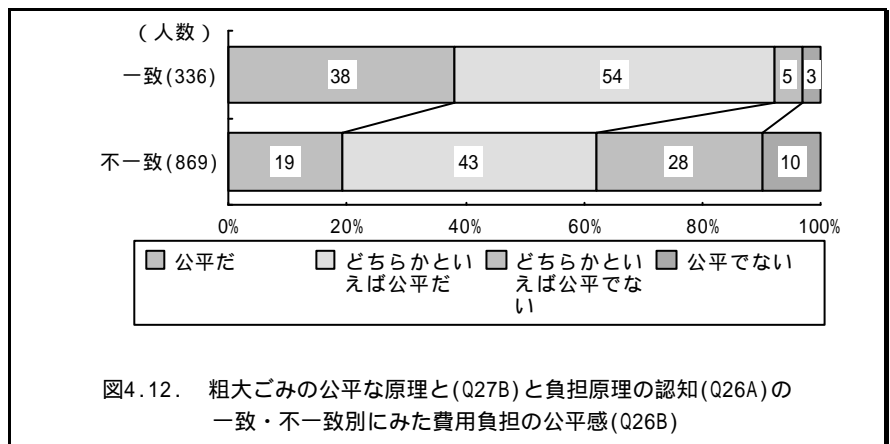


図4.12. 粗大ごみの公平な原理と(Q27B)と負担原理の認知(Q26A)の一致・不一致別みた費用負担の公平感(Q26B)

2.5. 調査対象者の基本属性

2.5.1. 回答者本人の基本属性

回答者の性別と年齢（問34）

回答者全体の性別と年齢構成が、図5.1.である。回答者の7割が女性で、3割が男性であった。平成2年の国勢調査によれば全国の男女の比率はほぼ半々であったが、今回の調査で女性の回答者の比率が多いのは、「家事を主に担当している方」に回答を依頼したためであろう。

年齢別では、20代から50代までで全体の8割を占めている。これを男女別に見ると、女性では30代から50代が多いのに対し、男性では20代と60代が多くなっている。国勢調査と比べると、全体では19歳以下が少なくなっており、また、男性の20代と60代が多くなっている。これも、「家事を主に担当している方」に依頼したためだろう。

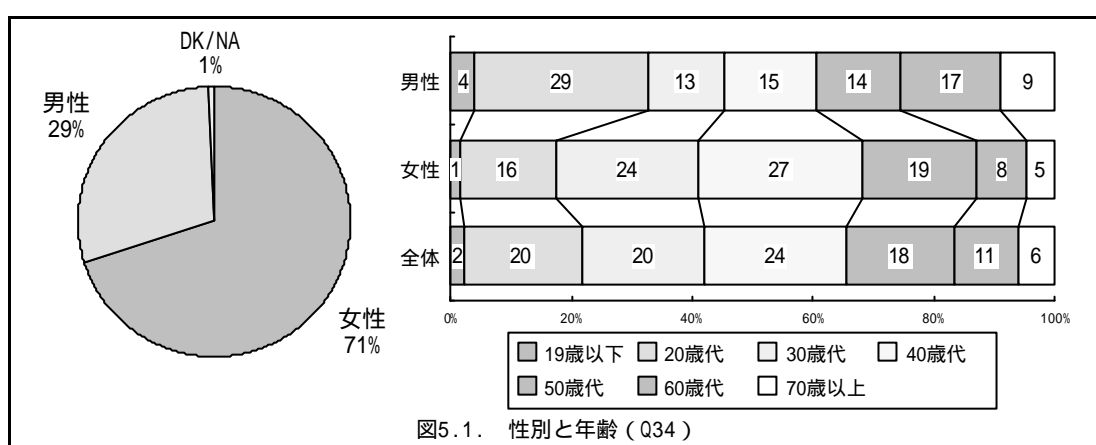


図5.1. 性別と年齢 (Q34)

回答者の学歴（問35）

回答者の最終学歴が、図5.2.である。全体に、新制高校（旧制中学校なども含む）が42%と最も多い。ついで、大学（大学院も含む）が19%と続く。

男女別に見ると、男性で大学が33%と多く、女性では新制高校が46%と多くなっている。国勢調査と比較すると、全体的に大学が多く、小・中学校が少なくなっている。

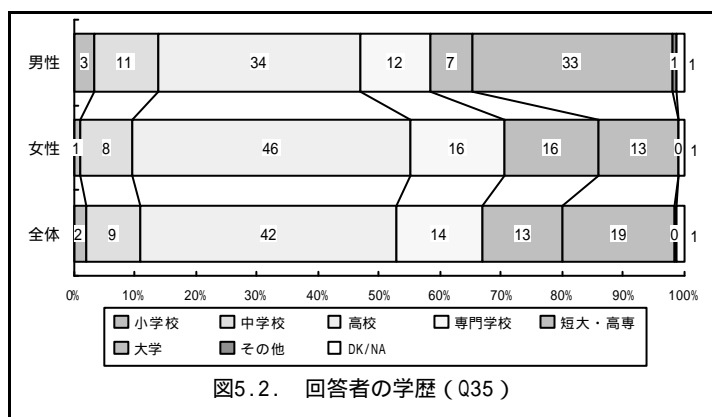


図5.2. 回答者の学歴 (Q35)

回答者の従業上の地位（問36）

回答者の従業上の地位が、図5.3.である。「常時雇用されている一般従業員」と「専業主婦」で全体の過半数を占めた。男女別では、男性のほぼ半数は「常時雇用されている一般従業員」で、女性の4割弱は「専業主婦」であった。

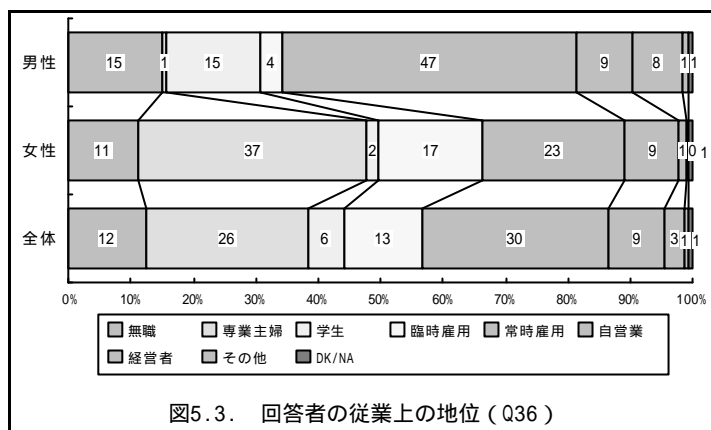


図5.3. 回答者の従業上の地位 (Q36)

回答者世帯構成（問37）

回答者が同居している家族の数が、図5.4.である。全体の3割が1人暮らしであった。これを男女別で見ると、男性の回答者のほぼ半数が一人暮らしであった。国勢調査と比較しても、男性の1人暮らしの割合が著しく多くなっている。男性の回答者で1人暮らしの割合が多くなっているのは、家族が同居している場合に男性が「主な家事担当者」になることが比較的少ないことのあらわれであろうか。しかし、今回の調査では調査票を世帯主名で郵送したため、「主な家事担当者」でない世帯主の男性が回答してしまったケースが1割弱あった。

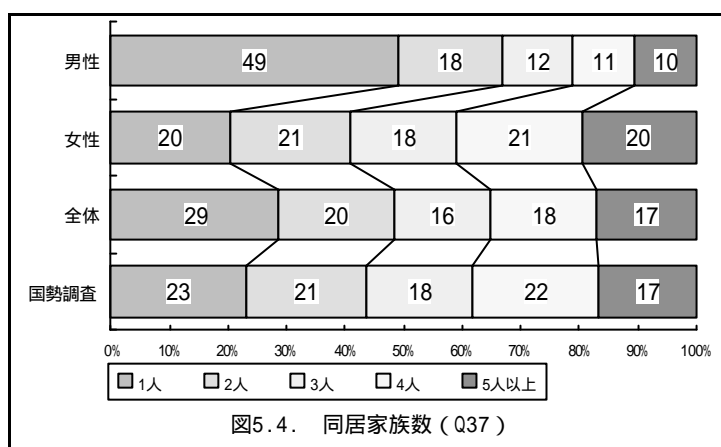


図5.4. 同居家族数 (Q37)

調査票を世帯主名で郵送したため、「主な家事担当者」でない世帯主の男性が回答してしまったケースが1割弱あった。

回答者世帯収入（問38）

回答者の世帯収入が、図5.5.である。100万以上500万円未満で全体の5割強になった。1100万円以上が比較的多くなっているのは、他のカテゴリーが100万円毎に区切っているのに対して、このカテゴリーだけ範囲が広がっているためであろう。

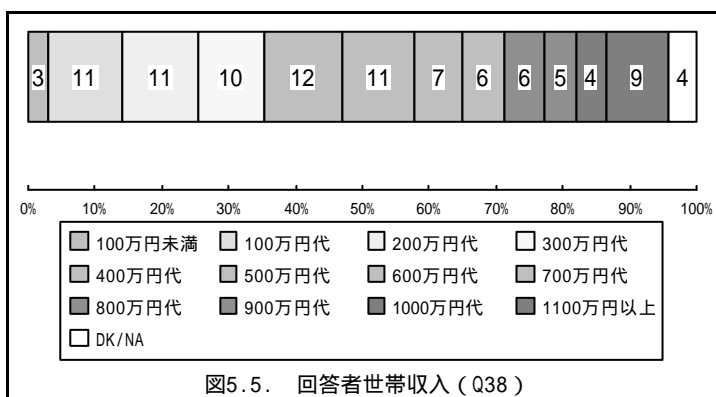
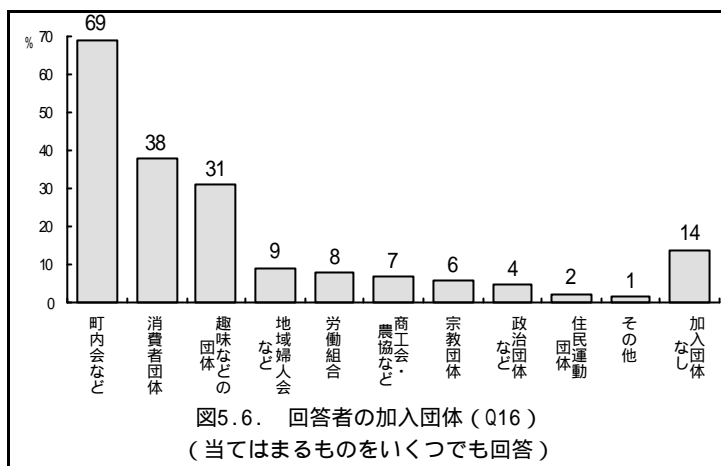


図5.5. 回答者世帯収入 (Q38)

回答者加入団体（問16）

回答者が加入している団体が、図5.6.である。「町内会、自治会」が7割、「生協、消費者団体」が4割弱、「スポーツ・娯楽・趣味の団体やサークル、学習・研究サークル」が3割であった。

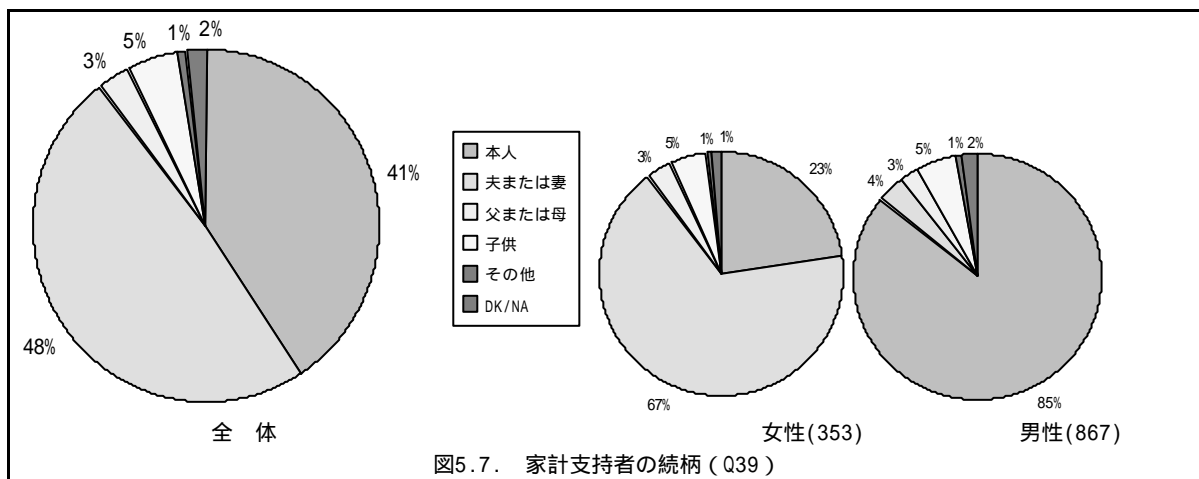


2.5.2. 家計支持者について

回答者の家庭で、単身赴任や出稼ぎで同居していない人も含めて一番収入が多い家計支持者について質問した。ただし、学生などの一人暮らしで、別居している家族からの仕送りを受けている場合は、仕送りをしている家族についてではなく、その本人について聞いた。

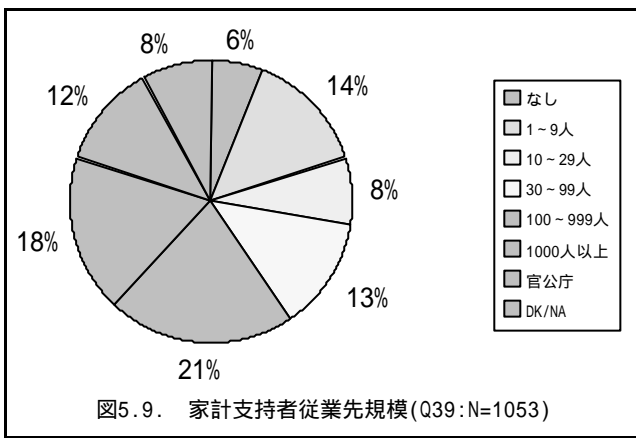
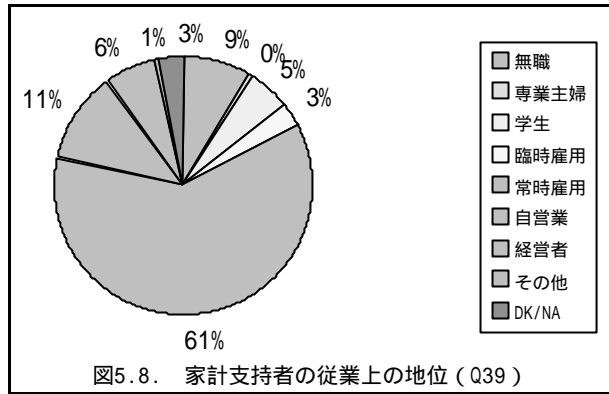
家計支持者続柄（問39A.）

回答者と家計支持者の続柄が、図5.7.である。全体に「夫または妻」が最も多く48%で、ついで「本人」が41%と続く。男女別に見ると、女性では「夫または妻」が67%で「本人」が23%であるのに対し、男性では「本人」が85%と圧倒的に多い。男性で「本人」が多いのは、男性の約半分が1人暮らしであること、世帯主が誤って記入してしまったことが原因であろう。



家計支持者の従業上の地位（問39B.）

家計支持者の従業上の地位が、図5.8.である。「常時雇用されている一般従業員」が6割を占め、ついで「自営業主または家族従業員」と「無職（年金生活者など）」がそれぞれ1割ほどいた。（図5.8.）。

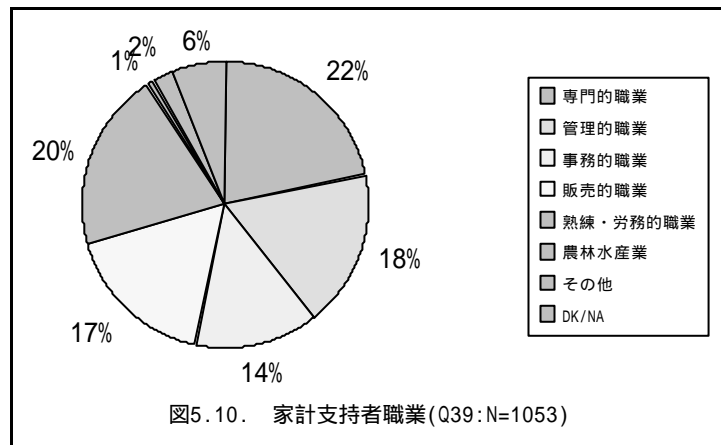


家計支持者従業先規模（問39C.）

家計支持者が勤務している組織の従業員（雇われている人）の数が、図5.9.である。「100～999人」が23%と最も多く、ついで「1000人以上」が19%であった。「官公庁」も12%いた。なお、数字は家計支持者職業（問39B.）で「無職」「専業主婦」「学生」と回答した人を除く1053人を基数とした。

家計支持者職業（問39D.）

家計支持者が勤務先でどのような仕事しているかが、図5.10.である。「専門的職業」が21%と最も多く、ついで「熟練・労務的職業」が20%、「管理的職業」が19%、「販売的職業」が18%、「事務的職業」が15%であった。「農林水産業」は1%と少なかった。



2.5.3. 社会意識

この節では、日本の代表的な社会調査の結果と比較しながら、本調査の回答者がどのような社会意識をもっているかをまとめる。ただし本調査では、世帯を単位に対象者を抽出し主な家事担当者に回答を依頼したため、前節にある通り、回答者の分布が社会全体をそのまま縮約したものではないことに留意されたい。

階層帰属意識（問15）

まず、回答者が社会のなかで自己をどのように位置づけているのかをみてみよう。もっとも多いのは「中の下」という回答でこれが全体の半数(53%)を占めている。また、「上」や「下の下」という回答は少ない。1985年のSSM調査と比べると、本調査の回答者の女性で「中の下」の割合が高い。

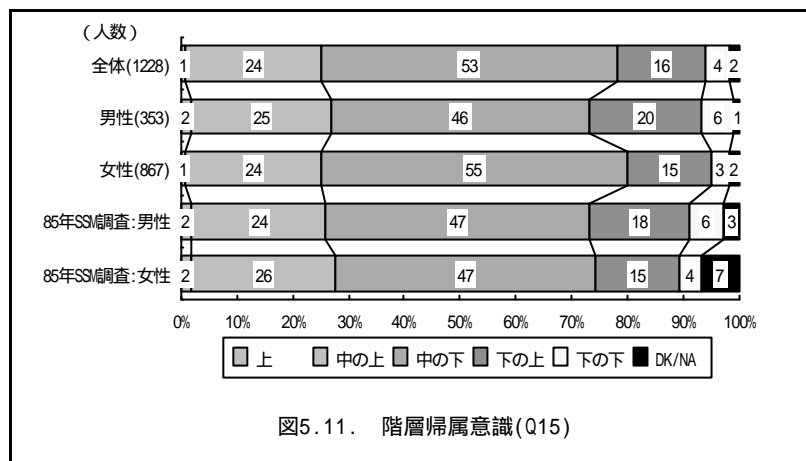


図5.11. 階層帰属意識(Q15)

生活満足感（問1）

次に、現在の自分の生活に満足しているかどうかを尋ねた。「どちらかといえば満足」という回答がもっとも多く、「満足」と合わせて7割以上の回答者が自分の生活に満足と答えていることになる。

男女別でみると、男性より女性の方が満足しているという回答が多く、これは選択肢の数が異なるため単純な比較はできないが、SSM調査の結果にも見られる傾向である。

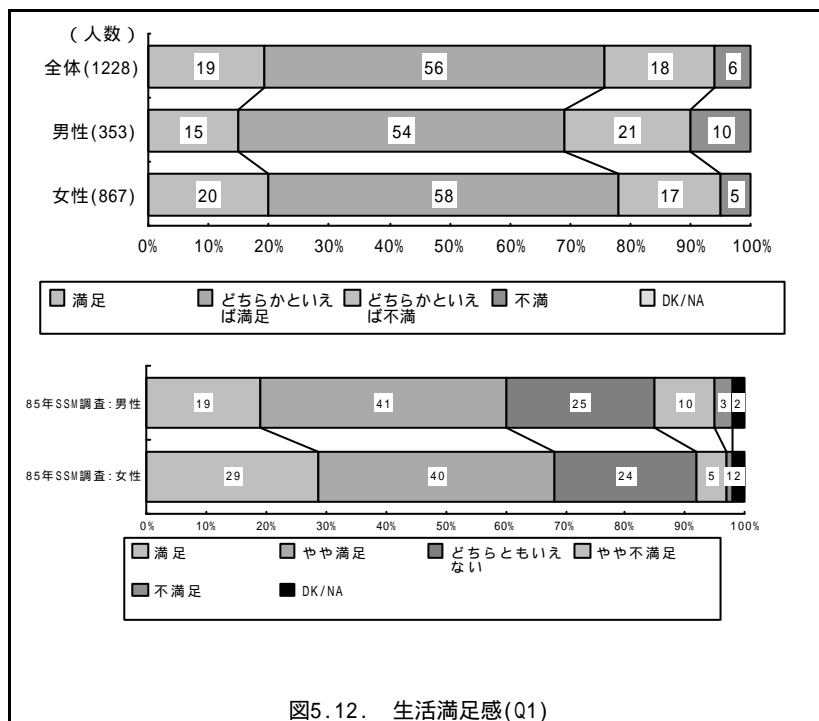


図5.12. 生活満足感(Q1)

全般的不公平感（問3）

本調査では社会全体の資源配分に対する評価として全般的な不公平感を取りあげた。「あまり公平でない」という回答が半数を占め、「公平でない」と合わせて7割以上の回答者が現在の日本社会を不公平と評価している。男女別に見ると、女性の方が『公平でない』という割合が高い。男性についてSSM調査と比べると、『公平でない』という回答者がやや多いものの、ほぼ同様の分布といえるだろう（1985年SSM調査の女性用調査票にはこの質問は入っていない）。

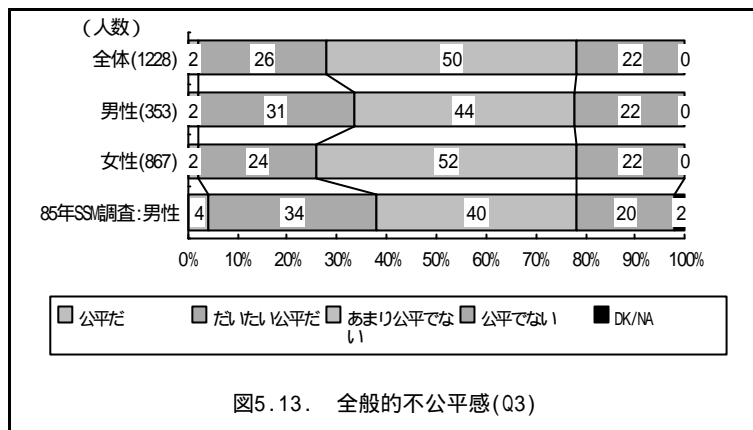


図5.13. 全般的な不公平感(Q3)

政党好感度（問20）

本調査では回答者に、好きか嫌いかに分けたときに好きなほうに入る政党を挙げてもらうという形式で、政党好感度を尋ねた（複数回答）。

「好きなほうに入る」として挙げた回答者がもっとも多いのは「日本新党」であり（26%）、次いで「新生党」「自民党」「新党さきがけ」などが2割前後で続いている。ただし回答者の4割弱は「どの政党も好きではない」と答えている。

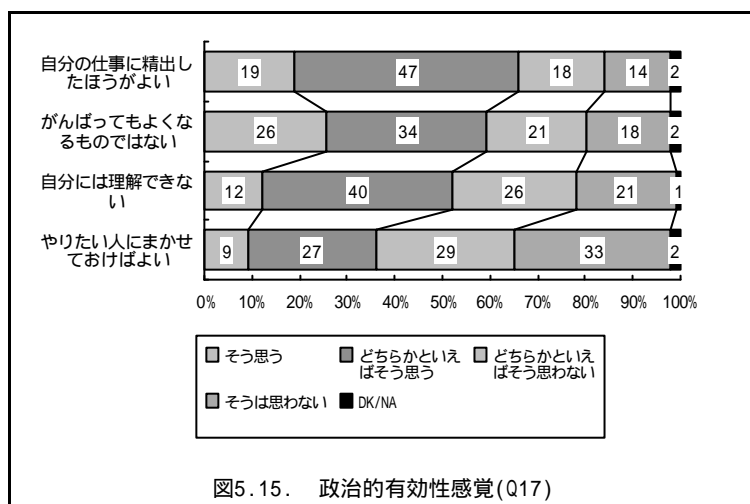


図5.15. 政治的有効性感覚(Q17)

政治的有効性感覚（問17）

政治への関り方についての考え方を尋ねた。「政治よりも自分自身の仕事に」では7割近くの人が『そう思う』と答えている。「少々がんばったところでよくなるものではない」については6割、「政治は難しすぎて自分には理解できない」は5割強の回答者が肯定しているが、「政治はやりたい人にまかせておけばよい」という回答者はやや少ない。

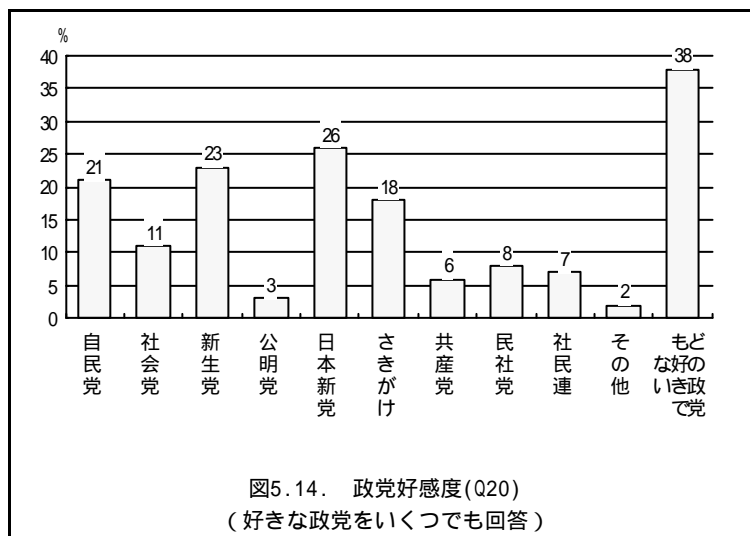


図5.14. 政党好感度(Q20)
(好きな政党をいくつでも回答)

発言力・影響力（問18）

次に、身近な場面における自分の発言力や影響力についての回答をみてみよう。「消費者団体や生協」「町内会くらの地域社会の人々」「仙台市の政策」という3つの場を設定しそれぞれについて尋ねた。いずれについても「ほとんどない」という回答が多いが、逆に市の政策に関して『ある』という人が1割も存在するという事もできる。

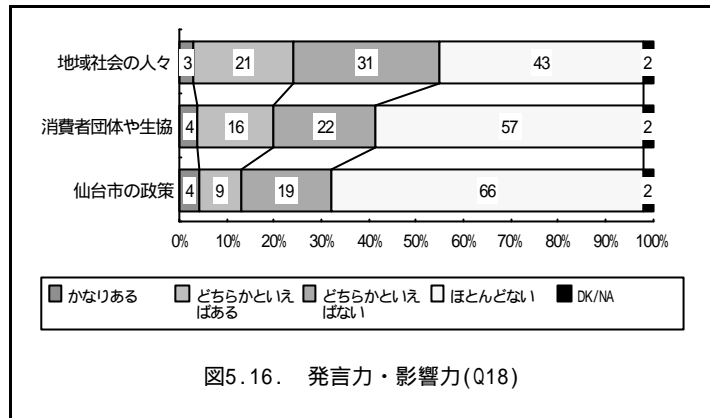


図5.16. 発言力・影響力(Q18)

つきあいの程度（問19）

「地方議会議員」「市や県の職員」「町内会や自治会の役員」「大企業の経営者」などとのつきあいがどの程度あるかを尋ねた。「地方議会議員」や「大企業の経営者」などに比べると、やはり「市や県の職員」「町内会や自治会の役員」とのつきあいをもつ人は多いようだ。

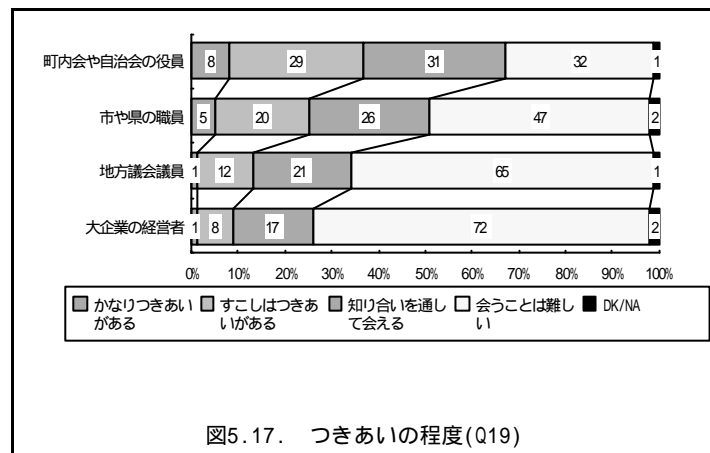


図5.17. つきあいの程度(Q19)

自然と人間との関係（問2）

人間が幸福になるためには自然とどのような関係にあるべきかを尋ねた。「自然を利用しなければならぬ」が半数を占めており、「自然を征服してゆかなければならない」という回答者は少ない。また男女別では女性の方が「自然に従う」の比率が高く、これは1988年におこなわれた国民性調査と同様の傾向である。ただし本調査では国民性調査に比べて全体的に「自然を利用」の比率が高く、「自然を征服」の比率が低い。

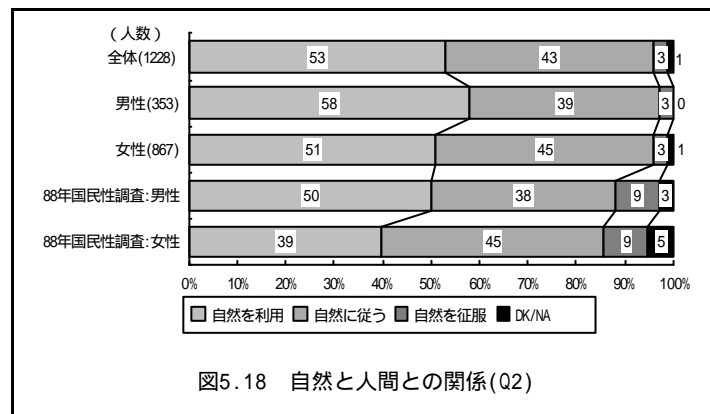


図5.18 自然と人間との関係(Q2)

3．まとめと今後の課題

今回の調査結果について、調査目的に即して簡単にまとめるとともに、今後の課題を提示したい。まず、本調査の回答者の特性を述べると、回答者の7割が女性であり、女性の4割弱は専業主婦である。臨時雇用の女性が2割弱、常時雇用が2割強いる。男性は半数が常時雇用である。女性は40歳代、男性は20歳代がともに3割弱でもっとも多い。

3.1. 現行のごみ処理制度の利用と評価

3.1.1. ごみ排出容器について

仙台市では1991年4月より市指定の透明ごみ袋を導入した。GOMI91調査では透明ごみ袋の賛成派は4分の1程度で、「透明でないほうがよい」という回答の4割を下回っていたが、今回の調査では『透明がよい』という回答が7割以上と大幅に増加した。透明袋への意見としては、危険ごみ、資源ごみの混入が減るなどの肯定的意見が多いが、「自分のごみが他人に見えてしまう」という否定的意見も約4割と、それについて多くなっている。

透明袋を評価しているのはどのような人々かを明らかにするためにいくつかのクロス集計を行ったところ、年齢が高い人ほど、また、政治的有効性感覚の高い人ほど「透明がよい」と答える傾向があった。また、透明袋への意見との関連について分析すると、「営業ごみの混入が減る」、「清潔に見える」といった袋への肯定的意見を支持する人ほど、『透明がよい』と答えている。「集積所周辺が汚く見える」と感じるという人では、『透明がよい』と答える人は4割程度である。

現在使っている家庭ごみの排出容器について聞いたところ、多くの人が「市販の指定袋」や「指定マーク付きの買い物袋」を使っていると答えている。ポリバケツの中に指定袋を使用している人も1割強存在する。

市販の指定袋を使っているのは、臨時雇用、専業主婦の人が多い。ポリバケツを比較的使っているのは、自営業、無職、経営者などの人である。

3.1.2. 粗大ごみ、処理困難物について

粗大ごみを出すときに不便なこととしては、「収集回数が少ないので、保管しておくのがたいへんだ」という答えがもっとも多く、集積所の遠さや時間についての不満が、それに次いで多い。

「収集回数の少なさ」をもっとも多く指摘しているのは常時雇用者であり、「集積所の遠さ」を挙げているのは臨時雇用者であった。「朝早い」は専業主婦、「収集日がわからない」は学生や常時雇用者が多く挙げている。「不便はない」と答えているのは学生や無職の人に多い。

処理困難物の処理の仕方についてたずねたところ、「新しいものを買った店が引き取る」がもっとも多く、大型家電製品、自動車、タイヤ、原動機付き自転車、消火器、バッテリーがそのように処理されていた。暖房機器、中型・小型家電製品は「市の粗大ごみ収集」に出されることが多く、カセットコンロなどのガスボンベや薬品類は「資源ごみ収集」に出されることが多い。

3.1.3. 処理施設建設について

処理施設建設に賛成する場合の条件としては、「公害・事故が無い」、「事前に十分な説明があること」といった条件をあげる人が多い。性別と処理施設建設の条件との関連を見ると、各条件について、女性の方がより多く挙げているが、「清掃工場の熱の利用など周辺住民に利益があること」という条件だけは男性の方がより多く選んでいる。特に、「ごみ減量対策実施」は、男女による違いが大きい。また、「ごみ減量対策実施」以外の条件については、政治的有効性感覚が高い人ほど、各条件が必要だと答えている。「ごみ減量対策実施」という条件は、他の条件とは性質が違うようである。

処理施設建設に対する行動として最も多いのは「何もしない」であり、次いで「行政の説明会に

参加」、「行政と話し合う」、「町内会などで話し合う」の順だった。

今後の課題としては以下のようなことが考えられる。透明袋の評価については、属性や社会意識との関連が明らかになったが、袋の評価を規定している要因を、さらに究明する必要があるだろう。袋が透明であることについて、どのような人が賛成し、どのような意識が背後にあるのかをさらに検討する必要がある。また、透明袋が導入されて2年半の間に賛成派が増えた原因は何かを分析することも、今後の課題として残されている。使用している容器や、粗大ごみについても、現行制度の利用状況とその問題点を明らかにするという観点から、さらなる分析が望まれる。

処理施設建設の条件についても、どのような要因が各条件に影響を与えているのか、各条件の規定因を明らかにする必要があるだろう。なぜ女性の方が各条件を挙げるのか、その背後では、環境問題への意識や、自己の生活する環境への関心など、どのような意識や回答者の特性が影響しているのかを、さらに調べる必要があるだろう。

3.2. ごみ減量：意識と行動

3.2.1. ごみ問題に関する意識

ごみ問題には様々な側面があるが、今回の調査では「ごみが大量に排出されるために処理の能力が追いつかないこと」「ごみ処理にかかる費用のために自治体の財政が圧迫されること」「使い捨てのものが大量に消費されて天然資源が浪費されること」の3つの側面についてその心配度を聞いた。全体的に心配度は高かったが、どの側面も男性よりも女性の方が心配度が高かった。また、世帯収入別に心配度を見てみると、収入が多い方が心配度が高くなる傾向があった。

3.2.2. ごみ減量行動と意識

8割弱の人が、何らかのごみ減量行動を実行していた。そして、資源回収やちり紙交換に古新聞を出すことについては、『手間がかからないし、他の市民は実行しており、実行することはごみ問題の解決に有効で、実行すべきであるし、今後自分は協力できる』と考える人と、『手間がかかるが、他の市民は実行しており、実行することはごみ問題の解決に有効で、実行すべきであるし、今後自分は協力できる』と考える人が4割弱ずついた。両者の違いは「手間がかかると思うかどうか」であるが、手間意識別にごみ減量行動の実行の度合をみてみると、『手間がかからない』と思う人の方がごみ減量を実行している傾向が強かった。

3.2.3. コンポスト容器（生ごみ堆肥化容器）

コンポスト容器を使用している人は1割にも満たなかったが、今後使用してみたいという人が3割ほどいた。コンポスト容器の使用についての意識は、『手間がかかるし、他の市民は実行していないが、実行することはごみ問題の解決に有効で、実行すべきである。しかし、今後自分は協力できない』という人と、『手間がかかるし、他の市民は実行していないが、実行することはごみ問題の解決に有効で、実行すべきであるし、今後自分は協力できる』という人が2割ずついた。両者の違いは、「今後自分は協力できると思うかどうか」である。同居家族数別にコンポスト容器の使用をみてみると、同居家族数2人以下と3人以上では、2人以下の方が「使うつもりはない」という人が多く、コンポスト容器の使用・意識には住宅環境が大きく関連していると思われる。

今後の課題としては、次のようなことがあげられる。ごみ減量行動に関しては「手間意識」が大きな阻害要因になっていたため、「手軽にできるごみ減量行動」を周知させることが必要であろう。しかし一方で、「手間意識」を感じながらも減量行動を実行していた人が少なからず存在した。どのような要因が「手間意識」を克服させるのかをさらに分析しなければならない。また、コンポスト容器に関しては「設置場所」が大きな阻害要因になっていたため、「アパートやマンションなどでも使えるコンポスト容器」が必要であろう。さらに、コンポスト容器で生産された堆肥の利用

ルートについても、制度化が必要と思われる。

3.3.消費行動

3.3.1.商品購入時のごみ減量意識

商品を買う際にできるごみ減量行動として、過剰包装を断ることと使い捨て商品を買わないということに焦点をあててそれぞれの意識を聞いた。どちらについても『手間がかからないが、他の市民は実行していない。しかしごみ問題解決に有効であり、しかも実行すべきことで、今後自分は協力できる』という人が一番多く、次に『手間がかかるし、他の市民は実行していない。しかしごみ問題解決に有効であり、しかも実行すべきことで、今後自分は協力できる』という人が多かった。

年齢別に、「過剰包装を断ることの手間意識」と「使い捨て商品を買わないことの手間意識」をそれぞれみると、「過剰包装」のほうは、若い人の方が「手間がかからない」と考える傾向があったのに対し、「使い捨て」のほうは、年齢が高い人ほど「手間がかからない」と考える傾向があった。

3.3.2.商品購入の基準

トイレトペーパーやティッシュペーパーを買う際に重視することとしては、8割弱の人が「値段」、5割の人が「品質・機能」、3割の人が「再生紙を使った商品であること」をあげた。また、再生紙を使っていない商品と再生紙を使っている商品がある場合、『同じ値段なら再生紙の方を買ってもよい』という人が6割、『多少高くても再生紙の方を買ってもよい』という人が1割強、『再生紙の方が安いのであれば再生紙の方を買ってもよい』という人が1割いた。

また、商品購入の際に「値段」を重視する人の方が、『同じ値段なら再生紙の方を買ってもよい』と回答する傾向が強く、「再生紙を使った商品であること」を重視する人は、『多少高くても再生紙の方を買ってもよい』と回答する傾向が強かった。

3.3.3.環境にやさしい商品の購入

エコマーク商品などの環境にやさしい商品との接触度を男女別にみると、女性の方が比較的接触度が高かった。また、年齢別にみると、若い人の方が接触度が高い傾向があった。

また、エコマーク商品との接触度と環境にやさしい商品に対する不満との関係をみると、「どのくらい環境保全に役立つかわからない」「広報活動が足りない」という回答は全般的に多かったが、エコマークを基準にした商品購入の経験がある人には、「商品の種類が少ない」「扱っている店が少ない」「商品の値段が高い」という回答が多いという傾向があった。

今後の課題としては次のようなことがあげられる。過剰包装を断ったり使い捨て商品を買わないことが、ごみ問題解決のために有効な手段であると認知されているにもかかわらず、多くの人は「他の市民が実行していない」と考えている。しかし、本当に市民の多くは実行していないのだろうか。もし実行している人が多いのであれば「他の市民は実行していない」と考える人は誤った認知をしているということになり、どのような要因が認知を歪めているのかを分析する必要がある。またもし実行している人が少ないのであれば、なぜ「有効な」行動を実行しないのか、その規定因を探る必要がある。

また、環境にやさしい商品については、その有効性や選定の基準などを明確にしていく必要がある。さらに、商品の種類・値段・取扱店などを整備し、環境にやさしい商品が広く受け入れられるようにしていくべきだろう。

3.4.ごみ収集・処理の費用負担

3.4.1.有料化への意識

本調査では、有料化に関して実際に人々がどのように考えているかを探った。その結果、家庭ご

みに関しては、回答者の多くが現状通り税金でまかなうことを望ましいとしている。しかし、粗大ごみに関しては、税金でまかなうことを望ましいとする回答者は2割強であり、なんらかの有料化を許容する人が多かった。また世帯収入の多い回答者ほど、そしてごみ処理費用による財政への影響を心配する回答者ほど、有料化に肯定的な意見をもっていることが確認された。

3.4.2.ごみ収集・処理費用の公平な負担

ごみ収集・処理の有料化は、「誰がどれだけ負担すべきか」という公平さの側面からも検討しなければならない問題である。本調査では、人々は現在の費用負担をどのような基準であると認知しているのか、そしてそれを公平と感じているか否かを尋ねた。その結果、回答者の半数は現状を「各世帯が同じ額ずつ負担している」と認識しており、また7割近くが『公平だ』と評価していることがわかった。また、公平と考えているのはどのような基準なのかを尋ねると、家庭ごみと粗大ごみでは回答が異なり、家庭ごみの場合には意見が多様だが、粗大ごみでは6割弱が「ごみの量に応じて」という基準を公平なものとして挙げている。

なお、これら公平さの評価に関しても、世帯収入や財政圧迫の心配度といった要因と関連があることや、現状の認知と公平と考えている基準が一致しているかどうかで公平感に違いが生じていることが確認できた。

最後に、ごみ収集・処理の費用負担に関する今後の課題をまとめておこう。

まず望ましい費用負担に関しては、属性も意識も多様な人々のあいだでどのようにして合意が可能なのか、また本調査でみられた不法投棄への懸念を解消するにはどのような制度が必要なのかを検討しなければならないだろう。そのためにはまず、背後にある要因間の関連をより詳しく分析し、有料化への意識がどのように規定されているのかを明確にしていく必要がある。

次に、公平な費用負担原理に関しては、こうした公平さの評価がおこなわれるメカニズムを詳しく分析すること、そして2.4.1.で検討した望ましい費用負担との関連を明らかにしていくことが挙げられる。

4 . 付 録

付録4.1. 調査依頼の葉書

調査ご協力のお願い

拝啓

皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて私ども生活環境形会では、数年来、ご問題を中心とした環境問題に関して研究を進めてまいりました。この度「生活と環境に関する仙台市民意識調査」を実施することになり、貴宅にもご協力を賜たく、ご連絡させていただきます。次第です。質問用紙を後日、郵送いたしますので、貴宅で家事をなさっている方に記入をお願い申し上げます。

【調査対象】 調査の対象となられる方は、仙台市の住民基本台帳の中から1,500世帯をくじりきのような方法(無作為抽出)を用い、私どもで選ばせていただきました。

【プライバシーについて】 回答は徹底的に処理され、お名前などお名前などプライバシーに関する事柄が外部に漏れることはございません。

【回収方法】 11月12日(金)から15日(月)にかけて、学生職員が直接お宅におうかがいいたしますので、質問用紙をお渡し下さい。

ご協力、ご協力、ご協力は、調査結果をお届けするともども、粗末を申し上げます。お忙しい中、ご迷惑とは存じますが、主旨ご理解の上、ご記入を賜りますようお願い申し上げます。なお、ご不明点などございましたら、

下記までご連絡いただけます。敬具

調査主体:生活環境形会 (代表 東北大学文学部教授 海野道郎)

〒980仙台青葉区川内 東北大学文学部附属生活環境形会
TEL222-1800内線2671 (担当:村瀬・阿部・中野)

付録4.2. 調査依頼状

注) 実際には1ページをB5版で作成。
「調査ご協力のお願い」の裏に「仙台市のごみ収集区分」を印刷した。

「生活と環境に関する仙台市民意識調査」

調査ご協力をお願い

拝 啓

晩秋の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、同封いたしましたのは、先日、葉書にてお願いしました調査の質問用紙です。私ども生活環境研究会（東北大学文学部を拠点とする研究グループ）では、数年来、環境問題の研究を進めてまいりましたが、この度、調査をおこなうことになり、ご協力を賜りたく、ご連絡させていただいた次第です。この調査における主な目的は、仙台市民の生活環境に直接関わる生活廃棄物の問題を取り上げ、市民の皆様がどのようにお考えになり、またどのように行動されているのかを知ることです。

お送りした宛名は世帯主の方になっておりますが、質問のなかにはごみの捨て方など、かなり具体的なことをお聞きするものがあります。そこで、

1) 1人世帯については、もちろんご本人に、

2) 2人以上の世帯については、家事を主に担当しておられる方に、回答していただきたいと考えております。

また、この調査は市民の全体的な傾向を把握するためにおこなうものであり、皆様が一人ひとりのお考えを調べるものではありません。質問用紙には氏名を記入する欄も設けておりませんし、お寄せいただいたお答えは統計的に処理し数字や図表の形で公表いたしますので、二人ひとりの回答やお名前が外部に漏れることは一切ございません。

ご協力いただいた皆様には、調査結果をお届けするとともに、粗品を進呈いたします。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査の性格上、仙台市環境局に一部ご協力いただきました。

敬 具

< 質問用紙の回収 >

下記の日程で学生調査員がうかがう予定でありますので、それまでにご記入の上、質問用紙をお渡しいただければ幸いに存じます。

回収期間： 11月12日（金）～11月15日（月）

< 問い合わせ先 >

この調査に関してご不明の点などございましたら、お手数ですが下記までご連絡いただければ幸いです。

調査主体：生活環境研究会（代表 東北大学文学部教授 海野道郎）

〒980 仙台市青葉区川内 東北大学文学部行動科学研究室内

TEL 213-9933（11月15日まで、担当：村瀬、阿部、中野）

222-1800 内線 2671（11月16日以降）

付録4.3. 調査票

注) 実際には1ページをB5版で作成。

生活と環境に関する仙台市民意識調査

1993年11月

調査主体：生活環境研究会
（代表：東北大学文学部教授
海野道郎）

調査用臨時電話：213-9933
（担当：村瀬、阿部、中野）

回答をお願いしたい方について

これからおうかがいする質問の中には、ごみの捨て方など、生活についてかなり具体的なことをお聞きするものがあります。そこで、

- 1) 1人世帯については、もちろんご本人が、
- 2) 2人以上の世帯については、家事を主に担当しておられる方が
お答えください。

回収について

ご記入いただいた調査票は、そのままお宅に保管し、学生調査員がお宅におうかがいした時にお渡しください。回収期間は次の通りです。

回収期間：11月12日(金)から15日(月)まで

*** 記入上の注意 ***

1. この調査は試験やクイズではありませんから、正しい答や誤った答があるわけではありません。あなた自身のお考えをありのままに記入して下さい。
2. 答の欄が一重の枠 で囲まれている質問では、枠内の選択肢のなかから当てはまるものを一つ選び、その番号を で囲んで下さい。
3. 答の欄が二重の枠 で囲まれている質問では、枠内の選択肢のなかから当てはまるものを複数選び（一つでもかまいません）、その番号を で囲んで下さい。
4. 数字や番号・具体例などを枠内に記入していただく質問については、なるべくくわしく、明確に記入して下さい。枠内に書ききれない場合には、欄外にご記入下さい。
5. 筆記具は、何でもかまいませんが、必ず黒色のものをお使い下さい。また、お答を訂正するときには、前の答をしっかりと消すか、×印をつけるなどして訂正したことをはっきり示して下さい。

なお、別紙（お願い状）の裏面に、生活ごみの収集区分表がございますのでご参照下さい。

それでは、ご協力のほどよろしく申し上げます。

はじめに、生活や社会についての一般的なことをおうかがいします。

問1 あなたは、現在の自分の生活に全体として満足していますか、満足していませんか。

- 1 満足している
- 2 どちらかといえば満足している
- 3 どちらかといえば不満である
- 4 不満である

問2 「自然」と「人間」との関係について、次のような意見があります。あなたがこのうち真実に近いと思うものを、一つだけ選んで番号に をつけて下さい。

- 1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない
- 2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
- 3 人間が幸福になるためには、自然を征服してゆかなければならない

問3 一般的にいて、今の日本社会は公平だと思いますか。あなたの気持ちは、次のうち、どれに近いですか。

- 1 公平だ
- 2 だいたい公平だ
- 3 あまり公平でない
- 4 公平でない

次に、生活環境やごみ問題のことについておうかがいします。

問4 「ごみ問題」にはさまざまな側面があります。次に挙げるいろいろな側面を、ふだん、どのくらい心配していらっしゃいますか。それぞれについて、当てはまる番号に をつけて下さい。（アルファベットではなく、右枠内の番号のいずれかに をつけるようにして下さい。）

	非常に 心配だ	少しは 心配だ	あまり心 配でない	全く心 配でない
A ごみが大量に排出されるために、 処理の能力が追いつかないこと	1	2	3	4
B ごみ処理にかかる費用のために 自治体の財政が圧迫されること	1	2	3	4
C 使い捨てのものが大量に消費されて	1	2	3	4

天然資源が浪費されること

問5 現在、仙台市が指定しているごみ袋が透明であることについて、あなたはどのように思いますか。あなたのお考えにもっとも近いもの一つに をつけて下さい。

- | |
|---------------------|
| 1 透明である方がよい |
| 2 どちらかといえば透明である方がよい |
| 3 どちらかといえば透明でない方がよい |
| 4 透明でない方がよい |

問6 あなたは次に挙げるような行動は、ごみ問題の対策としてどのくらい役立つと思いますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に をつけて下さい。

	非常に役立つ	少しは役立つ	あまり役立たない	全く役立つたない
A 過剰包装は断る	1	2	3	4
B 使い捨ての商品を買わない	1	2	3	4
C 古新聞・古雑誌などを、資源回収やちり紙交換に出す	1	2	3	4
D コンポスト容器（生ごみを堆肥にするための容器）を使用する	1	2	3	4

問7 あなたは、ごみ問題の対策として、次に挙げるようなことは、どのくらい手間がかかると思いますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に をつけて下さい。

	非常に手間がかかる	少しは手間がかかる	あまり手間がかからない	全く手間がかからない
A 過剰包装は断る	1	2	3	4
B 使い捨ての商品を買わない	1	2	3	4
C 古新聞・古雑誌などを、資源回収やちり紙交換に出す	1	2	3	4
D コンポスト容器（生ごみを堆肥にするための容器）を使用する	1	2	3	4

問8 お宅では現在、仙台市がおこなっている家庭ごみの収集に、どのような方法で、ごみを出していますか。当てはまるものをいくつでも選んで、番号に をつけて下さい。

なお「指定袋（仙台市が指定しているごみ袋）」には、「市販の指定袋」と「スーパーマーケットなどで渡される指定マーク付き買い物袋」とがあります。どの「指定袋」について質問しているかは、選択肢の中に示してありますので、注意してご回答下さい。

- 1 ポリバケツの中に、ごみを直接入れて出す
- 2 ポリバケツの中に、「市販の指定袋」を入れて出す
- 3 ポリバケツの中に、「指定マーク付きの買い物袋」を入れて出す
- 4 ポリバケツの中に、指定以外の袋を入れて出す
- 5 ポリバケツを使わず、「市販の指定袋」で出す
- 6 ポリバケツを使わず、「指定マーク付きの買い物袋」で出す
- 7 ポリバケツを使わず、指定以外の袋で出す
- 8 コンテナボックスに入れる
- 9 集積所を利用せず、すべて自家処理している
- 10 その他

具体的に：

問9 あなたは、指定袋が透明であることについて、どのように感じますか。次の中から、あなたのお考えに当てはまるものをいくつでも選んで、番号に をつけて下さい。特に何も感じない方は8に をつけて下さい。

- 1 自分のごみの中身が他人に見えてしまう
- 2 透明な袋がたくさん積んであると、集積所周辺が汚く見える
- 3 中に何が入っているか分かり、危険なごみを出す人が減る
- 4 中に何が入っているか分かり、資源ごみを混ぜて捨てる人が減る
- 5 中に何が入っているか分かり、営業ごみ（お店などからでるごみ）を混ぜて捨てる人が減る
- 6 黒い袋よりも清潔に見える
- 7 その他

具体的に：

- 8 特に何も感じない

問10 もし仮に、あなたの住んでいる地域に清掃工場やごみの埋立地などのごみ処理施設が建設されることになった場合、賛成するにはどのような条件が必要でしょうか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んで、番号にをつけて下さい。

1	どんな条件があっても賛成しない
2	特に条件がなくても賛成する
3	施設を作る側から、事前に十分な説明があること
4	施設が必要だと納得できること
5	場所を決めるときに他の場所と比較された結果であること
6	悪臭、騒音、煙などの公害や、事故の発生がないような施設にすること
7	清掃工場の熱の利用や、埋め立て地の跡地の利用など、周辺住民に利益があること
8	皆が出すごみの量を減らすような対策を講じること
9	その他

具体的に：

問11 ごみ処理施設は、市民の生活のためにはなくてはならないもので、どこかには建設しなければなりません。もし仮に、あなたの住んでいる地域に清掃工場やごみの埋立地などのごみ処理施設が建設されることになったなら、あなたは、自分の意見を政策に反映させるためにどのような行動をとると思いますか。次の欄にいくつでも具体的に書いて下さい。何もしない方は、次の欄に「何もしない」と書いて下さい。

具体的に：

問12(a) あなたの家庭では、コンポスト容器（生ごみを堆肥にするための容器）を使用して

いますか、それとも使用していませんか。当てはまるもの一つに をつけて下さい。

1 使っている	- 2 持っているが、使っていない
	- 3 まだ持っていないが、 使いたいと思う
	- 4 使うつもりはない

↓ ↓

問12(b) 【問12(a)で 1 を選ばれた方だけにお聞きします】コンポスト容器を使用しているのには何か理由があることと思います。次の中から当てはまるものをいくつでも選んで、番号に をつけて下さい。

問12(b) 【問12(a)で 2,3,4 を選ばれた方だけにお聞きします】コンポスト容器を使用していないのには何か理由があることと思います。次の中から当てはまるものをいくつでも選んで番号に をつけて下さい。

1 市がすすめている(補助制度がある)から
2 近所の人が使っているから
3 長い間の習慣だから
4 近所の目があるから
5 当然のことだと思うから
6 他の人に迷惑をかけたくないから
7 ごみ問題の解決に役立つと思うから
8 その他 具体的に： <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>

1 手間がかかるから
2 お金がかかるから
3 近所の人が使っていないから
4 コンポスト容器を使う習慣がないから
5 コンポスト容器を使っても、ごみの量が減るとは思わないから
6 生ごみがあまり出ないから
7 他の人に迷惑がかからないと思うから
8 コンポスト容器の性能が良くないから
9 コンポスト容器をおく場所がないから
10 その他 具体的に： <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>

問13 あなたは、エコマーク(環境保全に役立つ商品に付けられるマーク)の付いた商品を買ったことがありますか。当てはまるもの一つに をつけて下さい。

エコマーク

1 エコマークを目安にして商品を買ったことがある
2 エコマークを目安にしたことはないが、エコマーク商品を買ったことはある
3 エコマーク商品を買ったことはないが、エコマークについて見たり聞いたりしたことはある
4 エコマークについて全く知らない

問14(a) お宅では、ふだん、ごみの量が少なくなるようにしていらっしゃいますか。過剰包

装を断るとか、古新聞などを資源回収に出すとか、どんなことでも結構です。当てはまるもの一つに をつけて下さい。

1 必ずそうしている	3 あまりしていない
2 たいていそうしている	4 まったくしていない

↓ ↓

問14(b)【問14(a)で 1 または 2 を選ばれた方にお聞きします】ごみの量が少なくなるようにしているのには、何か理由があることと思います。次の中から当てはまるものをいくつでも選んで、番号に をつけて下さい。

問14(b)【問14(a)で 3 または 4 を選ばれた方にお聞きします】ごみの量が少なくなるようにしていないのには、何か理由があることと思います。次の中から当てはまるものをいくつでも選んで、番号に をつけて下さい。

1 仙台市がすすめているから
2 近所の人たちがそうしているから
3 長い間の習慣だから
4 近所の目があるから
5 当然のことだと思うから
6 他の人に迷惑をかけたくないから
7 ごみ問題の解決に役立つと思うから
8 その他 具体的に： <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>

1 手間がかかるから
2 近所の人たちがそうしていないから
3 長い間の習慣だから
4 そうしても問題解決に役立たないから
5 問題になっていると思わないから
6 他の人に迷惑がかからないと思うから
7 どうすれば良いか方法が解らないから
8 その他 具体的に： <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>

ここでもう一度、生活や社会についての少し一般的なことをおうかがいします。

問15 仮に、現在の日本の社会全体を、以下に書いてあるように5つの層に分けるとすれば、あなた自身はどれに入るとお考えですか。

1 上	2 中の上	3 中の下	4 下の上	5 下の下
-----	-------	-------	-------	-------

問16 あなたは、次に挙げるような団体に現在加入していらっしゃいますか。 加入している

団体すべての番号に をつけて下さい。加入している団体が何もない方は11に をつけて下さい。

1	町内会、自治会
2	老人クラブ、地域婦人会、青年団
3	商工会、農協、漁協、同業者組合などの団体
4	労働組合
5	スポーツ・趣味・娯楽の団体やサークル、学習・研究サークル
6	政党、政治団体、政治家の後援会
7	宗教団体
8	生協、消費者団体
9	地域運動、住民運動、市民運動などの団体
10	その他
具体的に：	
11	加入している団体はない

問17 次に挙げた意見について、あなたはどのように思いますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に をつけて下さい。

	どちらか といえば		どちらか といえば		そうは 思わない	
	1	2	3	4	5	6
A 政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない	1	2	3	4	5	6
B 政治に熱をいれるよりも自分自身の仕事に精出したほうがよい	1	2	3	4	5	6
C 政治のことはやりたい人にまかせておけばよい	1	2	3	4	5	6
D われわれが少々がんばったところで政治はよくなるものではない	1	2	3	4	5	6

問18 あなたは次に挙げるそれぞれの場において、どのくらい発言力や影響力を持っていますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に をつけて下さい。

	かなりある	どちらかと いえばある	どちらかと いえない	ほとんどない
A 消費者団体や生協	1	2	3	4
B 町内会くらいの範囲の 地域社会の人々	1	2	3	4
C 仙台市の政策	1	2	3	4

問19 あなたは次に挙げる人々と、どの程度のおつきあいがありますか。それぞれについて、あなたの場合にもっとも近いものの番号に をつけて下さい。

	かなり つきあいが ある	少しは つきあいが ある	つきあいはないが 会おうと思えば 知り合いを通して 会うことができる	つきあいは ないし、会う ことは難しい
A 地方議会議員	1	2	3	4
B 市や県の職員	1	2	3	4
C 町内会や自治会など の役員	1	2	3	4
D 大企業（従業員1000人 以上）の企業の経営者 （社長や重役など）	1	2	3	4

問20 支持している政党とは別に、人には好きな政党もあれば嫌いな政党もあると思います。次の政党は、好きか嫌いかに分けるとするとどちらでしょうか。次の中から、好きなほうに入る政党をいくつでも選んで番号に をつけて下さい。好きなほうに入る政党が一つもない場合は11に をつけて下さい。

1 自民党	10 その他	具体的に：
2 社会党		
3 新生党		
4 公明党		
5 日本新党		
6 新党さきがけ		
7 共産党		
8 民社党		
9 社会民主連合	11 どの政党も好きではない	

問24 あなたはトイレットペーパーやティッシュペーパーを買う場合、どのようなことを重視していますか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んで、番号に をつけて下さい。

- 1 特に何も考えず、目についたものを買う
- 2 値段が安いこと
- 3 デザイン・色がよいこと
- 4 再生紙を使った商品であること
- 5 メーカー名
- 6 品質・機能がよいこと
- 7 エコマークがついていること
- 8 広告（テレビコマーシャル等）している商品であること
- 9 その他 具体的に：

問25 あなたは、粗大ごみを出すときに何か不便を感じたり、困ったりしたことがありますか。次の中から、当てはまるものをいくつでも選んで、番号に をつけて下さい。

- 1 集積所が遠く、ごみを運ぶのがたいへんだ
- 2 高層住宅に住んでいるので、ごみを運ぶのがたいへんだ
- 3 家には力のある人がいないので、ごみを運ぶのがたいへんだ
- 4 収集日がわからず、ごみを出しそびれた
- 5 朝早く出さなければならないので、ごみを出すのがたいへんだ
- 6 収集回数が少ないので、保管しておくのがたいへんだ
- 7 住んでいる地区では粗大ごみの収集をおこなっていない
- 8 その他 具体的に：
- 9 不便を感じたり、困ったりしたことはない

問26(a) 仙台市では、家庭ごみなどを無料で収集し、その費用を税金でまかっています。このような方法では、住民がどのような基準で費用を負担していることになっているとお思いですか。あなたのお考えにもっとも近いもの一つに をつけて下さい。

1	それぞれの世帯が、同じ金額ずつ負担している
2	人数の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担している
3	収入の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担している
4	ごみ排出量の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担している
5	その他 具体的に： <div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 500px;"></div>

問26(b) では、そのような費用の負担方法について、あなたは公平だと思えますか、それとも公平でないと思えますか。

1	公平だ
2	どちらかといえば公平だ
3	どちらかといえば公平でない
4	公平でない

問27 現在の負担の仕方はともかくとして、ごみの収集・処理に必要な費用を、住民はどのような基準で負担するのが公平だと思えますか。「家庭ごみ」と「粗大ごみ」についてそれぞれ、あなたのお考えにもっとも近いもの一つに をつけて下さい。

A 家庭ごみ

1	それぞれの世帯が、同じ金額ずつ負担する
2	人数の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担する
3	収入の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担する
4	ごみ排出量の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担する
5	その他 具体的に： <div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 200px;"></div>

B 粗大ごみ

1	それぞれの世帯が、同じ金額ずつ負担する
2	人数の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担する
3	収入の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担する
4	ごみ排出量の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担する
5	その他 具体的に： <div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 200px;"></div>

問28 現在の仙台市ではごみの収集・処理事業に、平均すると一人当たり一か月に約900円（年間1万1千円程度）かかっています。この費用を、住民はどのように負担するのが良いとお考えですか。「家庭ごみ」と「粗大ごみ」について、それぞれどのような負担方法が良いか、下の「-----」の中からあなたのお考えにもっとも近いもの一つを選んで、の中に番号を記入して下さい。

A 家庭ごみ
↑

B 粗大ごみ
↑

-
- 1 費用のすべてを、税金でまかなう
 - 2 費用の多くは税金でまかない、一部は有料化して住民が直接負担する
 - 3 費用の半分は税金でまかない、半分は有料化して住民が直接負担する
 - 4 費用の一部は税金でまかない、多くは有料化して住民が直接負担する
 - 5 費用のすべてを、有料化して住民が直接負担する
-

問29 ごみの収集・処理費用を有料化することは、ごみ問題への関心を高め、ごみを減らすことにつながると考えられています。しかし、こうした望ましい効果ばかりでなく、何らかの望ましくない影響もあるかもしれません。あなたは、ごみの収集や処理を有料化すると、どのような問題がおこると思いますか。下の枠内にいくつでも、具体的にご記入下さい。

具体的に：

問30 いま、あなたはスーパーの日用品売り場にいるとします。そしてあなたの前には次のような2種類のトイレットペーパーがあります。

- 商品A 再生紙を使用していないトイレットペーパー
値段は500円
- 商品B 再生紙を使用したトイレットペーパー（エコマーク商品）
値段は商品Aよりも高めである

2種類のトイレットペーパーは、値段と材料以外は同じです。あなたは『商品B』がいくらまでなら『商品B』を買ってもいいと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いもの一つに をつけて下さい。

また、2番を選んだ方だけはその金額を記入して下さい。

- 1 値段が1000円以上でも『商品B』を買う
- 2 値段が

--	--	--

 円までなら『商品B』を買ってもよい
- 3 同じ金額なら『商品B』を買ってもよい
- 4 再生紙を使用しているかどうかはまったく関係ない

問31 あなたは、ごみ問題の対策として、次に挙げるようなことに、今後、積極的に協力できると思いますか。それとも、協力できないと思いますか。それぞれについて、あなたのお考えにもっとも近いものの番号に をつけて下さい。

- | | 協力
できる | 多分協力
できる | 多分協力
できない | 協力
できない |
|--------------------------------|-----------|-------------|--------------|------------|
| A 過剰包装は断る | 1 | 2 | 3 | 4 |
| B 使い捨ての商品を買わない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| C 古新聞・古雑誌などを、資源回収やちり紙交換に出す | 1 | 2 | 3 | 4 |
| D コンポスト容器（生ごみを堆肥にするための容器）を使用する | 1 | 2 | 3 | 4 |

問32 あなたは、次に挙げるようなものがいらなくなったとき、どのように処分していますか。以下の「」枠の中から処分の仕方を1つ選んで、の中に番号を記入して下さい。

- A 大型家電製品（テレビ、冷蔵庫など）
- B 中型家電製品（ラジカセ、トースターなど）
- C 小型家電製品（携帯用カセットレコーダー、電気ひげそりなど）
- D 暖房機器（石油ストーブ、ファンヒーターなど）
- E 原動機付き自転車（50cc未満のオートバイ、スクーター）
- F 自動車（50ccを超えるオートバイを含む）
- G タイヤ
- H 殺虫剤、農薬、薬品、塗料
- I カセットコンロなどのガスボンベ
- J バッテリー（鉛蓄電池）
- K 消火器



- 1 持っていない、または、捨てようと思ったことはない
- 2 家の物置などに保管してある
- 3 市の通常の家庭ごみ収集に出した
- 4 市の通常の空き缶、空きびんなどの資源ごみ収集に出した
- 5 市が定期的におこなっている粗大ごみ収集の時に出了た
- 6 市またはごみ収集業者に、有料で処分してもらった
- 7 新しいものを買った店に引き取ってもらった
- 8 廃品回収業者やリサイクルショップに出した
- 9 その他 具体的に、処分したものと、処分のしかたを書いて下さい：

問33 あなたは、環境にやさしい商品（エコマーク商品など）について、次のようなことを感じますか。次の中から当てはまるものをいくつでも選んで、番号に をつけて下さい。

1	どのくらい環境保全に役立つのかわからない
2	どんな分野（例：森林資源の減少、オゾン層の破壊）で環境保全に役立つのかわからない
3	商品の品質が悪い
4	商品の値段が高い
5	商品の種類が少ない
6	扱っている店が少ない
7	テレビや雑誌などでの広報活動が足りない
8	相談や質問をする窓口が必要だ
9	その他 具体的に：
10	特に何も感じない

あなたご自身のことについておうかがいします。

問34 あなたの性別と年齢をお答え下さい（当てはまる番号を で囲んで下さい）。

1	女	2	男
---	---	---	---

1	19歳以下	5	35～39歳	9	55～59歳
2	20～24歳	6	40～44歳	10	60～64歳
3	25～29歳	7	45～49歳	11	65～69歳
4	30～34歳	8	50～54歳	12	70歳以上

問35 あなたが最後にいらっしゃった学校（中退も含む）は次の中のどれですか。現在学生の方は、在籍中の学校をお答え下さい。

1	小学校（旧制尋常小学校なども含む）
2	新制中学（旧制高等小学校なども含む）
3	新制高校・高専（旧制中学校なども含む）
4	専門学校（新制高校卒業後入学したもの）
5	短大・高専（旧制高等学校なども含む）
6	大学（大学院も含む）
7	その他 具体的に：

問36 あなた自身のお仕事は大きく分けて以下のどれにあたりますか。

1	無職（専業主婦や学生以外の年金生活者の方など）
2	専業主婦（内職やパート、家族従業をしていない方）
3	学生
4	臨時雇用、パート、アルバイト、内職
5	常時雇用されている一般従業員
6	自営業主または家族従業者
7	経営者（重役）役員
8	その他 具体的に：

ここで、あなたのご家族についておうかがいします。多少、立ち入った質問もごさいますが、プライバシーに関することが外部に漏れることは一切ありませんし、調査結果の分析の際にぜひとも必要ですので、お答え下さいますようお願いいたします。

問37 あなたが仙台市で一緒にお住まいになっているご家族には、次の年代の方が何人いらっしゃいますか。あなた自身も含めてお答え下さい。なお、単身赴任などで別居されているご家族がいらっしゃる場合は、その方を除いて、お答え下さい。

0 ~ 5 歳	()	人
6 ~ 12 歳	()	人
13 ~ 19 歳	()	人
20 ~ 29 歳	()	人
30 ~ 39 歳	()	人
40 ~ 49 歳	()	人
50 ~ 59 歳	()	人
60 歳以上	()	人

問38 現在同居されている家族全体（ただし、単身赴任、出稼ぎの方は含めてお答え下さい）で、昨年1年間（1992年1月～12月）のお宅の収入は、税込みでいくらくらいでしょうか。

【お祈い！！】

学生などの方で一人暮らしをされており、どなたかから仕送りを受けている場合には、仕送りも含めた、あなたご自身の収入をお答え下さい。

1	100万円 未満	7	600万円 以上	700万円 未満	
2	100万円 以上	200万円 未満	8	700万円 以上	800万円 未満
3	200万円 以上	300万円 未満	9	800万円 以上	900万円 未満
4	300万円 以上	400万円 未満	10	900万円 以上	1000万円 未満
5	400万円 以上	500万円 未満	11	1000万円 以上	1100万円 未満
6	500万円 以上	600万円 未満	12	1100万円 以上	

問39 ご家族の中で、一番収入の多い方のお仕事について、いくつかうかがいます。

単身赴任や出稼ぎなどで一緒にお住みでない方も含めて、お宅で一番収入の多い方についてお答え下さい。
ただし、学生などの方で一人暮らしをされており、別居のご家族から仕送りを受けている場合には、仕送りをしていての方についてではなく、あなたご自身についてお答え下さい。

A. その方は、あなたにとってどのような関係の方ですか。

1 本人
2 夫または妻
3 父または母（義理の関係も含む）
4 子供（義理の関係も含む）
5 その他
具体的に：

B. その方のお仕事は大きく分けて以下のどれに当たりますか。

1 無職（専業主婦や学生以外の年金生活者の方など）	次ページの【お願い】へお進み下さい
2 専業主婦（内職やパート、家族従業をしていない方）	
3 学生	
4 臨時雇用、パート、アルバイト、内職	
5 常時雇用されている一般従業員	
6 自営業主または家族従業者	
7 経営者（重役）役員	
8 その他	
具体的に：	

C. 従業員（雇われている人）は、「会社」全体で何人くらいですか。

1 なし	5 100～999人
2 1～9人	6 1000人以上
3 10～29人	7 官公庁（公務員）
4 30～99人	

D. その方は従業先でどのような仕事をしておられるのですか。どこに分類できるかわからない場合は、7 に つけ、具体的な仕事内容を書いて下さい。

- 1 管理的職業（企業・官公庁における課長職以上のもの）
- 2 事務的職業（庶務・人事・経理などの事務一般など）
- 3 販売的職業（小売業、卸し、不動産仲介、保険外交などを含む）
- 4 熟練・労務的職業（理容師、調理師、工員、運転手、警備員、建設作業員など）
- 5 専門的職業（医師、弁護士、教師、技術者など専門的知識を要するもの）
- 6 農林水産業（ただし、第二種兼業や農水産物加工は含まない）
- 7 その他

具体的に：

これで質問は終わりです。長い間、面倒な質問にお答えいただき、まことにありがとうございました。

【お嬉しい!!!】

大変恐縮ですが、初めに戻って、記入漏れや書き間違いがないかどうか、ご確認をお願いします。

皆様からいただいたお答は貴重な資料として活用させていただきます。なお、この調査についてのご意見や感想、「生活と環境」に関するご意見などを、下にご記入いただければ幸いです。書ききれない場合は、余白や裏面にお書きになっても結構です。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

付録4.4. 単純集計表

1. 質問文は内容を損なわない範囲で簡略化した。質問文の詳細は付録4.3.の調査票を参照されたい。
2. 表中の数字は特に断りがない限り%値である。
3. 100%が何人にあたるかは、%の基数として示した。
4. 注で「複数回答」とあるものは質問文中で「当てはまるものをいくつでも選んで」と指定している問で、答えられているものの割合であり、特に断りがない限り%の基数は1228である。

問1 現在の自分の生活に満足していますか。

	%
満足している	18.6
どちらかといえば満足している	56.4
どちらかといえば不満である	18.2
不満である	6.4
D K / N A	0.4
計	100.0
(%の基数)	(1228)

問2 自然と人間との関係について、真実に近いと思うのはどの意見ですか。

	%
自然に従わなければならない	43.1
自然を利用しなければならない	53.0
自然を征服しなければならない	3.1
D K / N A	0.8
計	100.0
(%の基数)	(1228)

問3 今の日本社会は公平だと思いますか。

	%
公平だ	1.8
だいたい公平だ	25.7
あまり公平でない	50.0
公平でない	22.1
D K / N A	0.4
計	100.0
(%の基数)	(1228)

問4 ごみ問題心配度

	A 大量ごみ	B 財政圧迫	C 使い捨て
非常に心配だ	57.4	33.5	68.2
少しは心配だ	38.1	49.5	27.4
あまり心配でない	3.4	13.8	2.9
全く心配でない	0.6	2.2	0.7
D K / N A	0.5	1.0	0.8
計	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問5 透明袋への賛否

	%
透明袋がよい	43.2
どちらかといえば透明がよい	29.0
どちらかといえば不透明がよい	21.7
不透明がよい	5.3
D K / N A	0.7
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問6 ごみ問題対処行動有効性

	A 過剰包装は断る	B 使い捨て商品不買	C 資源回収	D コンポスト容器
非常に役立つ	46.5	34.4	59.7	34.1
少しは役立つ	38.6	47.4	35.1	45.0
あまり役立たない	10.5	13.3	3.2	15.8
全く役立たない	3.4	3.2	1.2	3.0
D K / N A	1.0	1.7	.8	2.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問7 ごみ問題対処行動手間意識

	A 過剰包装は断る	B 使い捨て商品不買	C 資源回収	D コンポスト容器
非常に手間がかかる	14.7	9.5	7.8	22.2
少しは手間がかかる	22.3	33.3	44.3	46.2
あまり手間がかからない	33.1	36.0	34.1	22.0
全く手間がかからない	28.6	18.9	12.1	6.9
D K / N A	1.2	2.3	1.6	2.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問8 現在使っている家庭ごみの排出容器

	%
バケツにごみを直接	3.3
バケツに指定袋	11.7
バケツに指定買物袋	11.2
バケツに指定以外の袋	7.1
市販の指定袋	74.3
指定買物袋	52.1
指定以外の袋	5.5
コンテナボックス	6.1
すべて自家処理	1.2
その他	5.5

注：複数回答

問9 透明袋に感じること

	%
ごみが他人に見えてしまう	38.0
集積所が汚く見える	12.9
危険ごみを出す人が減る	70.1
資源ごみを出す人が減る	50.1
営業ごみを出す人が減る	27.6
黒い袋よりも清潔に見える	25.8
その他	4.5
特に何も感じない	6.1

注：複数回答

問10 ごみ処理施設建設の際、賛成のために必要な条件

	%
賛成しない	11.5
無条件賛成	2.5
事前に説明	60.9
必要だと納得できる	39.7
他の場所と比較の結果	22.6
公害・事故がない	82.2
周辺住民に利益	46.6
ごみ減量対策実施	32.5
その他	2.0

注：複数回答

問11 仮に、あなたの住んでいる地域にごみ処理施設が建設されることになったなら、あなたは、自分の意見を政策に反映させるためにどのような行動をとると思いますか。

	%
何もしない	39.3
行政などの説明会に参加	9.1
説明会以外に行政に意見を言う、質問をする、話し合う	4.9
町内会・自治会などで話し合う	4.8
(場所、相手は特定せず)話し合う、説明を求める	4.7
地域・住民運動、市民運動、反対運動などに参加	3.5
署名運動を始める、署名に応じる	3.0
近所、地域の人、周辺住民と話し合う、相談する	2.9
議員に相談する	1.0
投票時に候補の意見を考慮	0.4
地元の有力者に相談	0.2
マスコミに投書など	0.2
地域・住民運動、市民運動、反対運動などに相談	0.1
条件 公害、事故がない	7.9
条件 周辺住民に利益	4.2
条件 施設を作る側から、事前に十分な説明がある	3.7
条件 ごみ減量対策を講じる	2.0
条件 施設が必要だと納得できる	1.9
条件 他の場所と比較の結果である	1.3
その他	12.9
DK / NA	15.8

注：自由回答を分類し、複数回答形式で集計

問12A コンポスト容器の使用

	%
使っている	7.1
持っているが、使ってはいない	2.0
まだ持っていないが使いたいと思う	32.4
使うつもりはない	56.4
D K / N A	2.0
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問12B コンポスト容器使用の理由

	%
市がすすめているから	12.6
近所の人が使っているから	2.3
長い間の習慣だから	21.8
近所の目があるから	0.0
当然のことだと思うから	26.4
他の人に迷惑をかけたくないから	9.2
ごみ問題の解決に役立つと思うから	71.3
堆肥が使えるから	37.9
その他	4.6

問12B コンポスト容器不使用の理由

	%
手間がかかるから	15.0
お金がかかるから	18.6
近所の人が使っていないから	8.0
使う習慣がないから	30.3
使ってもごみが減ると思わないから	5.9
生ごみがあまりでないから	16.8
他人に迷惑がかからないと思うから	4.5
容器の性能が良くないから	4.0
コンポスト容器を置場所がないから	48.8

注：複数回答で、%の基数は1116

問13 エコマーク商品との接触度

	%
エコマークを目安にして商品購入	9.1
エコマーク商品の購入経験有り	54.6
エコマークの存在は知っている	14.7
エコマークについて全く知らない	20.9
D K / N A	0.7
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問14A ごみ減量行動の実施

	%
必ずそうしている	15.7
たいていそうしている	60.6
している	1.6
あまりしていない	18.5
まったくしていない	3.1
していない	0.2
D K / N A	0.2
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問14B ごみ減量行動実行の理由

	%
市がすすめているから	9.9
近所の人がそうしているから	4.7
長い間の習慣だから	35.8
近所の目があるから	0.4
当然のことだと思うから	65.2
他の人に迷惑をかけたくないから	15.7
ごみ問題の解決に役立つと思うから	63.8
その他	8.2

注：複数回答で、%の基数は957

問14B ごみ減量行動不実行の理由

	%
手間がかかるから	36.2
近所の人たちがそうしていないから	2.6
長い間の習慣だから	35.1
問題解決に役立たないから	6.0
問題になっていると思わないから	3.0
他人に迷惑がかからないと思うから	4.9
方法がわからないから	27.2
その他	19.0

注：複数回答で、%の基数は268

問15 日本社会を5つの層に分けるとすれば、あなた自身はどこに入りますか。

	%
上	1.3
中の上	24.2
中の下	52.6
下の上	16.4
下の下	4.0
D K / N A	1.5
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問16 回答者の組織加入

	%
町内会、自治会	68.9
老人クラブ、地域婦人会、青年団	9.0
商工会、農協、漁協など	6.7
労働組合	7.8
スポーツ・趣味の団体、学習団体	30.8
政党、政治団体、政治家の後援会	4.4
宗教団体	5.5
生協、消費者団体	37.6
地域運動、住民運動などの団体	2.1
その他	1.3
加入している団体はない	13.7

注：複数回答

問17 政治的有効性感覚

	政治は難しすぎて自分には理解できない	政治より自分の仕事に精出したほうがよい	政治はやりたい人にまかせておけばよい	がんばったところで政治はよくなるものではない
そう思う	12.2	19.3	8.6	25.8
どちらかといえばそう思う	39.8	46.5	26.6	33.9
どちらかといえばそう思わない	25.9	18.2	29.4	20.8
そうは思わない	20.7	13.8	33.0	17.8
D K / N A	1.4	2.1	2.4	1.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問18 あなたは次に挙げる場において、どのくらい発言力や影響力を持っていますか。

	消費者団体や生協	地域社会の人々	仙台市の政策
かなりある	3.8	3.3	3.5
どちらかといえばある	15.7	21.2	9.2
どちらかといえばない	21.5	31.2	19.3
ほとんどない	57.2	42.8	65.8
D K / N A	1.7	1.5	2.2
計	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問19 あなたは次に挙げる人々と、どの程度のおつきあいがありますか。

	地方議会議員	市や県の職員	町内会や自治会の役員	大企業の経営者
かなりつきあいがある	1.2	5.1	7.7	1.4
少しはつきあいがある	11.6	20.1	28.8	7.8
知人を通して会うことができる	21.3	26.3	30.5	17.3
会うことは難しい	64.6	46.7	31.9	71.6
D K / N A	1.3	1.7	1.1	2.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問20 好きな方に入る政党をいくつでも挙げて下さい。

	%
自民党	21.2
社会党	11.3
新生党	23.0
公明党	3.3
日本新党	25.9
新党さきがけ	18.2
共産党	5.7
民社党	7.7
社会民主連合	6.9
その他	2.4
どの政党も好きではない	38.4

注：複数回答

問21 行政が住民のためにおこなう事業の経費を住民が負担する場合に、次の基準はそれぞれの程度、公平だと思いますか。

	受けるサービスに応じて負担する	誰もが同じ額を負担する	収入に応じて負担する
公平だ	17.7	7.2	33.2
どちらかといえば公平だ	38.5	18.9	43.4
どちらかといえば公平でない	27.3	36.8	13.8
公平でない	13.8	33.3	6.8
D K / N A	2.7	3.7	2.9
計	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問22 ごみ問題対処行動規範意識

	A 過剰包装は断る	B 使い捨て商品不買	C 資源回収	D コンポスト容器
実行すべき	48.7	23.9	73.5	14.2
なるべく実行すべき	46.7	65.2	24.4	64.1
あまり実行すべきでない	2.8	7.7	1.1	16.4
実行すべきでない	1.1	1.5	0.2	2.4
D K / N A	0.7	1.5	0.7	3.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問23 他者のごみ問題対処行動の認知

	A 過剰包装は断る	B 使い捨て商品不買	C 資源回収	D コンポスト容器
かなりの人が実行している	1.8	1.5	19.3	0.8
実行している人の方が多い	11.7	8.7	57.2	4.3
実行している人は少ない	68.9	64.9	21.2	60.7
ほとんどの人が実行していない	16.4	23.5	1.4	32.2
D K / N A	1.2	1.3	1.0	2.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問24 商品購入の基準

	%
目についたもの	11.2
値段が安いこと	75.8
デザイン・色がよいこと	5.7
再生紙を使った商品であること	31.7
メーカー名	16.8
品質・機能がよいこと	48.8
エコマークがついていること	12.1
広告している商品であること	3.2
その他	2.4

注：複数回答

問25 粗大ごみ排出時に困ること

	%
集積所が遠い	29.6
高層住宅で排出困難	5.0
力のある人がいない	15.0
収集日わからない	19.0
朝早く出さねばならない	27.4
収集回数が少ない	42.1
住んでいる地区で収集ない	1.3
その他	4.4
不便や困ったことない	27.1

注：複数回答

問26A 現在の仙台市ではごみの収集・処理費用を
住民がどのように負担していると思いますか。

	%
各世帯が同じ額を負担している	52.6
世帯の人数に応じて負担している	10.0
世帯の収入に応じて負担している	31.8
ごみ排出量に応じて負担している	2.5
その他	2.0
DK / NA	1.0
計	100.0
(%の基数)	(1228)

問26B では、そのような費用の負担方法についてあなたは公平だと思いますか。

	%
公平だ	23.5
どちらかといえば公平だ	45.1
どちらかといえば公平でない	21.4
公平でない	8.1
DK / NA	1.9
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問27A 家庭ごみの収集・処理費用を、どのような基準で負担するのが公平だと思いますか。

	%
各世帯が同じ額を負担する	31.5
世帯の人数に応じて負担する	18.2
世帯の収入に応じて負担する	17.9
ごみ排出量に応じて負担する	30.0
その他	1.5
DK / NA	0.9
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問27B 粗大ごみの収集・処理費用を、どのような基準で負担するのが公平だと思いますか。

	%
各世帯が同じ額を負担する	18.8
世帯の人数に応じて負担する	7.7
世帯の収入に応じて負担する	11.2
ごみ排出量に応じて負担する	56.9
その他	4.2
DK / NA	1.2
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問28A 家庭ごみの収集・処理費用を、どのような方法で負担するのが良いと思いますか。

	%
すべて税金でまかなう	59.5
一部は有料化する	22.2
半分は有料化する	8.3
多くは有料化する	4.5
すべて有料化する	4.6
D K / N A	0.9
計	100.0
(%の基数)	(1228)

問28B 粗大ごみの収集・処理費用を、どのような方法で負担するのが良いと思いますか。

	%
すべて税金でまかなう	22.4
一部は有料化する	26.1
半分は有料化する	13.2
多くは有料化する	15.6
すべて有料化する	18.6
D K / N A	4.2
計	100.0
(%の基数)	(1228)

問29 ごみ収集・処理を有料化するとどのような問題がおこると思いますか。

	%
不法投棄が増える	39.7
ごみを分別しなくなる	1.5
ルール違反が増える	4.1
実施するには手間がかかる	5.7
市民の負担が増える	2.4
公平な基準を決めるのが難しい	6.7
自家焼却が増えて大気が汚染される	0.7
自家焼却が増えて近所に迷惑だ	1.5
その他	14.1
D K / N A	40.9

注：自由回答を分類し、複数回答形式で集計

問30 コスト負担の限界

	%
1000円以上でも『商品B』を買う	0.9
501～999円なら『商品B』を買う	13.9
500円なら『商品B』を買う	62.9
500円未満なら『商品B』を買う	8.9
再生紙の使用は意識しない	11.2
絶対に『商品A』を買う	1.1
絶対に『商品B』を買う	0.1
DK / NA	1.1
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問31 ごみ問題対処行動協力可能性

	A 過剰包装は断る	B 使い捨て商品不買	C 資源回収	D コンポスト容器
協力できる	51.0	25.4	76.1	15.1
多分協力できる	39.6	55.9	18.1	29.9
多分協力できない	7.0	15.2	3.6	35.4
協力できない	.9	1.9	1.0	17.3
DK / NA	1.5	1.6	1.2	2.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問32 処理困難物の処分法（1）

	A 大型家電製品	B 中型家電製品	C 小型家電製品	D 暖房機器
持っていない、捨てたことない	2.0	2.9	3.4	2.4
家に保管してある	18.0	20.8	26.5	22.0
通常のごみ	2.8	7.8	7.9	6.8
通常のリサイクル	0.2	3.5	15.7	0.7
粗大ごみ収集	0.2	2.3	10.7	0.5
有料で処分	15.2	44.7	26.1	40.7
新品を買った店へ	3.7	3.4	1.9	4.5
回収業者などに出した	52.5	9.0	4.6	17.8
その他	3.3	3.7	2.2	3.0
DK/NA	2.0	1.9	1.0	1.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問32 処理困難物の処分法（2）

	E 原付き自転車	F 自動車	G タイヤ	H 殺虫剤、農薬、
塗料				
持っていない、捨てたことない	4.1		3.7	4.6
家に保管してある	53.1	3.8	32.8	43.6
通常のごみ	3.0	39.2	11.5	9.8
通常のリサイクル	0.2	1.1	0.2	12.8
粗大ごみ収集	0.2	0.2	0.3	20.6
有料で処分	12.1	3.4	5.0	3.6
新品を買った店へ	2.8	2.0	6.6	1.9
回収業者などに出した	18.3	45.4	34.3	0.7
その他	4.4	3.1	3.7	0.8
DK/NA	1.9	1.9	1.8	1.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問32 処理困難物の処分法（3）

	I ガスボンベ	J バッテリー	K 消火器
持っていない、捨てたことない	4.4	4.3	4.8
家に保管してある	38.9	41.5	56.1
通常のごみ	4.2	6.1	7.9
通常のリサイクル	9.6	3.4	0.2
粗大ごみ収集	27.6	14.1	1.5
有料で処分	7.0	5.5	5.7
新品を買った店へ	2.3	2.3	2.7
回収業者などに出した	3.7	15.3	17.8
その他	1.2	6.1	1.1
DK/NA	1.1	1.4	2.0
計	100.0	100.0	100.0

注：%の基数はすべて1228

問33 環境に優しい商品に対する不満

	%
役立つ程度がわからない	55.0
役立つ分野がわからない	38.5
商品の品質が悪い	4.4
商品の値段が高い	16.6
商品の種類が少ない	26.3
扱っている店が少ない	21.6
広報活動が足りない	45.1
相談・質問の窓口が必要だ	9.2
その他	2.9
特に何も感じない	6.0

注：複数回答

問34A 回答者の性別

	%
女性	70.6
男性	28.7
D K / N A	0.7
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問34B 回答者の年齢

	%
19歳以下	2.1
20～24歳	10.3
25～29歳	9.2
30～34歳	8.1
35～39歳	11.4
40～44歳	13.5
45～49歳	10.1
50～54歳	10.6
55～59歳	7.0
60～64歳	5.4
65～69歳	5.4
70歳以上	5.9
D K / N A	0.3

注：複数回答

問35 回答者の学歴

	%
小学校	2.0
新制中学校	9.0
新制高校	41.9
専門学校	14.3
短大・高専	12.9
大学	18.5
その他	0.3
D K / N A	1.2
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問36 回答者の従業上の地位

	%
無職	12.3
専業主婦	26.0
学生	5.8
臨時雇用、パート、アルバイト	12.7
常時雇用されている一般従業員	29.8
自営業主、家族従業員	8.9
経営者、役員	3.3
D K / N A	0.5
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問37 回答者の同居家族数

	%
1人	28.7
2人	19.7
3人	16.5
4人	18.2
5人以上	16.9
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問38 回答者の世帯収入

	%
100万円未満	2.9
100万円以上200万円未満	11.3
200万円以上300万円未満	11.2
300万円以上400万円未満	9.9
400万円以上500万円未満	11.7
500万円以上600万円未満	10.7
600万円以上700万円未満	7.3
700万円以上800万円未満	6.4
800万円以上900万円未満	5.9
900万円以上1000万円未満	4.8
1000万円以上1100万円未満	4.4
1100万円以上	9.3
D K / N A	4.3
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問39A 家計支持者との続柄

	%
本人	41.0
夫または妻	48.5
父または母	3.1
子供	4.8
その他	0.8
D K / N A	1.9
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問39B 家計支持者の従業上の地位

	%
無職	8.6
専業主婦	0.4
学生	5.2
臨時雇用、パート、アルバイト	3.3
常時雇用されている一般従業員	61.2
自営業主、家族従業員	11.4
経営者、役員	6.1
その他	0.6
D K / N A	2.9
計 (%の基数)	100.0 (1228)

問39C 家計支持者の従業先の規模

	%
なし	6.0
1～ 9人	14.1
10～ 29人	7.8
30～ 99人	12.7
100～999人	21.8
1000人以上	18.4
官公庁（公務員）	11.7
D K / N A	7.5
計 (%の基数)	100.0 (1053)

問39D 家計支持者の職業

	%
管理的職業	18.0
事務的職業	14.3
販売的職業	17.3
熟練・労務的職業	19.8
専門的職業	21.5
農林水産業	0.9
その他	2.1
D K / N A	6.1
計 (%の基数)	100.0 (1053)

付録4.4. 単純集計表

1. 質問文は内容を損なわない範囲で簡略化した。質問文の詳細は付録4.1.の調査票を参照されたい。
2. 表中の数字は特に断りがない限り%値である。
3. 100%が何人（何票？）にあたるかは、%の基数として示した。
4. 注で「複数回答」とあるものは質問文中で「当てはまるものをいくつでも選んで」と指定している問
で、答えられているものの割合であり、%の基数は1228である。

付録4.5. 回収時の訪問票、お礼状

注)「訪問票」は、調査票未回収の対象者を調査員が訪問した際に不在だった場合の連絡に用いたもので、実物はB 6 版緑色である。「お礼状」は、不在の対象者が玄関先などに出しておいてくださった調査票を回収した場合に用いたもので、実物はB 6 版白色である。

様

先日お届けしました「生活と環境に関する仙台市民意識調査」の件で

おうかがいしました、学生調査員の_____です。

11月 日(午前・午後) 時にうかがいしましたがご不在のようですので、

改めて 11月 日(午前・午後) 時ごろに、おうかがいします。

どうか調査の主旨をご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。

<お問い合わせ先>

生活環境研究会 調査用臨時電話 213-9933 (11月15日まで)

*なお、上記の日時にご不在の場合は、ご記入いただいた質問用紙を郵便受けなど目立つところに置いて下さっても結構です。

御 礼 状

このたびは、「生活と環境に関する仙台市民意識調査」にご協力いただき、まことに有り難うございました。ご協力いただいた御礼として、粗品を置いて参ります。
なお調査結果につきましては、集計が終了後、速報を郵送いたします。

11月 日

時 分

生活環境研究会(東北大学行動科学研究室内)

学生調査員 _____

付録4.6. 調査のお礼と結果のお知らせ (回答者への速報)

注) 実際には1ページをB5版で作成。

生活と環境に関する仙台市民意識調査

調査のお礼と結果のお知らせ

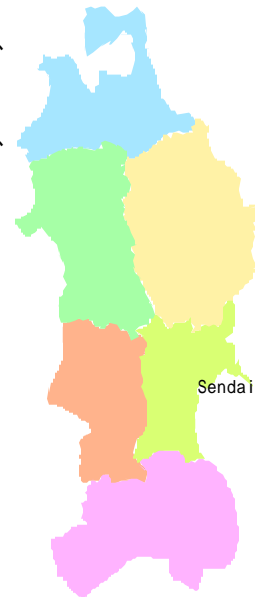
1994年 1月

調査主体：生活環境研究会
(代表：東北大学文学部教授
海野道郎)

先日は、私どもで実施させていただきました「生活と環境に関する仙台市民意識調査」にご協力いただき、まことにありがとうございました。皆様のご理解により、貴重な調査結果を得ることができ、深く感謝しております。

このたび、調査結果のお知らせを作成いたしましたので、どうぞご覧ください。このお知らせは、調査結果の値に基づき、主な項目について結果を要約したものです(ただし、結果は確定前の速報値ですので、後ほど一部修正の可能性もあります)。今後、さらに調査結果をまとめた後、詳しい分析を行う予定であります。

私ども生活環境研究会では、これまで数回の環境問題に関する調査研究を続けてまいりました。今までの研究結果の蓄積をふまえて今回の調査を分析することによって、環境問題の解決にむけて、少しでも貢献できればと考えております。



内容をご覧になるにあたって

- 1) 各グラフの数字は、とくにことわりがない限り、全回答(1227票)に対するパーセントです。ただし、小数点以下を四捨五入しているので、合計は必ずしも100%になりません。
- 2) DK/NAは、分からない/答えない(Don't Know / No Answer)を表します。
- 3) グラフの数値は速報値ですので、他に引用される場合は生活環境研究会までご連絡ください。

0 . 調査の概要



「生活と環境に関する仙台市民意識調査」

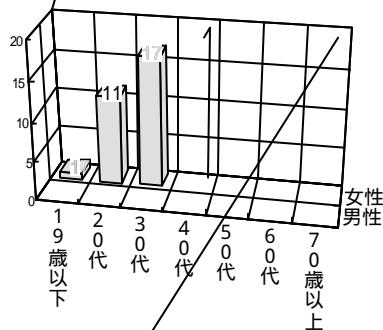
回収期間：1993年11月12日（金）～15日（月）

調査主体：生活環境研究会

調査対象：仙台市内の1500世帯

回収率：1227票（81.7%）

今回の調査では、仙台市内の約36万世帯のうち1500世帯に回答をお願いしました。対象者の抽出にあたっては、仙台市内の小校区122のうち50校区を選び、その後それぞれの校区ごとに住民基本台帳からくじ引きのような方法で30世帯を選ぶ、確率比例抽出法を用いました。



女性 7 割 ・ 男性 3 割

家事を主に担当している方に記入をお願いしたため、回答者の7割は女性です。中でも、30代から50代の女性で回答者の約半数を占めます。男性では20代が最も多くなっています。

専業主婦が4分の1

回答者の4分の1は「専業主婦」です。また、回答者の男性の半数は「常時雇用されている従業員」です。

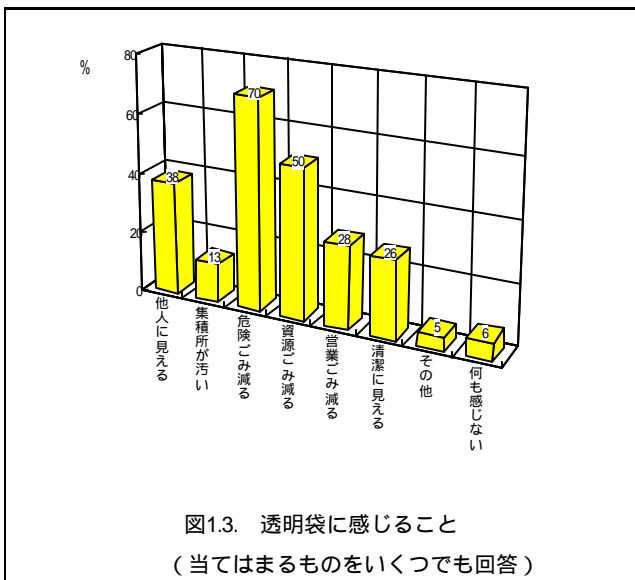
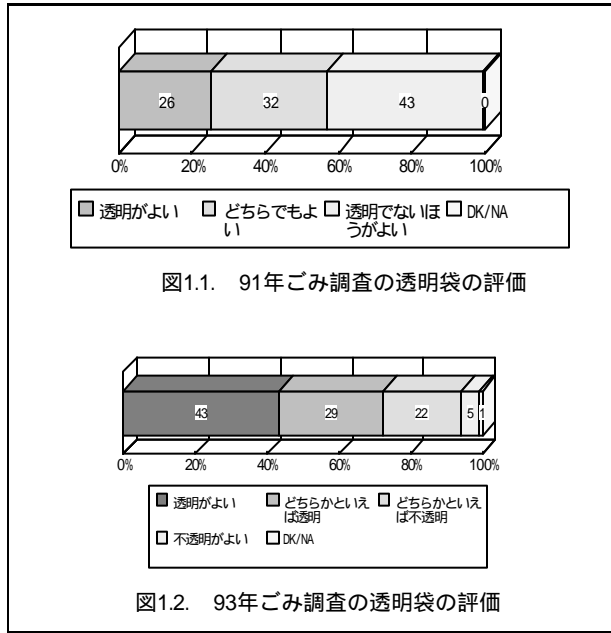
1. 透明袋は受け入れられたか

仙台市では、1991年4月に、市指定の透明なごみ袋が導入されました。2年半ほどたった現在、ごみ処理制度はどのように受け入れられているでしょうか。

透明ごみ袋

賛成派が7割

2年前の当研究会の調査では25%ほどだった透明ごみ袋の賛成派が、今回の調査では70%以上と大幅に増加しました。今回の調査には「どちらともいえない」の選択肢がないので単純な比較はできませんが、91年4月の指定透明袋の導入から2年半以上たち、当初大きかった透明袋への違和感も薄れ、透明袋は市民に受け入れられているようです。



透明袋への意見

危険ごみ、資源ごみが減るといった、肯定的意見が多いようです(それぞれ70%、50%)。しかし、自分のごみが他人に見えてしまうという否定的意見も38%と、それについて多くなっています。

2 . ごみを減らす

戦後、日本は世界でも有数の経済大国に成長しました。しかし、その一方で「ごみ大国」といえるほどに大量のごみを排出するようになっています。いまや、ごみ処理施設は大量のごみにあふれ、その処理費用は自治体の財政を圧迫しています。ごみを減らすことは、現代社会が抱える緊急課題です。

ごみ減量実施は4
分の3

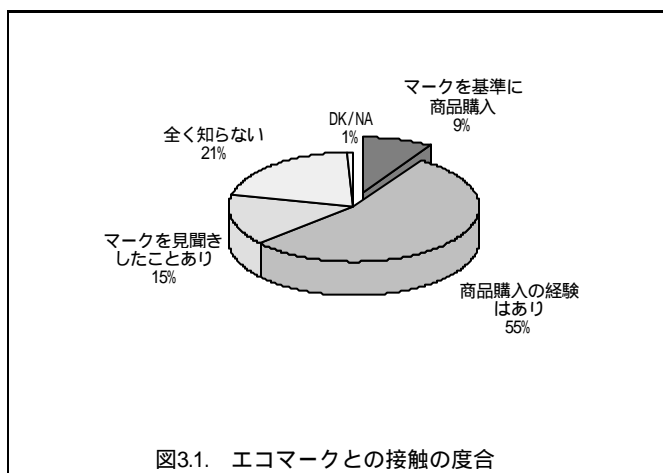
々過剰包装を断政な:撫轄「ますQ \$ i \$ 鈔

3 . 買い物と環境問題

再生紙を使ったトイレトーパー、フロンガスを使わないスプレーなど、環境への影響を考慮して作られた商品が、近年、店先で売られるようになりました。ものを捨てる段階でなく、ものを作る段階、買う段階から環境に配慮するのは大切なことですが、これらの商品は、人々のあいだでどのように受け入れられているのでしょうか。

エコマーク商品を買ったことがある人は6割

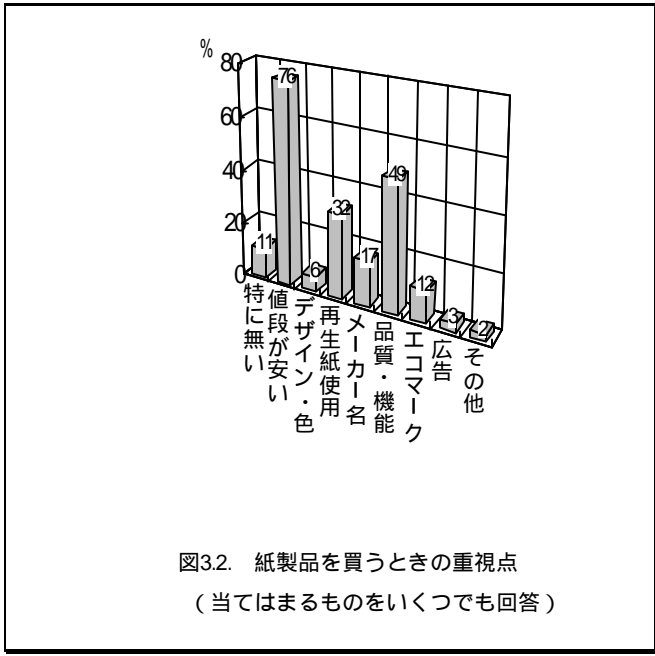
環境に優しい商品につけられるエコマークに、何らかの形で接したことがある人は8割近くにのぼり、実際に商品を買った経験のある人も6割以上という結果になっています。しかし、マークがついているかどうかを基準に商品を買ったことのある人は9%と、まだ少数派のようです。



エコマークとは

環境庁の外郭団体である(財)日本環境協会が、1989年に定めたマークで、ドイツのブルーエンジェルマークという制度を参考に作られ、環境への影響に配慮された商品に付けられます。エコマーク商品には、再生紙を使ったトイレトーパー、分解しやすい洗剤などがあり、1993年12月現在、マーク対象商品の数は約2600種類です。

エコマーク制度の問題点としては、環境に優しいかどうかの基準が不明確、一般の人あまり知られていない、などが指摘されており、現在、見直し作業が進められています。

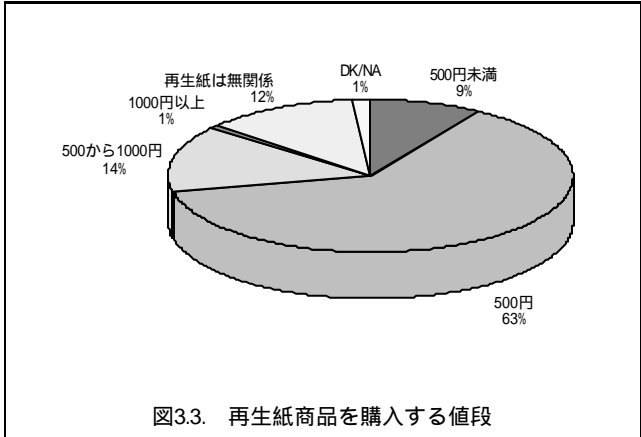


商品を選ぶときの基準は…？

トイレットペーパーやティッシュペーパーを買う場合に重視していることを質問したところ、値段、品質を重視しているという人が各76%、49%と多かったのですが、再生紙を使った商品であることを重視していると答えた人も3割以上いました。

いくらまでなら再生紙商品を買いますか？

再生紙を使ったトイレットペーパー（エコマーク商品）について、再生紙を使わない商品が500円の場合、いくらならば買っても良いと思うかについて質問しました。値段が同じならば買ってもよい、という人が63%で最も多いようです。



過剰包装を断る
多くの人は協力的

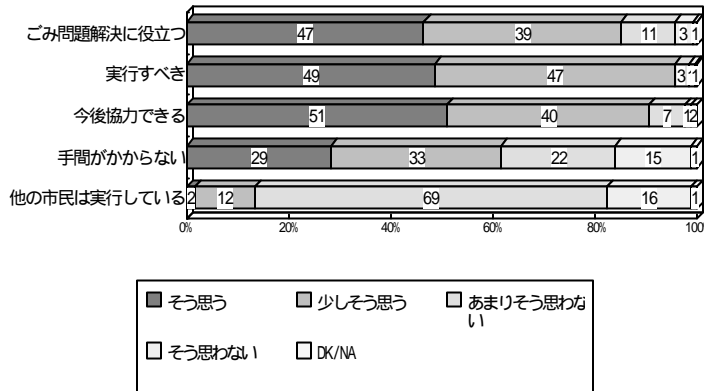


図3.4. 過剰包装への評価

過剰包装を断ることについて、「ごみ問題解決に役立つ」、「実行すべき」と考えている人は多いようです。「今後協力できる」という答えの傾向も、これら2つと同じ様な分布です。それに比べ、「手間がかかる」と感じている人は若干多いようです。

使い捨ての商品を買わない

この回答の傾向も、過剰包装の場合と同様、「ごみ問題解決に役に立つ」、「実行すべき」、「今後協力できる」の回答の傾向は似ていますが、「そう思う」よりも「少しそう思う」と答えている人が多くなっています。

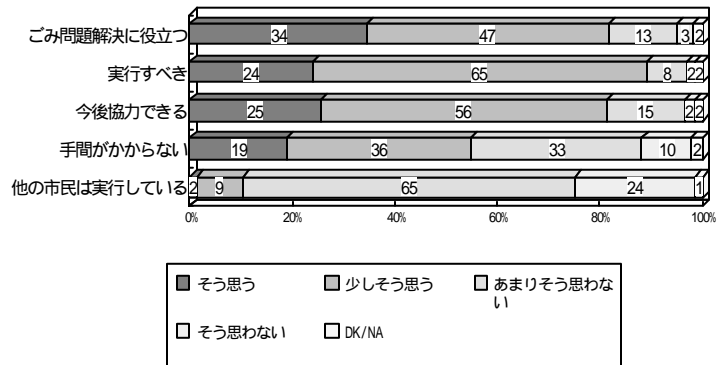


図3.5. 使い捨て商品への評価

4 . 将来を見据えて

ごみ問題の将来を考える上で重要だと思われるテーマを2つ取り上げました。ごみ収集・処理の有料化の問題については「誰がどれだけ負担するか」という公平さの観点と「今まで通り税金でまかなうのか、有料化して市民が直接負担するのか」という負担方法の観点から尋ねています。また、「ごみ処理施設が建設されるとしたら」と状況を設定し、どのような施設建設が求められているのかを探りました。

粗大ごみは「ごみの量に応じて負担」が6割

「ごみの収集・処理費用をどのように負担するのが公平か」という問では、家庭ごみの場合には「各世帯が同じ」(32%)「ごみの量に応じて」(30%)と意見が分かれています。粗大ごみについては「ごみの量に応じて」という意見が多いようです(57%)。家庭ごみは「税金で

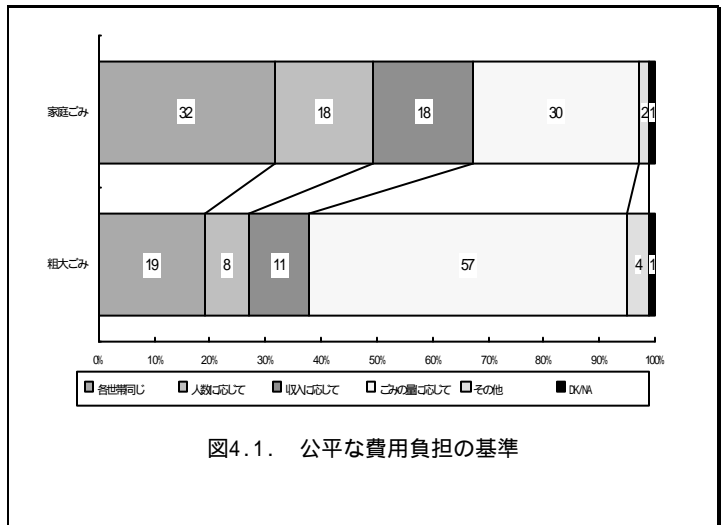


図4.1. 公平な費用負担の基準

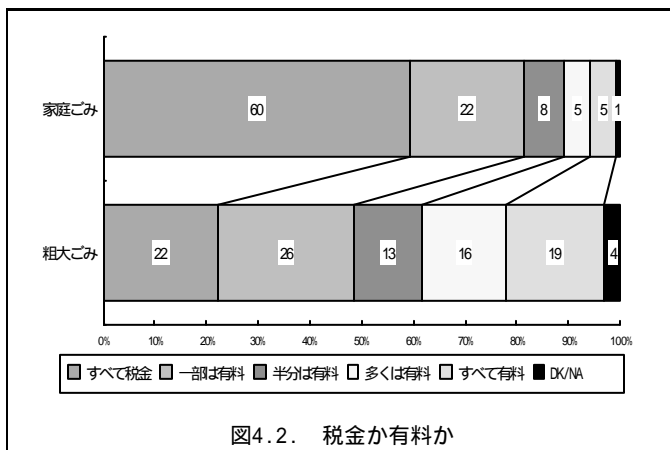


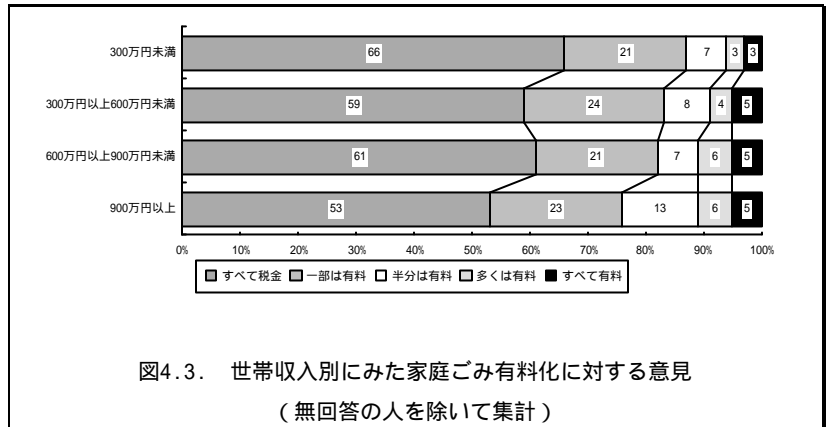
図4.2. 税金か有料か

まかなうべき」が6割

収集・処理費用に関しては、家庭ごみの場合は「すべて税金でまかなう」という意見が多く(60%)、粗大ごみの場合には「一部は有料で」(26%)をはじめ、有料化にやや肯定的な意見が多いようです。

収入の多い家庭では有料化に肯定的

同じ問への回答を世帯収入別にみると、家庭ごみ・粗大ごみのいずれについても、「すべて税金で」という回答の比率は、収入の多い世帯では低く、逆に収入の少ない世帯では高くなっています（図は家庭ごみについての回答）。



有料化：他の自治体では
 環境庁の調査によれば、全国の市町村・特別区の約3割がなんらかの形で有料化を実施しています。有料化した自治体では指定ごみ袋を有料にする、あるいはごみ袋に有料のシールを貼るなどの方法でごみを収集しており、北海道伊達市のように有料化した後に家庭ごみの排出量が減ったという自治体がある一方で、市民の不法投棄が増加したため有料収集を断念した例もあります。

処理施設は公害・事故への対策と事前の説明が重要

「ごみ処理施設が建設されることになった場合、賛成するにはどのような条件が必要か」との問に対し、無条件に賛成・反対の人は少なく(各1%、8%)、ほとんどの人が条件によっては賛成と答えています。必要な条件として挙げられているのは「公害や事故がないこと」(82%)、「事前に十分な説明があること」(61%)などです。

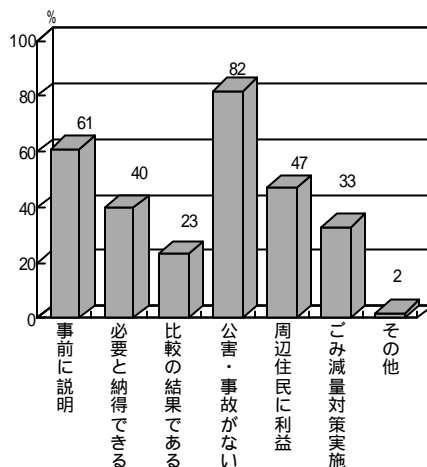


図4.4. 処理施設建設に賛成するための条件
(当てはまるものをいくつでも回答)

仙台市の処理施設は

仙台市の場合、焼却施設5ヶ所、埋立施設2ヶ所の処理施設があり、建設中の葛岡工場も平成7年中に稼働予定です。処理施設による環境に対する被害は報告されていません。また、2つの処理施設では焼却時に発生する熱を利用して給湯・暖房・電力の供給などをおこなっています。

(参考：『平成5年度仙台市環境事業局事業概要』)

5 . まとめと今後の課題

- 1) 透明袋については、導入当初の違和感は薄れ、約7割の人が透明なほうが良いと評価しています。また、危険ごみ、資源ごみが減ると感じている人も多いのですが、自分のごみが他人に見えてしまう、と感じている人も4割ほど存在します。
- 2) 7割強の人が、ごみを減らすための何らかの行動を実行しています。古新聞・古雑誌を資源回収に出すことや、コンポスト容器を使用することについては、「ごみ問題の解決に役立つ」「実行すべき」と考える人が多いのですが、その一方で、「手間がかかる」と考える人も多いようです。
- 3) エコマーク商品を買ったことがある人は6割以上います。また、紙製品を買うときに、再生紙を使っているかどうかを重視する人も3割以上存在します。しかし、値段については、再生紙商品が他のものと同じ値段ならば購入するという人が多いようです。過剰包装を断ることや、使い捨て商品を買わないことについては、多くの人が協力的でした。
- 4) ごみ収集・処理の有料化に関する意見は、「家庭ごみ」と「粗大ごみ」で異なり、「粗大ごみ」の方が肯定的な回答が多くなっています。また、世帯収入の多い世帯ほど有料化に肯定的でしたが、この点については今後、他の属性や意識も含めてより詳しい分析をおこなう必要があります。
- 5) 今後の課題としては、以下のようなことが挙げられます。

以上の集計によって、ごみ問題を中心とする環境問題についての人々の意識や行動の実態が明らかになりましたが、今後は、意識や行動の間の構造や、意識や行動を規定している要因について明らかにすることが必要です。

どのような人がどのような意識を持ち行動を取っているのか、その理由は何か。このことを明らかにするために、人々の意識や行動と、回答者の属性（性別、年齢、職業など）や、社会意識（満足感、公平感、階層帰属意識など）との関連を、統計的な分析法（多変量解析法）を用いて分析を行います。そうすることで、環境問題解決に何らかの形で貢献したいと考えております。

なお、さらに詳しい調査結果の内容をご覧になりたい方は、下記までご連絡ください。今回の調査についてのご感想やご意見・ご希望などありましたら、お寄せいただければ幸いです。

〒980 仙台市青葉区川内 東北大学文学部 行動科学研究室内
生活環境研究会
電話 022-222-1800 内線2671 (担当: 村瀬・阿部・中野)

付録4.7. 仙台市の生活ごみの収集形態

注) 仙台市環境局管理課(編)、1993、『平成5年度 仙台市環境局事業概要』
p.52 表38より抜粋

省略

付録4.8. 調査実施までの日程

調査の日程

1993年

- 0220 「GOMI93の計画」作成
- 0609 企画書作成
- 0610 仙台市環境局と調査に関して話し合い（第1回）
調査の概要、最近のごみ問題の課題、仙台市との協力体制について
- 0618 今回の調査での新たな質問項目について仙台市にFAXで連絡
- 0625 仙台市環境局と調査に関して話し合い（第2回）
仙台市との協力体制、今回の調査での新たな質問項目について
- 0630 「6月以降の週間予定」、「GOMI93調査票の全体構成の検討」作成
- 0727 仙台市環境局より、調査協力について内諾の連絡
- 0809 「調査票の書式案」作成
- 0819 仙台市環境局の調査要望項目、市の調査協力をお願い状について仙台市にFAXで連絡
- 0830 「標本抽出について」メモ作成
- 0831 仙台市環境局へ正式に調査協力依頼
- 0910 質問項目案作成
- 0910 仙台市環境局と調査に関して話し合い（第3回）
標本抽出、質問項目案、今後の日程、仙台市作成の調査実施要領について
- 0913
~ 20 パイロット調査（探索的予備調査）実施
- 0914 調査実施の日程、調査実施要領、調査のタイトルについて仙台市にFAXで連絡
- 0917 仙台市環境局と調査に関して話し合い（第4回）
標本抽出、質問項目案について
- 0924 「研究テーマ案」（調査票の各項目を用いた分析案）作成
- 0927 「調査票（第1次案）」作成、仙台市へ送付
- 0930 標本抽出の概要と手順について仙台市にFAXで連絡
- 1005 仙台市環境局と調査に関して話し合い（第5回）
標本抽出、調査票（第1次案）について
- 1006 「ワーディング（調査票内の言葉づかい）の統一について」作成
- 1008 「調査票（第2次案）」作成、仙台市へ送付
- 1008
~ 15 最終確認的予備調査実施
- 1015 仙台市環境局と調査に関して話し合い（第6回）
標本抽出結果を仙台市より受け取り、調査票案について
- 1018 調査票案の修正について仙台市にFAXで連絡
- 1019 「調査票（第3次案）」作成、仙台市へ送付
- 1020 仙台市環境局より調査票（第3次案）へのコメント
- 1020 「調査票（第4次案）」作成
- 1021 「調査票（完成版）」作成
- 1021 調査票を印刷所へ入稿
- 1021 対象者への調査依頼の葉書発送

- 1022 調査票案の修正について仙台市にFAXで連絡
- 1028 調査票完成
- 1104 調査票発送
- 1112
- ~ 15 調査票回収（本調査実施）
- 1116 データファイルの作成
 - エディティング（調査票の点検、編集）
 - コーディング（回答の符号化）
 - インプット（コンピューターに入力）
- 1201 仙台市環境局へ単純集計表（暫定版）を送付
- 1203 「速報作成について」（回答者への速報の概要、作成方法についての案）作成
- 1221 速報案作成

1994年

- 0111 「調査対象者への調査結果のお知らせ（速報）」について仙台市にFAXで連絡
- 0113 「調査対象者への調査結果のお知らせ（速報）」を印刷所へ入稿
- 0117 「調査対象者への調査結果のお知らせ（速報）」完成
- 0120 「調査対象者への調査結果のお知らせ（速報）」を調査対象者へ発送
- 0131 報告書案作成
- 0202 「報告書構成案」作成
- 0202 仙台市環境局と調査に関して話し合い（第7回）
 - 調査報告書の作成について
- 0208 「報告書（内部検討用の第1次草稿）」作成
- 0214 「報告書（内部検討用の第2次草稿）」作成
- 0214 自由回答形式の質問項目を処理、データファイル作成
- 0224 「報告書案（第1稿）」作成、仙台市へ送付
- 0301 報告書表紙案などについて仙台市にFAXで連絡
- 0310 「報告書案（第2稿）」作成、仙台市へ送付
- 0315 「報告書」完成、仙台市へ送付、仙台市より印刷所へ入稿
- 0330 「報告書」完成

付録4.9. 主要な項目と回答者特性との クロス集計表

- 1 . 質問文は内容を損なわない範囲で簡略化した。質問文の詳細は付録4.3.の調査票を参照されたい。
- 2 . 表中の数字は特に断りがない限り%値である。
- 3 . 100%が何人にあたるかは、%の基数として示した。

省略

平成6年（1994年）3月 発行

生活と環境に関する仙台市民意識調査 報告書

調査実施 平成5年（1993年）11月

調 査

編 集 生活環境研究会

〒980

仙台市青葉区川内無番地

東北大学文学部 行動科学研究室内

電話 022-222-1800 内戦2671

会 員 海野道郎（東北大学文学部教授：代表）

長谷川計二（佛教大学社会学部助教授）

小松洋（松山大学社会学部講師）

土場学（九州大学教養部講師）

潮村公弘（東北大学文学部助手）

村瀬洋一（東北大学大学院博士課程後期：調査幹事）*

安部晃士（東北大学大学院博士課程後期）*

中野康人（東北大学大学院博士課程前期）*

中原洪二郎（東北大学大学院博士課程前期）

大塚恵子（東北大学文学部学生）

* 印は報告書執筆者

調査協力

発 行 仙台市環境局

〒980

仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

仙台市役所

電話 022-214-8251

印刷・製本 コーシン印刷（株） 電話 022-233-0156

PDF化 2001年1月 中野康人